山形県埋蔵文化財調査報告書第184集

石田遺跡
発掘調査報告書

1993

山形県教育委員会

石田（いしだ）遺跡
発掘調査報告書

平成５年３月

山形県教育委員会

遺跡全景（南方より　右が鳥海山）

B区北半部遺構検出状況（北西より）

序

本書は、平成４年度に山形県教育委員会が発掘調査を実施した石田遺跡の調査成果をまとめたものです。

石田遺跡は山形県の北部、秋田県との境界を成す鳥海山の麓となる遊佐町に所在します。遊佐町は出羽富士と呼ばれる鳥海山の麓一帯を行政区画とし、鳥海山の雪解け水を良質の米作に利用し、日本有数の米作地帯であります。

調査では、平安時代の掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構・旧河川跡などの遺構、遺物では土師器・須恵器・赤焼土器・緑釉陶器・石製品・鉄製品・土製品・木製品のほか、中世期の陶器や磁器が出土しています。

埋蔵文化財は私たちの祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な国民的財産であり、一度壊されてしまえば二度と元に戻らないものです。調査により明らかにされた遺跡は過去の生活を彷彿と再現してくれるものです。祖先の歴史を学ぶと共に愛護し、子孫へと保存し伝えていくことが、現代に生きる私たちに課せられた重要な責務と言えるでしょう。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と「地域文化の環境づくり」という立場から、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整を図りながら、埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成５年３月

山形県教育委員会

教育長　木場精耕

例　言

1　本報告書は、山形県農林水産部の委託を受けて、山形県教育委員会が平成4年度に実施した県営圃場整備事業（月光川右岸地区）に係る石田遺跡緊急発掘調査である。

2　発掘調査は平成4年4月23日～同年9月3日までの、延べ95日間である。

3　遺跡は山形県飽海郡遊佐町野沢字石田他に所在する。

4　調査体制は以下の通りである。

調査主体	山形県教育委員会	
調査担当	山形県埋蔵文化財緊急調査団	
調査担当者	事務局長補佐	佐々木洋治
	主任調査員	野尻　侃（調査主任）
	調査員	渡邊　俊一
事務局	事務局長	深瀬　征二
	事務局長補佐	鈴木　常夫
	事務員	渋江正義・松本明美・野本久美子 大内千賀子・志田恵子・長橋陽子

5　本報告書の作成は、野尻　侃・渡邊俊一が担当し、挿図・図版の作成補助には、平泉美和子・渡辺由美子・松田京子・岩田しげ子があたった。本書の編集は野尻　侃・安部　実が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。

6　委託業務は下記の通りである。

遺物写真実測	シン技術コンサル
資料サンプル分析	パリノ・サーヴェイ

7　出土遺物については、山形県教育委員会が一括保管している。

8　発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の機関、方々からご協力、ご助言をいただいた。（順不同、敬称略）

山形県農林水産部　山形県庄内支庁月光川土地改良事務所
山形県教育庁文化課　庄内教育事務所　八幡町教育委員会

凡　例

1　本書で使用した遺構の分類記号は以下の通りである。

ＳＢ　掘立柱建物跡　　ＳＥ　井戸跡　　ＳＧ　旧河川跡　　ＳＫ　土坑　ＳＤ　溝状遺構　　ＳＡ　柱跡列　　ＳＸ　性格不明遺構　　ＥＰ　組合せ不明柱穴　　ＥＢ　建物跡柱跡　とし、基本的には現地調査段階での検出順に従って番号を付した。

遺物に付した記号は、ＲＰ　土器・土製品　　ＲＷ　木製品　ＲＱ　石製品　ＲＭ　金属製品　ＲＸ　不明遺物　であり、検出順に番号を付した。

2　報告書作成、執筆の基準は以下の通りである。

（1）遺構分布図、同平面図中の方位は磁北を示している。なお、グリッド南北軸は磁北より、18‘00’東に傾いている。また、建物跡の主軸方向は南北棟を桁行、東西棟は、梁行で測値した。

（2）遺構実測図では１／40から１／60他の縮図で採録し、各々にスケールを付した。

（3）遺物実測図・拓影図・図版は原則的に１／４で採録したが、大形の土器や、木製品については１／６とし、各々にスケールを付した。

（4）土器実測図・拓影図の断面では、白ヌキが土師器、黒ベタが須恵器、断面に●印が赤焼土器を表している。また、土師器で内黒のものは内面に網点を、両黒は内外面両端に網点を入れた。

（5）遺物観察表中の計測値欄で、（　）内数値は図上復元による推定値ないし残存値を示している。出土地点欄の層位では、「Ｆ」は遺構覆土内出土、「Ｙ」は遺構底面出土を示し、ローマ数字「Ⅰ～Ⅳ」等は、遺跡を覆う土層（基本層序）を表している。

（6）遺物番号は、実測図・観察表・図版ともに共通とした。また、本文中の番号も共通とした。

3　調査では、圃場整備計画図に示されているＢＭ３（標高10.570ｍ）杭を利用し、Ａ・Ｂ調査区に断面測図のため、ＢＭ杭（10.270ｍ）を設置し、これより断面測図の高さを各遺構毎に求め、挿図にはそのレベルを記載した。

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経過……1
　2　調査の経過……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　1　地理的環境……4
　2　歴史的環境……4
　3　遺跡の層序……4
Ⅲ　検出遺構
　1　遺構の分布……11
　2　掘立柱建物跡……11
　3　土坑……15
　4　溝状遺構……20
　5　旧河川跡……20
Ⅳ　遺物
　1　遺物の分布……25
　2　掘立柱建物跡出土遺物……25
　3　土坑内出土遺物……25
　4　溝状遺構出土遺物……30
　5　旧河川跡出土遺物……30
　6　性格不明遺構出土遺物……36
　7　包含層出土遺物……36
Ⅴ　まとめ
　1　遺構について……45
　2　出土遺物について……46
　3　遺跡の性格について……46

表

表1　調査工程表……2
表2　出土遺物観察表(1)建物跡・土坑……28
表3　出土遺物観察表(2)土坑・溝状遺構……33
表4　出土遺物観察表(3)溝状遺構……35
表5　出土遺物観察表(4)溝状遺構・性格不明遺構……38
表6　出土遺物観察表(5)性格不明遺構・包含層……40
表7　遺跡詳細分布調査出土遺物観察表(1)……43
表8　遺跡詳細分布調査出土遺物観察表(2)……44

挿　図

第１図　遺跡概要図…… 3
第２図　遺跡位置図（Ｓ＝１/25,000）…… 5
第３図　Ａ区遺構配置図…… 7・8
第４図　Ｂ区遺構配置図…… 9・10
第５図　ＳＢ１建物跡…… 12
第６図　ＳＢ２・３建物跡…… 13
第７図　ＳＢ４・５建物跡…… 14
第８図　ＳＫ22・23・25・66・70～72・313土坑、ＳＤ57・154溝状遺構…… 16
第９図　ＳＫ28・36・39・41・46～47・50・60・69・78・98・115・116土坑、
ＥＰ84柱穴…… 17
第10図　ＳＫ24・33・37・38・42・44・49・52土坑、ＥＰ45・112・141柱穴…… 18
第11図　ＳＫ29～32・34・527～530土坑、ＥＰ35柱穴…… 19
第12図　ＳＫ75・502・510・525・526・573・601・721・756・758・760土坑、
ＳＤ74・511・534～536溝状遺構、ＥＰ572柱穴…… 21
第13図　ＳＤ8・26・55・56・65・92・93・95・106溝状遺構、
ＥＰ153・191・205柱穴…… 22
第14図　ＳＤ67・89・114・540～542溝状遺構、ＳＫ533土坑、
ＥＰ99・113・539・551柱穴…… 23
第15図　ＳＤ59・90・512～517溝状遺構、ＳＫ40・91土坑、ＥＰ109・111柱穴… 24
第16図　建物跡出土遺物…… 26
第17図　土坑内出土遺物（１）…… 27
第18図　土坑内出土遺物（２）…… 29
第19図　土坑内出土遺物（３）、溝状遺構出土遺物（１）…… 31
第20図　溝状遺構出土遺物（２）…… 32
第21図　溝状遺構出土遺物（３）…… 34
第22図　旧河川跡出土遺物…… 36
第23図　性格不明遺構出土遺物…… 37
第24図　包含層出土遺物…… 39
第25図　遺跡詳細分布調査出土遺物（１）…… 41
第26図　遺跡詳細分布調査出土遺物（２）…… 42

図　版

図版１　遺跡全景
図版２　遺跡遠景他
図版３　Ａ区遺構検出状況
図版４　Ｂ区遺構検出状況他
図版５　Ａ区遺構検出状況全景
図版６　ＳＢ1～4建物跡検出状況
図版７　ＳＢ5建物跡検出状況他
図版８　ＳＤ67・ＳＫ24遺物出土状況
図版９　遺構土層断面（１）
図版10　遺構土層断面（２）
図版11　土坑内遺物出土状況
図版12　遺構完掘状況他
図版13　遺物出土状況（１）土器
図版14　遺物出土状況（２）土器・木製品
図版15　出土遺物（１）建物跡・土坑
図版16　出土遺物（２）土坑
図版17　出土遺物（３）土坑
図版18　出土遺物（４）土坑・溝状遺構
図版19　出土遺物（５）溝状遺構
図版20　出土遺物（６）溝状遺構
図版21　出土遺物（７）溝状遺構
図版22　出土遺物（８）溝状遺構・旧河川跡・性格不明遺構
図版23　出土遺物（９）性格不明遺構
図版24　出土遺物(10)性格不明遺構・包含層
図版25　出土遺物(11)包含層
図版26　遺跡詳細分布調査出土遺物（１）
図版27　遺跡詳細分布調査出土遺物（２）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

遊佐町には数多くの遺跡が確認されている。県内市町村の中でも遺跡が確認されている数が多い地域でもある。その遺跡の在り方は遊佐町管内の水田地帯や、鳥海山山麓から延びる台地上に旧石器時代から近世期にかけての各時代の遺跡が点在している。これらの遺跡は、月光川、庄内高瀬川等の中小河川が形成した沖積平野の微高地や、河川の自然堤防上に立地している。

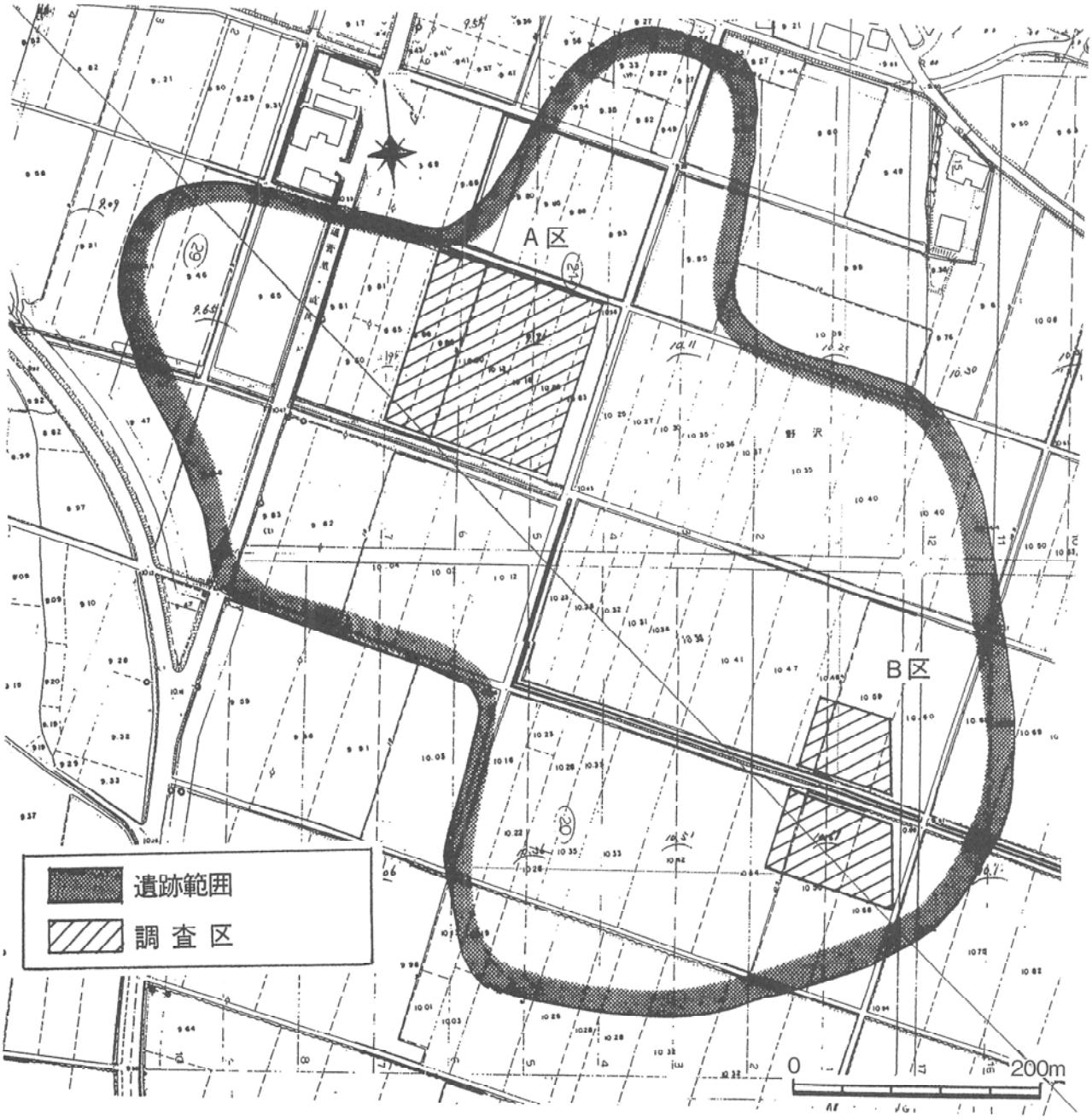
昭和60年度から開始された県営の大規模圃場整備事業（月光川左岸地区・高瀬川右岸地区等）では、現在までに多くの遺跡発掘調査が進められている。平成4年度には月光川上流地区として圃場整備事業が計画され、山形県教育委員会では平成元年度と3年度に実施されていた遺跡詳細分布調査の結果から東西150m、南北190mの範囲（28,500㎡）に遺跡の広がりが確認された。この結果をもとに県農林部と保存協議を進め、現状保存を基本とした施工方法の検討を重ね、止むを得ず削平される地域（遺跡西部5,000㎡および南東部3,000㎡）を対象に緊急発掘調査を実施することで合意された。調査は山形県教育委員会が主体となり、山形県埋蔵文化財緊急調査団が調査を担当した。調査期間は、平成4年5月11日から8月21日までの実働70日間である。

2　調査の経過（表1）

調査は先に遺跡詳細分布調査の結果に基づき、遺跡全域を包み込むように圃場整備事業の計画杭（№25）を起点に現水田の畦畔線に合わせ、5mを一単位とするグリッドを設定した。調査は、圃場整備事業計画による削平される区域で転作が施された地区（A区）と、遺跡南東部で、地盤が高く、削平される地区（B区）が対象となった。調査の工程は、当初A区を前期調査区として5月11日から開始し、重機による粗掘りを行い、面整理による遺構・遺物の検出を実施した。面整理では、旧河川跡と考えられる溝状の遺構が調査区北側に確認された。また、同遺構の南側には、土坑や、掘立柱建物跡に構成される柱穴や、5～6mの長さで幅20～35㎝の同一方向となる溝状遺構が確認されている。遺構は検出順次に番号を付し、断面観察、出土遺物登録、平面図測図、写真撮影等の諸記録を行い、7月11日にはA区の調査を終了した。また、A区の記録と平行に遺跡南東部のB区を重機により粗掘りし、順次面整理を行いながら遺構・遺物の集中地区の確認を実施した。その結果、現用水路をはさむように遺構が検出され、平成3年度に農道部分の調査で確認された遺構の続きと思われる溝跡や、土坑もB区北側で確認された。このことから平成3年度の調査成果を参考に調査を進め、A区と同

調査内容 ＼ 月		5月			6月					7月				8月	
日		11日～15日	18日～22日	25日～29日	1日～5日	8日～12日	15日～19日	22日～26日	29日～3日	7日～10日	13日～17日	20日～24日	27日～31日	3日～7日	17日～21日
	実調査日数	5	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5
準備	資材準備	■													
	発掘区設定	■	■						■	■					
粗掘り	手掘り	■	■	■	■				■	■	■	■			
	重機械使用	■	■						■						
面精査	面整理		■	■					■	■					
	遺構検出		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
遺構精査	A区建物跡							■							
	土坑		■	■	■	■	■	■	■	■					
	溝状遺構		■	■	■	■	■	■	■	■					
	その他		■	■	■	■	■	■	■	■					
	B区建物跡												■		
	土坑								■	■	■	■	■	■	■
	溝状遺構								■	■	■	■	■	■	■
	その他								■	■	■	■	■	■	■
測図作業	水糸張り				■							■			
	土層断面		■								■				
	平面実測		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	レベリング				■	■	■	■	■	■		■	■	■	■
写真	全体写真	■							■						
	細部写真		■	■	■	■	■	■		■	■	■	■	■	■
備考															

表1　調査工程表



第1図　遺跡概要図(S=1/400)

様に同一方向に向かう溝跡や、掘立柱建物跡に結びつく柱穴等の遺構が検出された。これらの遺構を順次掘り下げ、遺構番号登録、写真撮影、遺物集中遺構の平面図測図等、諸記録を行い、8月21日には全調査を終了した。また、8月19日には県民や地元地区民に調査説明会を実施した。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

出羽富士と呼ばれる鳥海山はその端正な雄姿を北東方に望み、眼下の平野部には豊富な水量を生み出している。庄内平野の北部を占める飽海地区にはこの鳥海山を源とした日光川、月光川、庄内高瀬川等の河川がその恵みを平野部へ潤しており、平野部での出口では小扇状地を形成している。

流入河川のひとつである庄内高瀬川は鳥海山の南東山麓を源として飽海地区北部の水田へ蛇行しながら流れ、所々で河川流入の特徴である自然堤防を築いている。しかし、平野の主要部分は庄内三角洲地帯であり、海抜３～７ｍのきわめて低平な平野部となっている。これらの自然堤防上には河川の流路に沿った所々に平安時代の集落跡が点在している。これらの集落跡はその分布状況が月光川の右岸と左岸とではその立地状件や、歴史的条件等により、分布の在り方に差異が認められる。

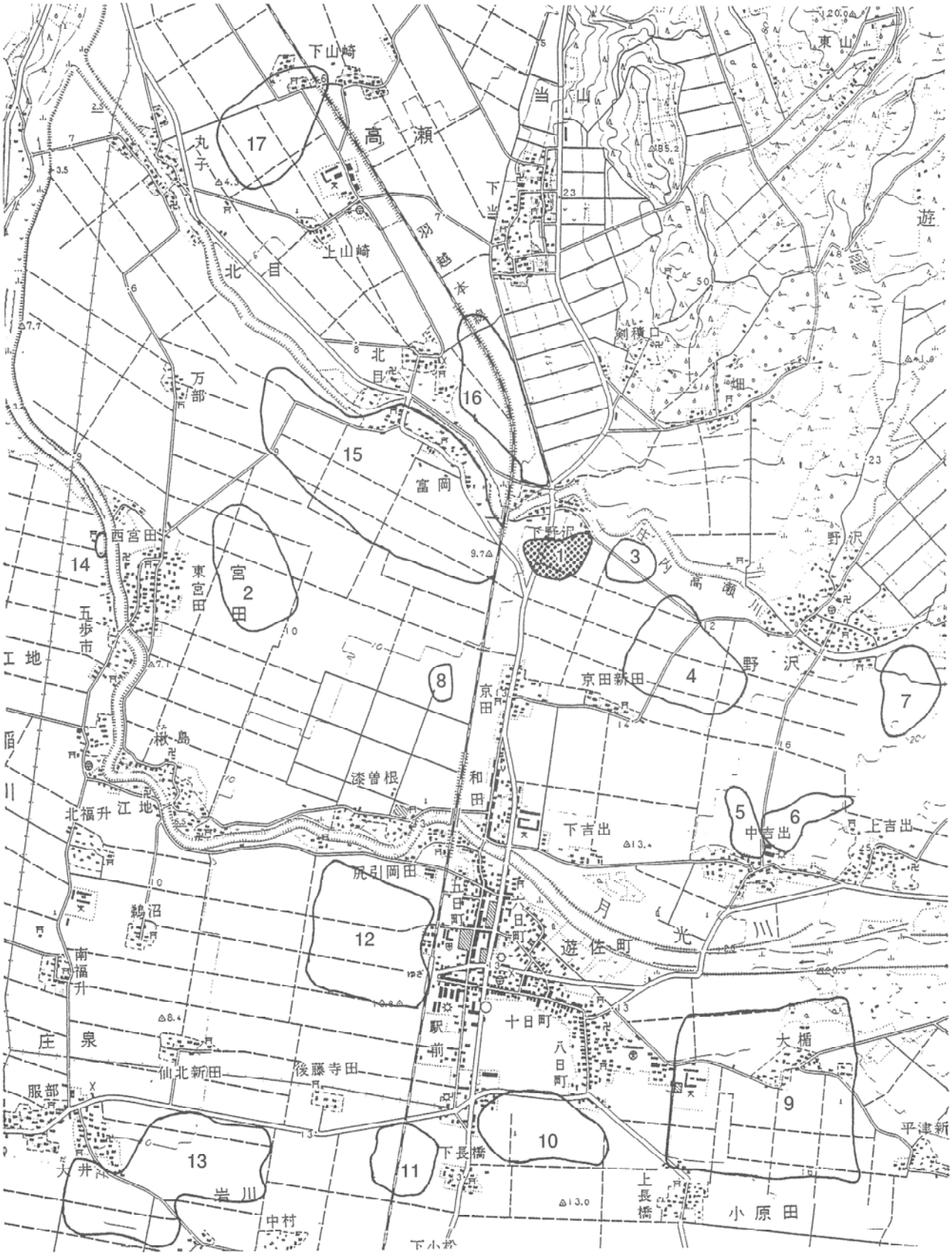
2　歴史的環境

庄内地方には平安時代の遺跡が数多く点在している。その多くは酒田市に所在する国指定史跡「城輪柵跡」を中心に、平野東側は出羽丘陵の辺縁部までと、西側は標高５ｍ前後の沖積地の自然堤防上に存在する。

庄内平野での平安時代の集落跡は、平野部全体に存在するが、平野部を貫流する最上川によって平野北部と南部に東西に二分される。最上川北側（右岸）地域は飽海地区と、南側（左岸）地域は田川地区と呼称される。右岸北側の地域には国指定史跡として保護されている「城輪柵跡」を中心に計画的に集落跡を配置されたことを窺わせる遺跡が点在する。また、城輪柵跡より北方に西流する月光川や庄内高瀬川周辺には多くの遺跡が点在し、高瀬川沿いに限っても９世紀代に営まれた北目長田遺跡、橇待遺跡、筋田遺跡、野瀬遺跡、中田浦遺跡、上高田遺跡等の集落跡が連続して分布しており、平安時代の飽海地区における古代開拓様相を窺うことが出来る。

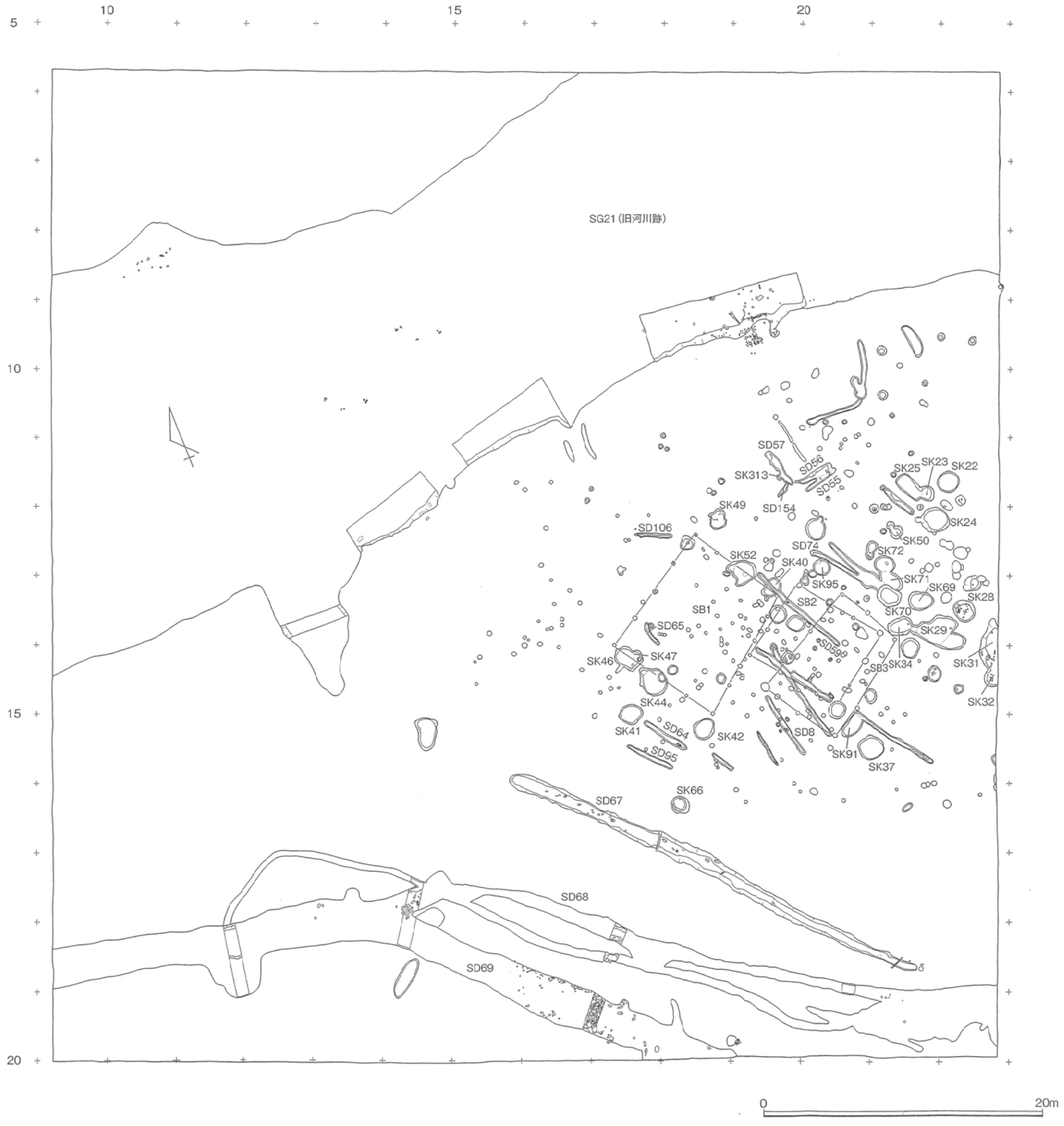
3　遺跡の層序

遺跡を覆う土層は３層に分かれ、Ⅰ層は黄褐色の耕作土で厚さ13～18㎝に、Ⅱ層は灰黄褐色の水田基盤層で厚さ５～８㎝を測る。Ⅲ層は黒褐色粘質土で、厚さ10～15㎝に堆積し、遺物包含層である。Ⅳ層は黄灰色砂質土で地山の遺構検出面である。遺構はⅣ層で溝状遺構や土坑、柱穴が確認できた。



1．石田遺跡　2．木原遺跡　3．宅田遺跡　4．大坪遺跡　5．三田遺跡　6．袋冷遺跡
7．仁田田遺跡　8．古屋敷遺跡　9．大楯遺跡　10．浮橋遺跡　11．下長橋遺跡　12．小深遺跡
13．東田遺跡　14．宮田遺跡　15．上高田・木戸下・道内遺跡　16．宮の下遺跡　17．中田浦遺跡

第2図　遺跡位置図（S=1：25,000）


SG21（旧河川跡）
SD57
SK313
SD56
SD55
SK25
SK23
SK22
SK49
SD154
SK24
SD106
SK50
SD74
SK72
SK52
SK40
SK71
SK95
SK69
SK28
SB1
SB2
SK70
SK29
SD65
SD59
SK46
SK47
SB3
SK34
SK31
SK44
SK32
SK41
SD64
SK42
SD8
SK91
SD95
SK37
SK66
SD67
SD68
SD69
0
20m

第3図　A区遺構配置図

50
55
30
35
40
60
SX103
SK9
SK26
SD19
SD5
SD7
SD8
SK3
SK4
SK2
SE1
SK12
SK54
SD20
SK52
SD700
SB4
SD820
SK573
SA800
EP764
SB5
SX751
SD766
SD771
SD772
平成３年度遺跡詳細分布調査区
0
20m

第4図　B区遺構配置図

Ⅲ　検出遺構

1　遺構の分布

石田遺跡の調査面積は東西 350 m、南北 400 mの約 140,000 ㎡の規模と把握され、分布調査ではいくつかの遺構がまとまりをもちながら集合した集落と捉えている。遺跡が所在する地域一帯に対して実施した試掘調査では、従来の周知登録されている範囲の広がりと、遺構・遺物の集中区域を確認している。調査では、掘立柱建物跡５棟、土坑 59 基、溝状遺構 75 条の他、調査Ａ区の北側で旧河川跡の流路が西から東側へ確認され、流路の南側には、掘立柱建物跡、土坑等が存在し、それらを囲むように溝状遺構が数条存在する。Ｂ区では、２棟の建物跡と柱列１条、土坑、溝状遺構が検出されている。ここでは、柱穴の組み合わせが確認され、掘立柱建物跡として登録した遺構、土坑、溝状遺構等、Ａ区・Ｂ区で検出された遺構についてまとめて記述する。

2　掘立柱建物跡

Ａ区では３棟の建物跡が構成された。ＳＧ 21 旧河川跡の南側に位置し、同方向の主軸を測る３棟の建物跡である。

ＳＢ１建物跡（第５図、図版６）

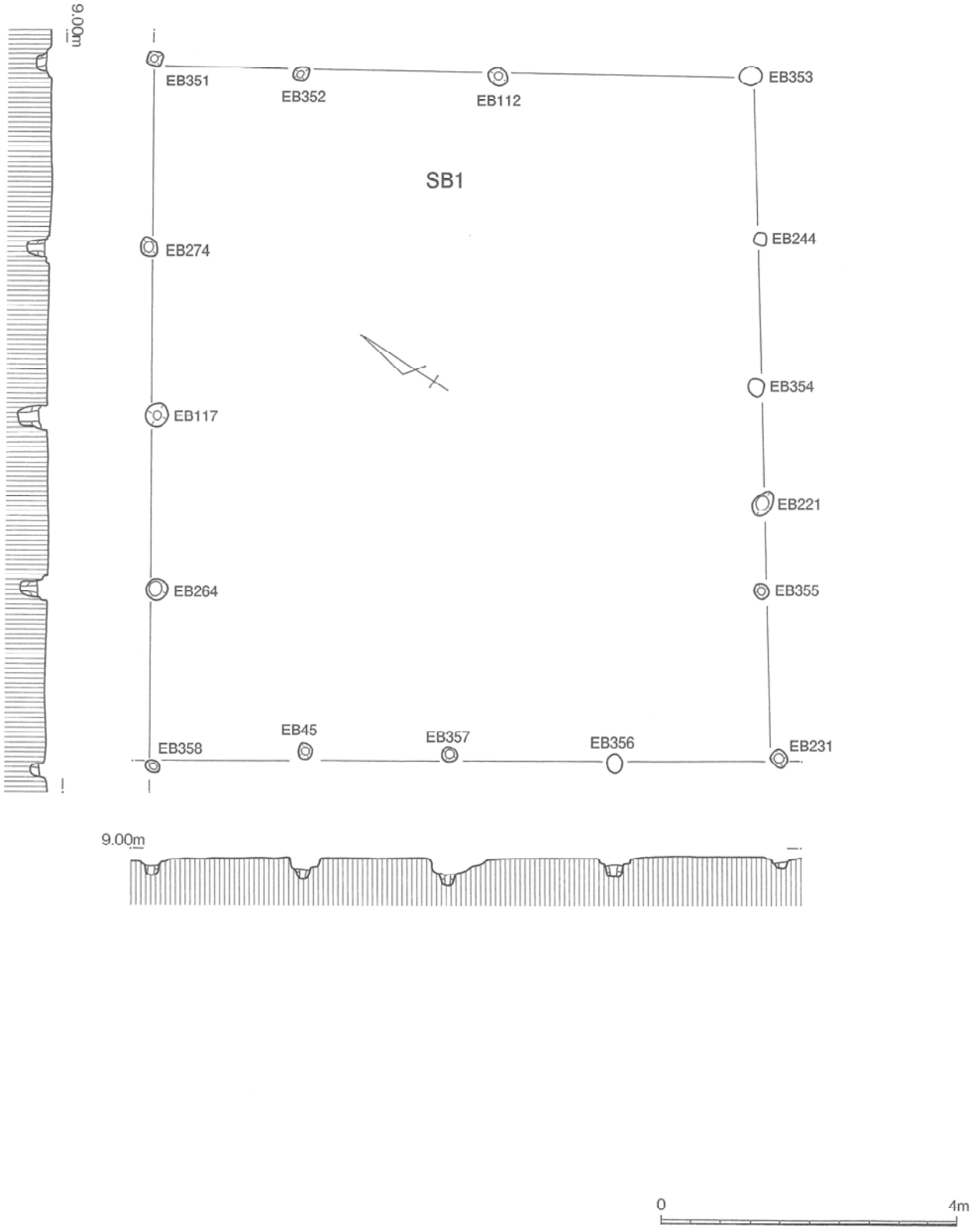
Ａ区中央部 17 ～ 19 － 12 ～ 14 グリッドⅢ層上面で確認された東西四間、南北三間の東西棟である。身舎の規模は桁行 10.8 m、梁行 8.4 mを測る。柱間距離は北面桁行ＥＢ358・264・117・274・351 柱穴では各柱間は 2.7 m（9 尺）等間である。西面梁行ＥＢ 358・45・357・356・231 柱穴では 2.1 m（7 尺）等間である。柱穴掘り方は径 20 ～ 35 ㎝の円形または隅丸方形を呈し、深さ 20 ～ 40 ㎝を測る。掘り方内には径 16 ～ 18 ㎝の柱の跡が残っていたが柱根は残存していない。ＥＢ 231 柱穴の覆土から第 16 図 14 の内黒土器片が出土している。建物跡の主軸方位はＮ － 06 － Ｗである。

ＳＢ２建物跡（第６図、図版６）

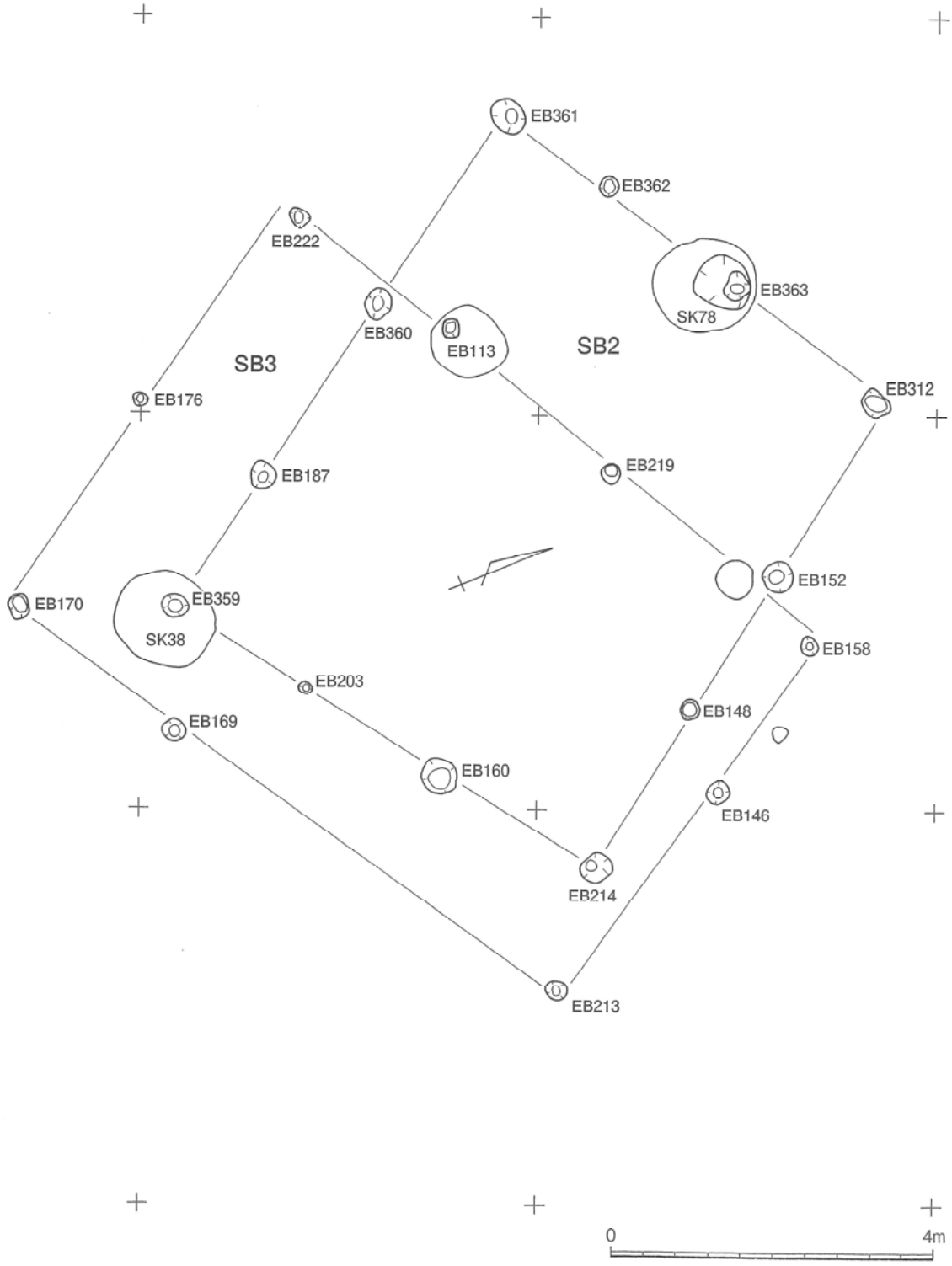
Ａ区ＳＢ１建物跡に隣接して確認された東西三間、南北三間の南北棟である。身舎の規模は桁行長 7.2 m、梁行長 4.8 mを測る。柱間距離は北面桁行ＥＢ 361・362・363・312 柱穴では 2.4 m（６尺）等間である。南面桁行ＥＢ359・203・160・214 柱穴で 2.1 m（7 尺）等間である。西面梁行ＥＢ 312・152・148・214 柱穴では 2.7 m（9 尺）等間である。柱穴掘り方は径 20 ～ 35 ㎝の円形または楕円形を呈し、深さ 15 ～ 35 ㎝の柱の痕跡が残っていたが、柱根は残存しない。また、土器片等の遺物の出土はなかった。建物跡の主軸方向はＮ － 18 － Ｅである。

ＳＢ３建物跡（第６図、図版６）

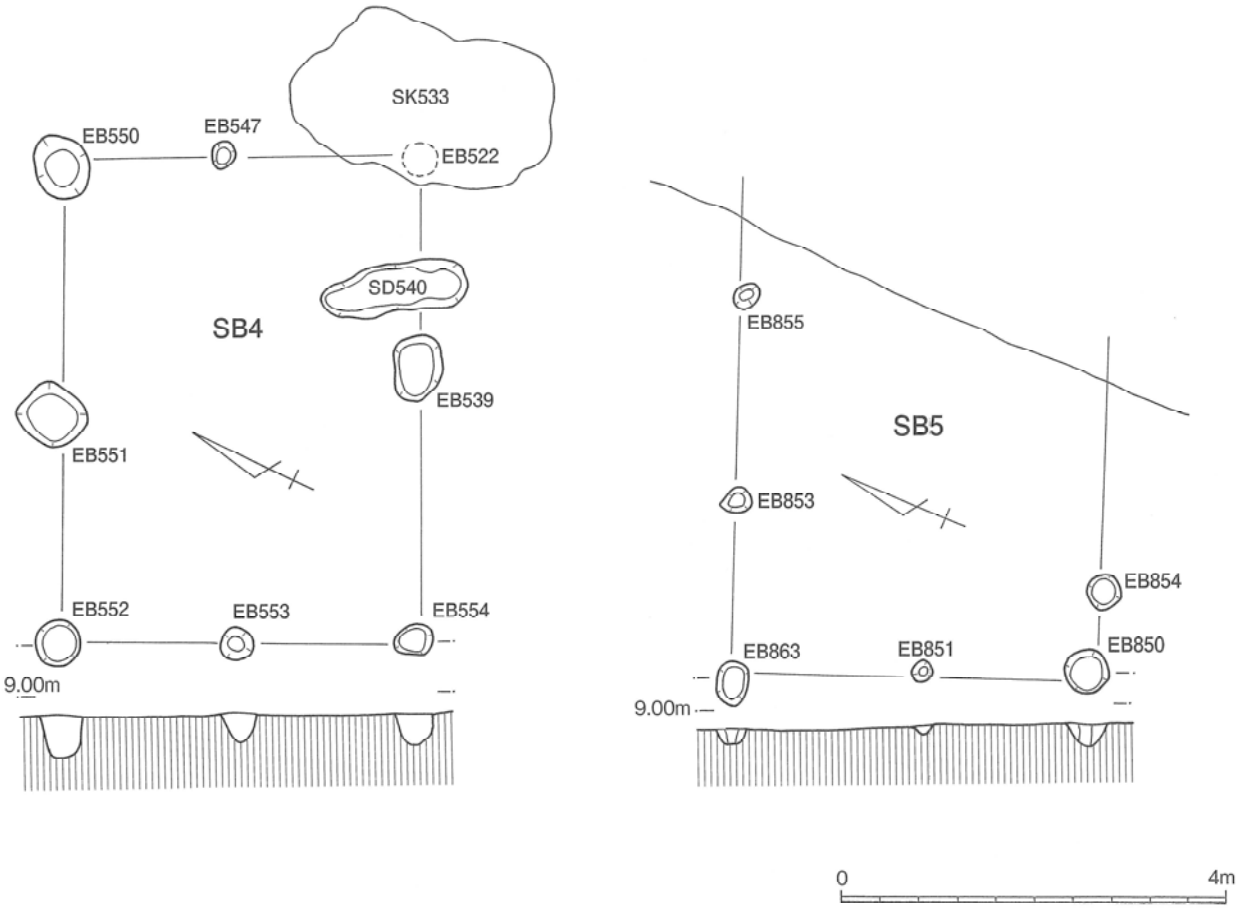
Ａ区ＳＢ２建物跡と重複し確認された東西三間、南北二間の東西棟である。身


9.00m
EB351
EB352
EB112
EB353
SB1
EB274
EB244
EB354
EB117
EB221
EB264
EB355
EB358
EB45
EB357
EB356
EB231
9.00m
0
4m

第5図　SB1建物跡


EB361
EB362
EB222
EB363
SK78
EB360
EB113
SB2
SB3
EB312
EB176
EB219
EB187
EB152
EB170
EB359
SK38
EB158
EB203
EB148
EB169
EB160
EB146
EB214
EB213
0
4m

第6図　SB2・3建物跡



第7図　SB4・5建物跡

舎の規模は桁行長8.2 m、梁行長5.9 mを測る。柱間距離は北面桁行ＥＢ222・113・219・158柱穴は2.4 m等間の柱間距離である。南面桁行ではＥＢ170・169・213柱穴は2.7 m等間である。柱穴掘り方は径20～35 cmの円形または楕円形を呈し、深さ10～40 cmの柱の痕跡が残っていたが、柱根は残存しない。建物跡の主軸方向はＮ－21－Ｅである。

ＳＢ４建物跡（第７図、図版６）

Ｂ区北側調査区のやや中央部で確認した。東西二間、南北二間のやや南北に長い身舎をもつ建物跡である。身舎の規模は桁行長4.8 mを測る。柱間距離は北面桁行ＥＢ552・551・550柱穴では2.7 m等間である。南面梁行ではＥＢ554・539が認められたが、身舎角となる柱跡がＳＫ533土坑に掘り込まれ、北面桁行との構成でＳＫ533内に存在したものと考える。柱間距離は北面距離と同様である。建物跡の主軸方向はＮ－82－Ｗである。遺物の出土はない。

ＳＢ５建物跡（第７図、図版７）

Ｂ区調査区東側北東部で確認された東西三間以上、南北二間の東西棟である。身舎の規模は桁行長480 cm以上、梁行長390 cmを測る。柱間距離は北面桁行ではＥＢ863・853・855柱穴は1.8 m等間である。柱穴掘り方は径25 cm～46 cmの円形または楕円形を呈し、深さ15～28 cmの痕跡は残っていたが、柱根は残存しない。遺物の出土はない。建物跡の主軸方向はＮ－82－Ｅである。

3　土坑

検出された156基の土坑のうち、まとまった遺物を出土した土坑の多くは、A・B区に溝状遺構と共に集中して確認された。土坑内で遺物が集中して出土した土坑は検出されたその形状や、規模等の特徴で分けることができ、ここでは53基の土坑を図示した。下記のＳＫ22・39・24・42の土坑は皿状になるものが多く、時期も土器の形状や、編年から10世紀初頭が当てられる。また、ＳＫ525・527・32土坑はＵ字状の断面形を呈し、確認面からの深さが、約50～28㎝と深く、土坑下部の覆土中からは有機物がブロック状に6～20cmの厚さに堆積しており、土坑が営まれた性格や時期に違いが窺える。出土遺物では、陶器や磁器が出土し、中世から近世にかけての時期が当てられる。

ＳＫ22土坑（第８図、図版11）

Ａ区東側、22－11グリッドⅢ層上面で検出した隅丸方形を呈した土坑である。断面は皿状になり、覆土は２層に分かれる。Ｆ１層は黒色炭化物層、Ｆ２層は明褐色砂質層である。規模は長径約150㎝、深さ約８～12㎝を測る。底面は平坦で、土坑内にはＲＰ23・24・25の赤焼土器が出土した。

ＳＫ39土坑（第９図）

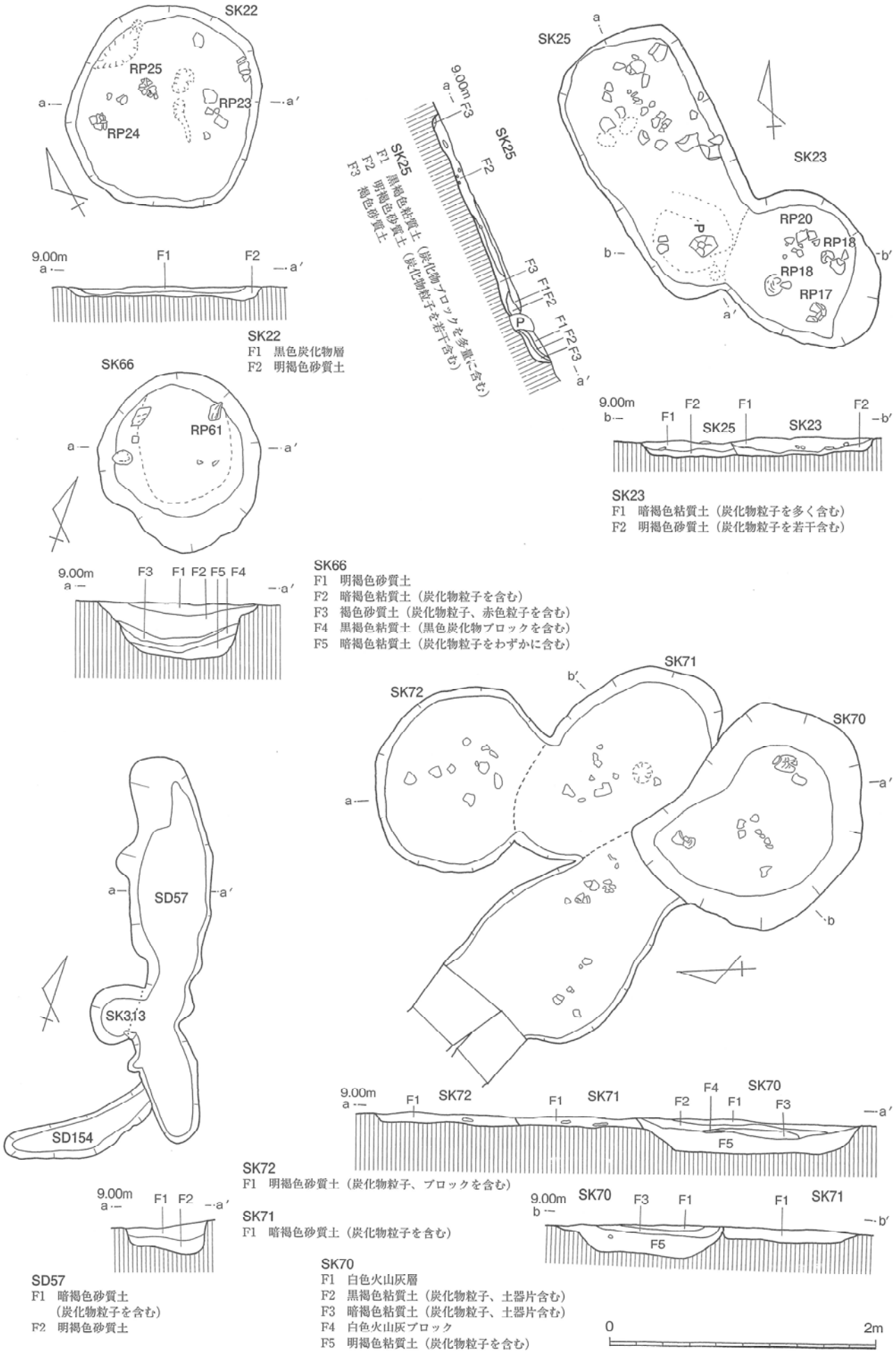
Ａ区中央、19－13グリッドⅢ層上面で検出したほぼ円形を呈した土坑である。断面形は皿上になるが、中心部で高まりを示す。規模は長径160～165㎝、深さ約10～12㎝を測る。底面はやや平坦で、覆土は２層に堆積する。Ｆ１層は明褐色砂質土で赤色粒子を含む。Ｆ２層は黒褐色砂質土で炭化物粒子を含む。土坑内には多数の土器が出土した。

ＳＫ24土坑（第10図、図版８）

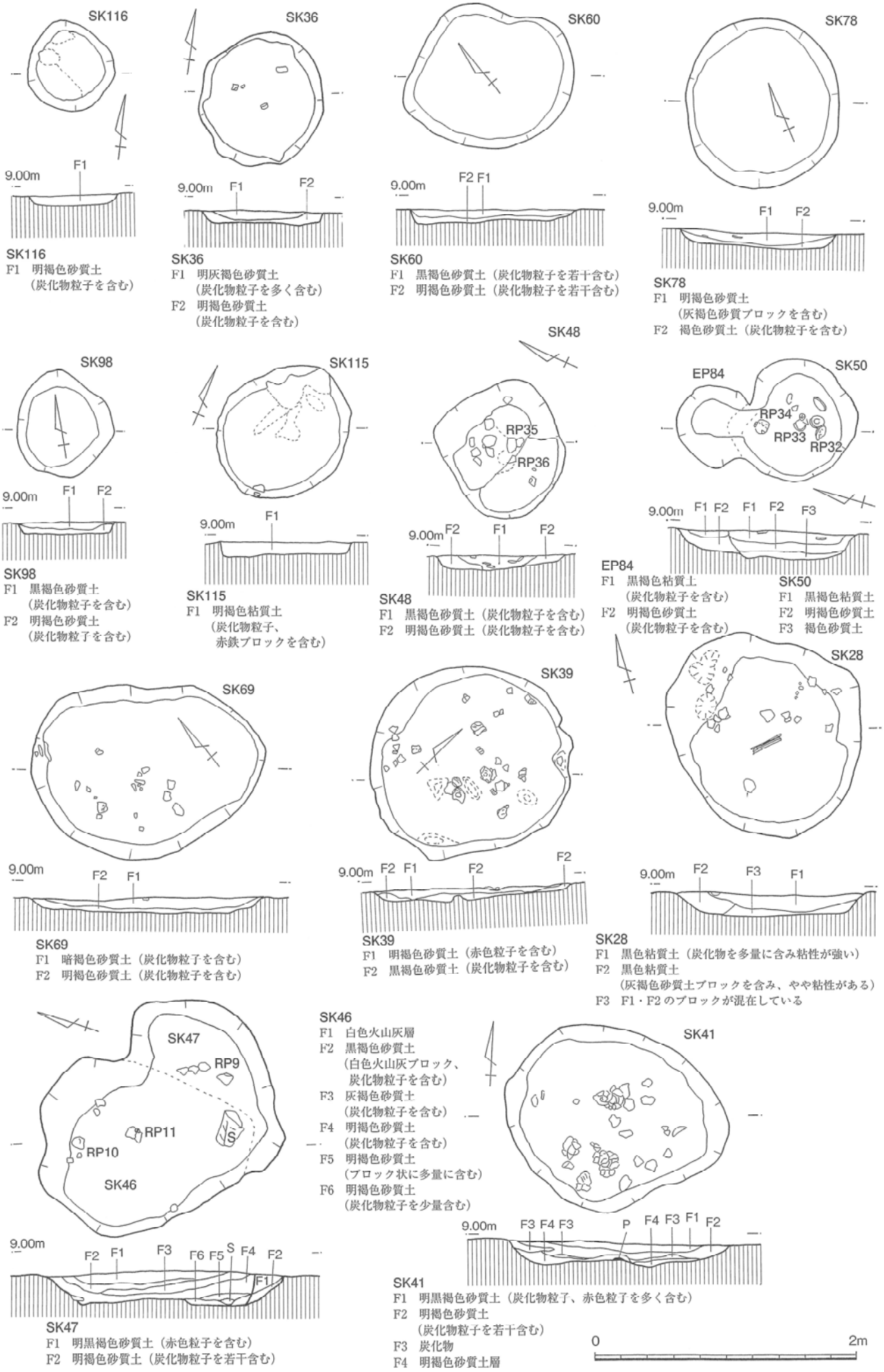
Ａ区東側、22－12グリッドⅢ層上面で検出した隅丸方形を呈した土坑である。断面形は皿状となり、規模は長径200～210㎝、深さ約８～12㎝を測る。覆土は３層に堆積し、Ｆ１層は黒褐色粘質土で若干の炭化物粒子を含む。Ｆ２層は明灰褐色砂質土で、一部に明褐色砂質土のＦ３層が入り込む。底面はやや平坦である。土坑内には多くの土器片が出土した。土坑の西ではＥＰ141柱穴を切って確認された。

ＳＫ42土坑（第10図、図版11）

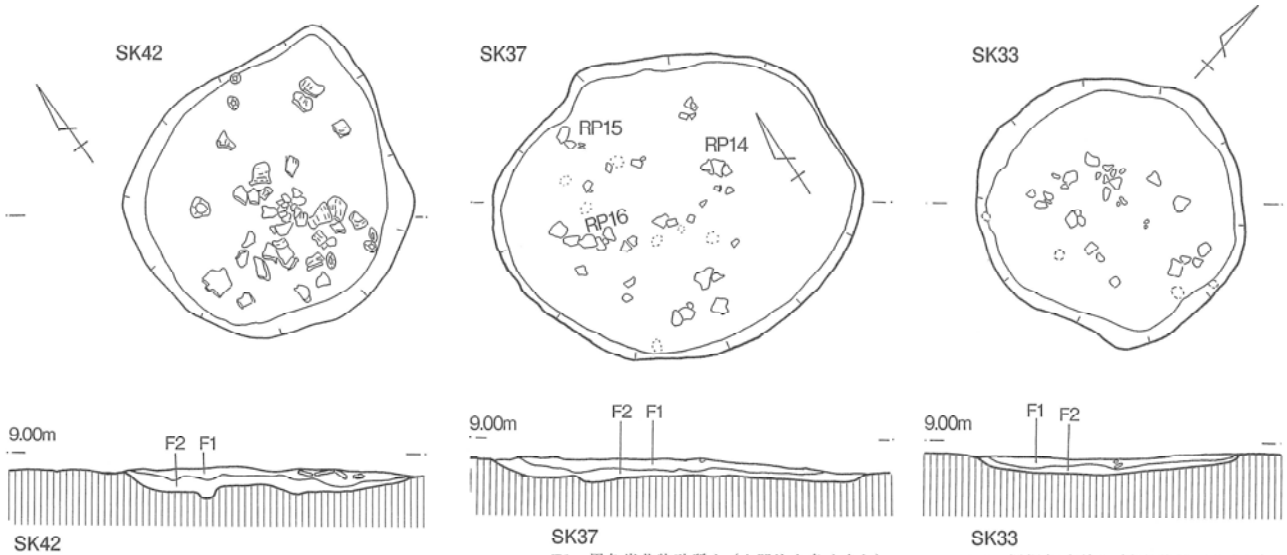
Ａ区中央、18－15グリッドⅢ層上面で検出したやや円形を呈した土坑である。断面形は皿状となり、規模は長径150～160㎝、深さ16～19㎝を測る。覆土は２層に堆積し、Ｆ１層は黒褐砂質土で炭化物粒子、赤色粒子を多く含み、土器片が集中して出土した。Ｆ２層は明褐色砂質土で炭化物粒子を含む。



第8図　SK22・23・25・66・70～72・313土坑、SD57・154溝状遺構



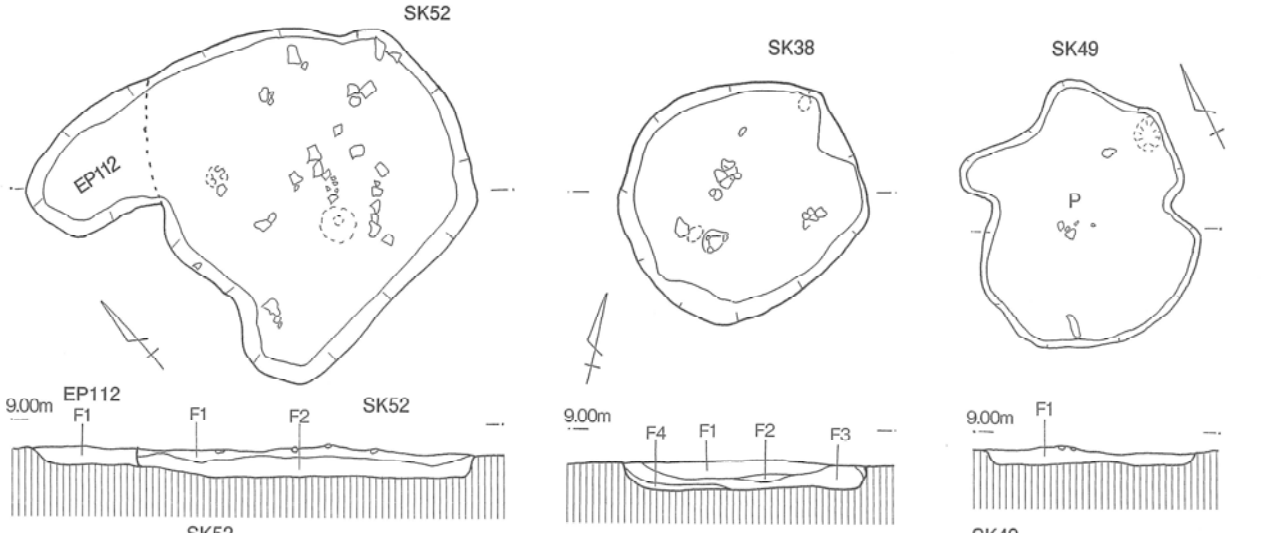
第9図　SK28・36・39・41・46～48・50・60・69・78・98・115・116、EP84柱穴



SK42
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子、赤色粒子、土器片を多く含む）
F2　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

SK37
F1　黒色炭化物砂質土（土器片を多く含む）
F2　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

SK33
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

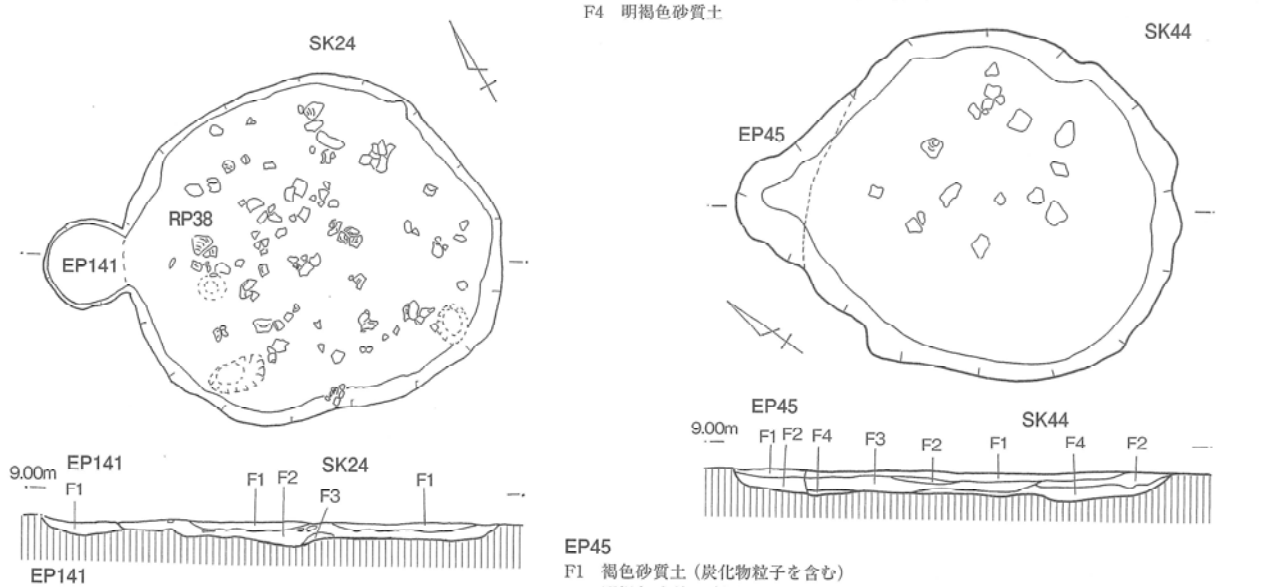


SK52
F1　黒褐色粘質土（炭化物粒子を多量に含む）
F2　明褐色砂質土（炭化物粒子を若干含む）

EP112
F1　黒褐色粘質土（炭化物粒子を多量に含む）

SK38
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2　明灰褐色砂質土（レンズ状に堆積している）
F3　明黒褐色砂質土（炭化物粒子を多く含む）
F4　明褐色砂質土

SK49
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子を含む）



EP141
F1　明褐色砂質土（炭化物粒子を若干含む）

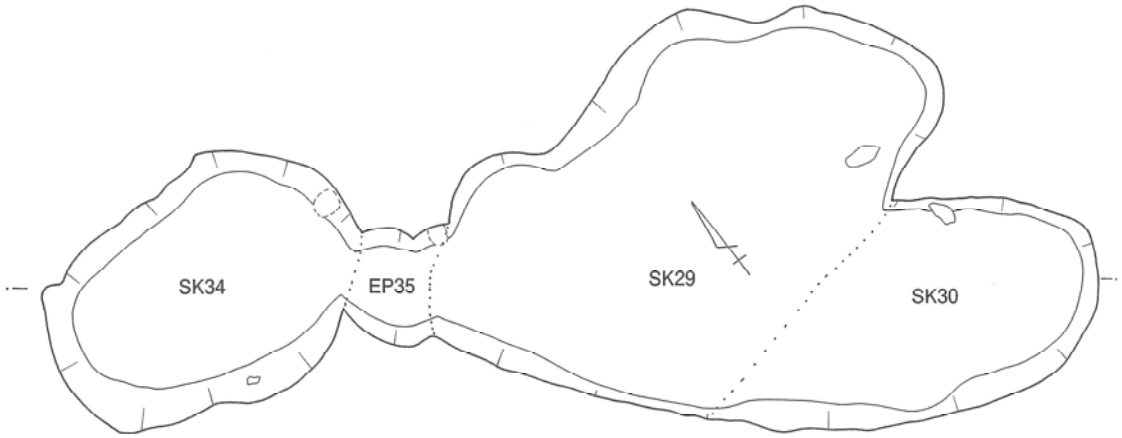
SK24
F1　黒褐色粘質土（炭化物粒子、土器片を含む）
F2　明灰褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F3　明褐色砂質土

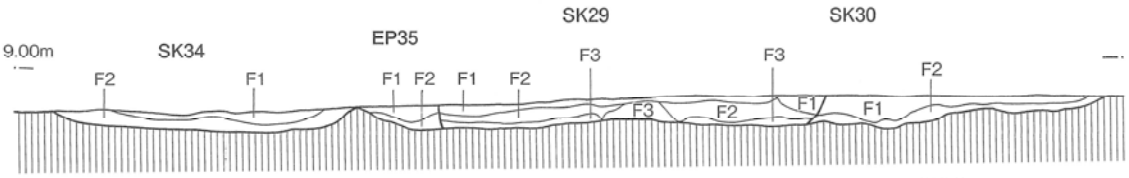
EP45
F1　褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

SK44
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子を多く含む）
F2　黒褐色砂質土に明褐色砂質土をブロック状に含む
F3　明黒褐色砂質土（炭化物粒子、赤色粒子を含む）
F4　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

0　2m

第10図　SK24・33・37・38・42・44・49・52土坑・EP45・112・141柱穴



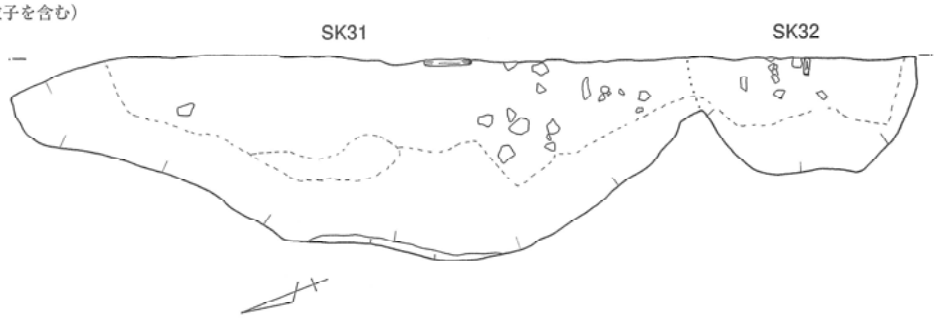


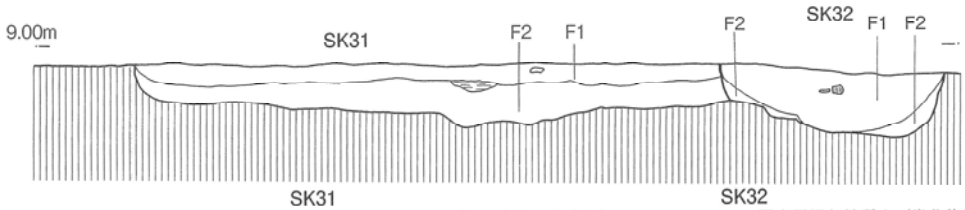
SK34
F1　黒色炭化物層
　（粘性が強い）
F2　明褐色砂質土
　（若干の炭化物粒子を含む）

EP35
F1　明褐色粘質土
　（炭化物粒子を含む）
F2　明褐色砂質土

SK29
F1　黒褐色粘質土（炭化物粒子を多く含む）
F2　黒褐色砂質土
F3　明褐色砂質土

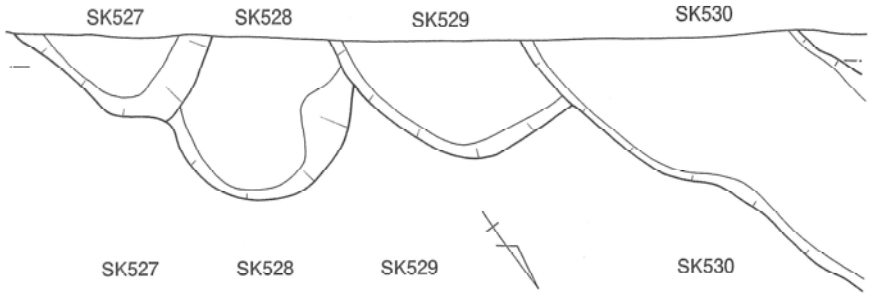
SK30
F1　黒褐色粘質土
F2　明褐色砂質土

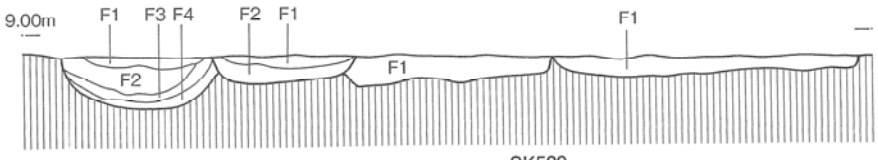




SK31
F1　青灰褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2　明褐色砂質土（炭化物粒子を若干含む）

SK32
F1　濁青黒褐色粘質土（炭化物粒子を含む）
F2　濁青灰色砂質土





SK527
F1　黒褐色砂質土
　（炭化物粒子を含みやや粘性がある）
F2　黒褐色粘質土（赤色酸化粒子を含む）
F3　明褐色砂質土
　（灰褐色粘質土ブロックを含む）
F4　黒色有機物層

SK528
F1　黒褐色砂質土
　（炭化物粒子を含む）
F2　灰褐色粘砂土
　（灰色粘質土ブロックを含む）

SK529
F1　茶褐色粘質土（炭化物ブロック、赤色酸化粒子を含む）

SK530
F1　明褐色砂質土（赤色酸化粒子を含む）

0　2m

第11図　SK29～32・34・527～530土坑、EP35柱穴

4　溝状遺構

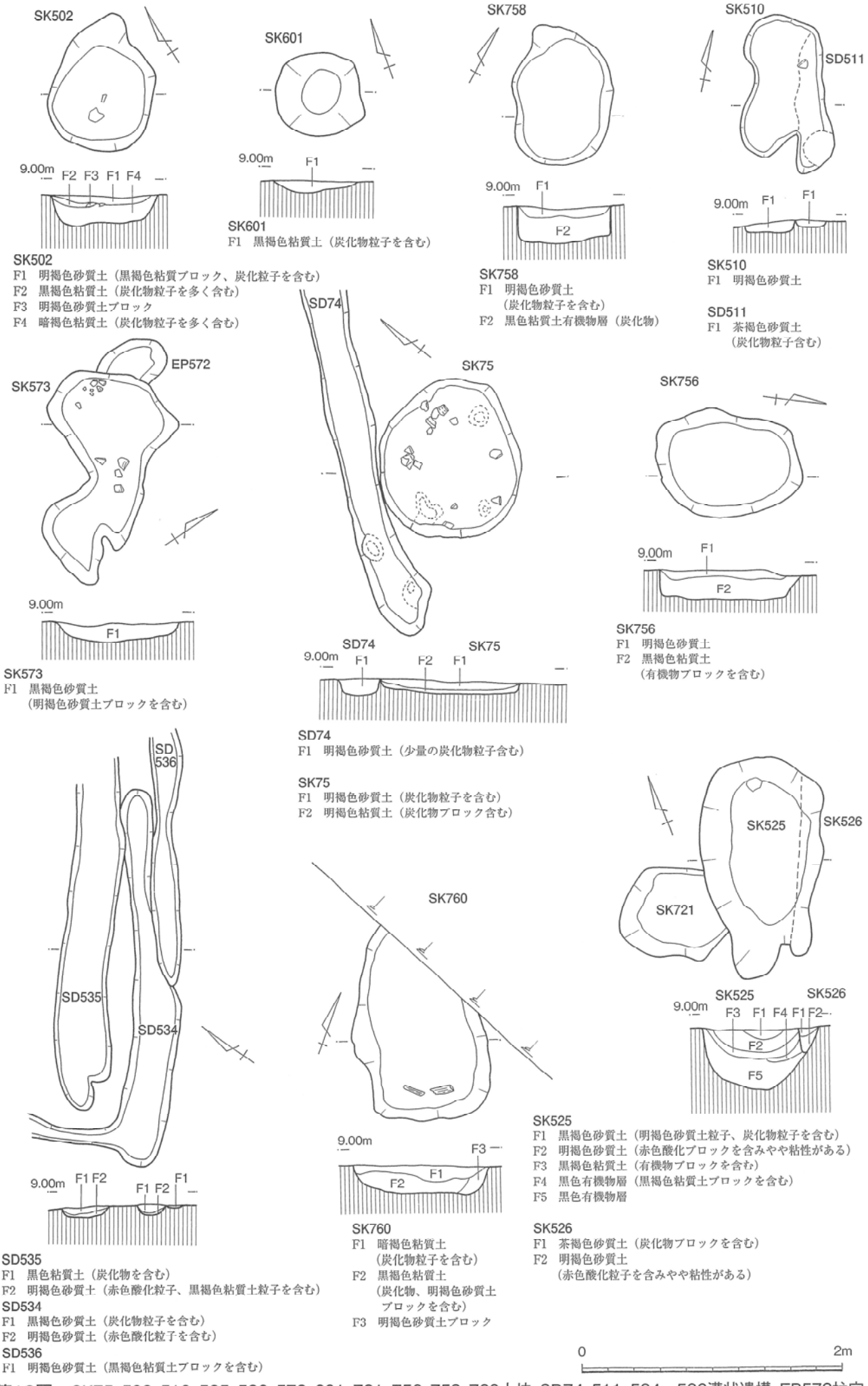
調査で検出された溝状遺構群はＡ・Ｂ調査区のほか、平成３年度に遺跡詳細分布調査を実施した際の調査区域でもやや東西に走る幅の広い溝状の遺構が確認されている。Ａ調査区ではＳＧ21遺構とした埋没した旧河川跡と共に建物跡が確認されている。溝状遺構は建物跡の主軸方向と同一となるものと、やや軸がずれた方向がある。Ｂ調査区では、畑の畝状の溝跡が４～５条の単位で南北に並び、４～10mの長さで確認されている。これらは４～６のグループにまとまりを示している。ここではＡ調査区で検出したＳＤ67溝状遺構について説明する。

ＳＤ67溝状遺構（第14図、図版９）

ＳＤ67はＡ区南半部15～21－15～18グリッドⅢ層上面で確認したやや東西に約32ｍの長さで検出した溝状遺構である。幅約90～95㎝、深さ約30～35㎝を測り、覆土は４層に分かれる。Ｆ１層は黒褐色砂質層で赤色粒子を含む、Ｆ２層は灰色火山灰層で土器片や赤色粒子を含む、Ｆ３層は明褐色砂質層で、完形の土器や、土器片が多量に出土した。Ｆ４層は明褐色粘質土である。覆土のＦ２層には６～８㎝の厚さに火山灰が堆積している。延喜15年（915年）に降灰したと「扶桑略記」に記載された記録では「出羽国言上雨灰降高二寸」とあり、Ｆ２層やＦ３層中からの出土土器は溝状遺構が営まれた時期を示す好資料となる。また、ＳＫ46土坑からも覆土中に充満して確認されていることから、本遺跡が営まれた時期が推測される。

5　旧河川跡（第３図）

ＳＧ21河川跡はＡ調査区の北西部に東西に確認された。幅約20～28ｍ、長さ約80ｍに確認された。河川跡の堆積状況を確認するため、南岸部に流路の沿って幅１ｍのトレンチを設定し、掘り下げの精査を実施、断面ではなだらかな傾斜を持ちながら中心部に向かって徐々に深くなるが、事業が圃場整備であることから掘り下げを中止した。調査では須恵器片や赤焼土器片が出土している。本遺跡の北方には庄内高瀬川が西流しており、遺跡が営まれた時期には本遺跡に流れていたものと考える。



SK502
F1 明褐色砂質土（黒褐色粘質ブロック、炭化粒子を含む）
F2 黒褐色粘質土（炭化物粒子を多く含む）
F3 明褐色砂質土ブロック
F4 暗褐色粘質土（炭化物粒子を多く含む）

SK601
F1 黒褐色粘質土（炭化物粒子を含む）

SK758
F1 明褐色砂質土
（炭化物粒子を含む）
F2 黒色粘質土有機物層（炭化物）

SK510
F1 明褐色砂質土

SD511
F1 茶褐色砂質土
（炭化物粒子含む）

SK573
F1 黒褐色砂質土
（明褐色砂質土ブロックを含む）

SD74
F1 明褐色砂質土（少量の炭化物粒子含む）

SK75
F1 明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2 明褐色粘質土（炭化物ブロック含む）

SK756
F1 明褐色砂質土
F2 黒褐色粘質土
（有機物ブロックを含む）

SD535
F1 黒色粘質土（炭化物を含む）
F2 明褐色砂質土（赤色酸化粒子、黒褐色粘質土粒子を含む）

SD534
F1 黒褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2 明褐色砂質土（赤色酸化粒子を含む）

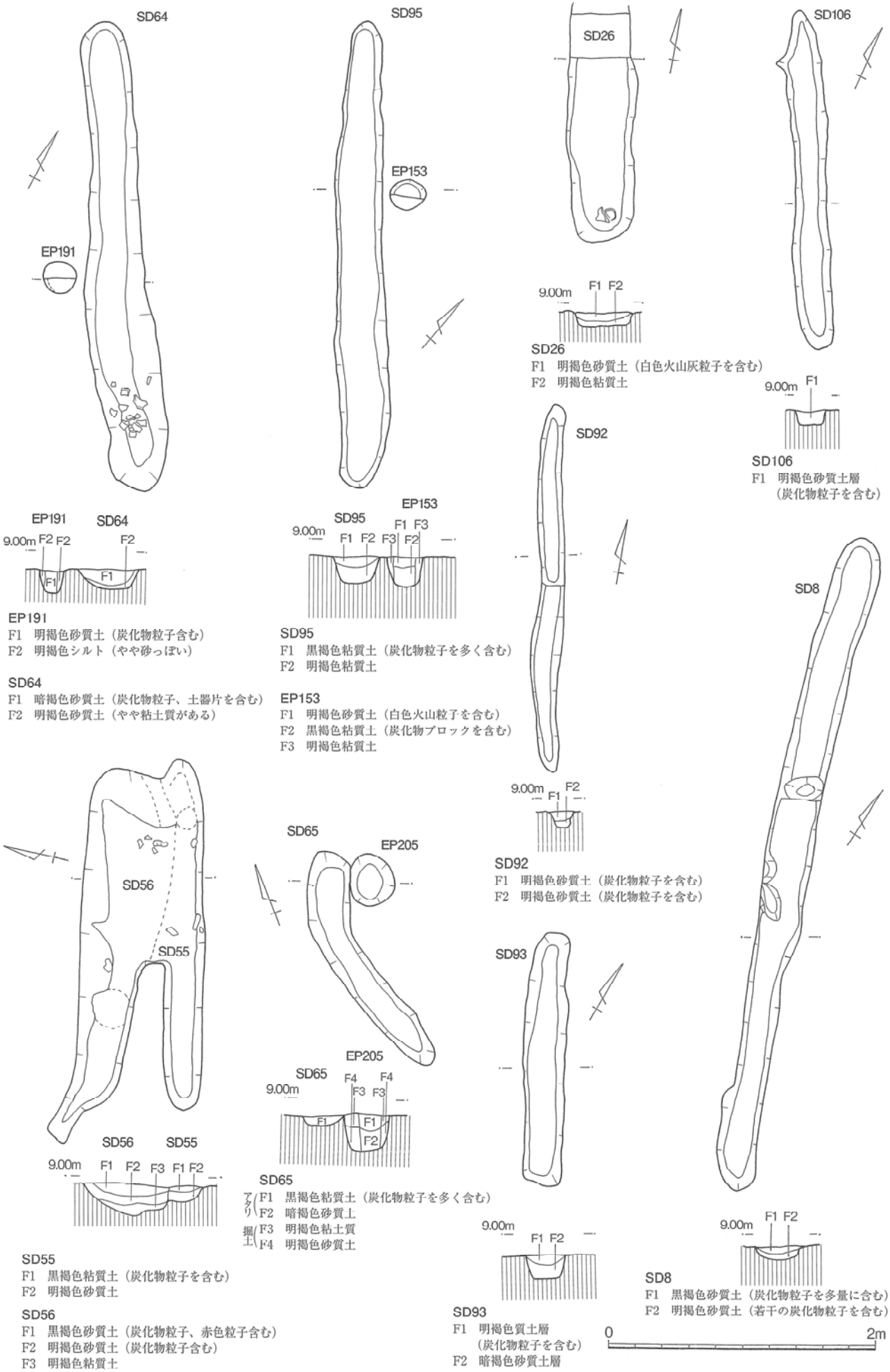
SD536
F1 明褐色砂質土（黒褐色粘質土ブロックを含む）

SK760
F1 暗褐色粘質土
（炭化物粒子を含む）
F2 黒褐色粘質土
（炭化物、明褐色砂質土ブロックを含む）
F3 明褐色砂質土ブロック

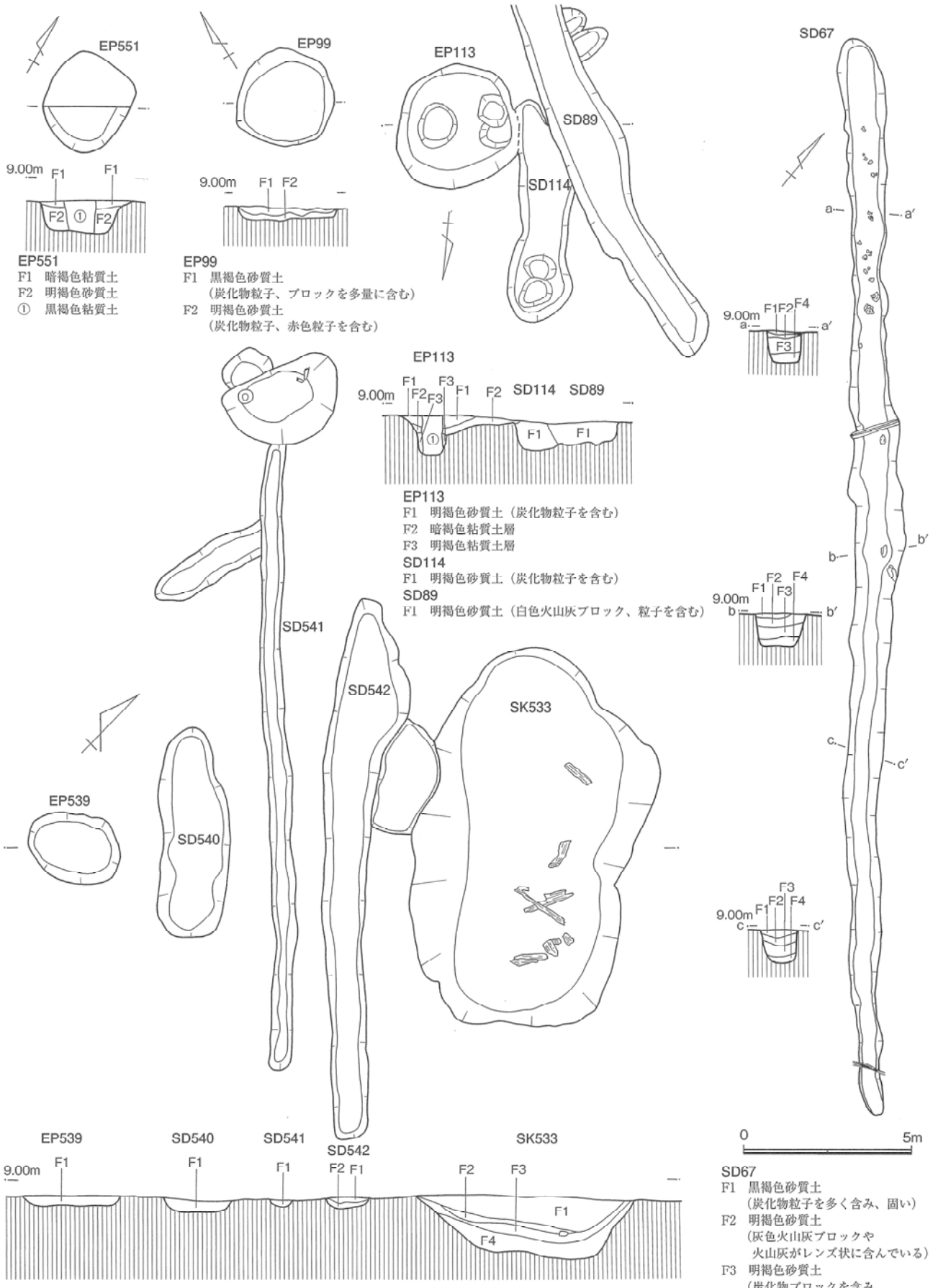
SK525
F1 黒褐色砂質土（明褐色砂質土粒子、炭化物粒子を含む）
F2 明褐色砂質土（赤色酸化ブロックを含みやや粘性がある）
F3 黒褐色粘質土（有機物ブロックを含む）
F4 黒色有機物層（黒褐色粘質土ブロックを含む）
F5 黒色有機物層

SK526
F1 茶褐色砂質土（炭化物ブロックを含む）
F2 明褐色砂質土
（赤色酸化粒子を含みやや粘性がある）

第12図　SK75・502・510・525・526・573・601・721・756・758・760土坑、SD74・511・534～536溝状遺構、EP572柱穴



第13図　SD8・26・55・56・65・92・93・95・106溝状遺構、EP153・191・205柱穴



EP551
F1　暗褐色粘質土
F2　明褐色砂質土
①　黒褐色粘質土

EP99
F1　黒褐色砂質土
（炭化物粒子、ブロックを多量に含む）
F2　明褐色砂質土
（炭化物粒子、赤色粒子を含む）

EP113
F1　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）
F2　暗褐色粘質土層
F3　明褐色粘質土層

SD114
F1　明褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

SD89
F1　明褐色砂質土（白色火山灰ブロック、粒子を含む）

SD67
F1　黒褐色砂質土
（炭化物粒子を多く含み、固い）
F2　明褐色砂質土
（灰色火山灰ブロックや
火山灰がレンズ状に含んでいる）
F3　明褐色砂質土
（炭化物ブロックを含み、
土器が出土する層）
F4　明褐色粘質土
（炭化物粒子を含む）

EP539
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子、赤色酸化粒子を含む）

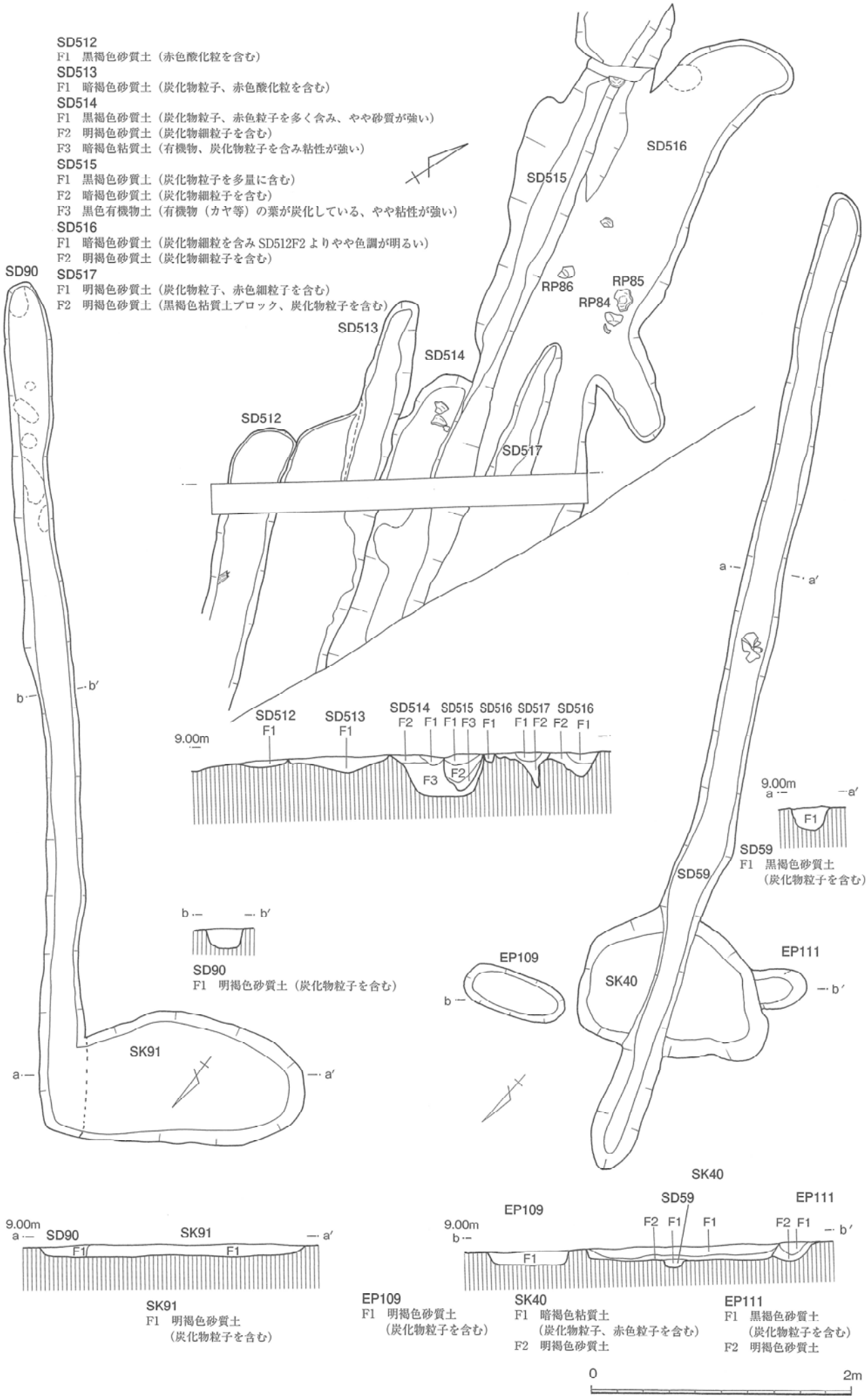
SD540
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子を含む）

SD541
F1　黒褐色粘質土（赤色酸化粒子を含む）

SD542
F1　黒褐色砂質土（炭化物ブロック粒子を多く含む）
F2　明褐色砂質土（赤色酸化粒子を含む）

SK533
F1　黒褐色砂質土（炭化物粒子を多く含む）
F2　黒褐色粘質土（炭化物粒子を多く含む）
F3　黒色有機物層（木片が炭化し堆積している）
F4　黒褐色粘質土

第14図　SD67・89・114・540～542溝状遺構、SK533土坑、EP99・113・539・551柱穴



第15図　SD59・90・512～517溝状遺構、SK40・91土坑、EP109・111柱穴

Ⅳ　出土遺物

1　遺物の分布

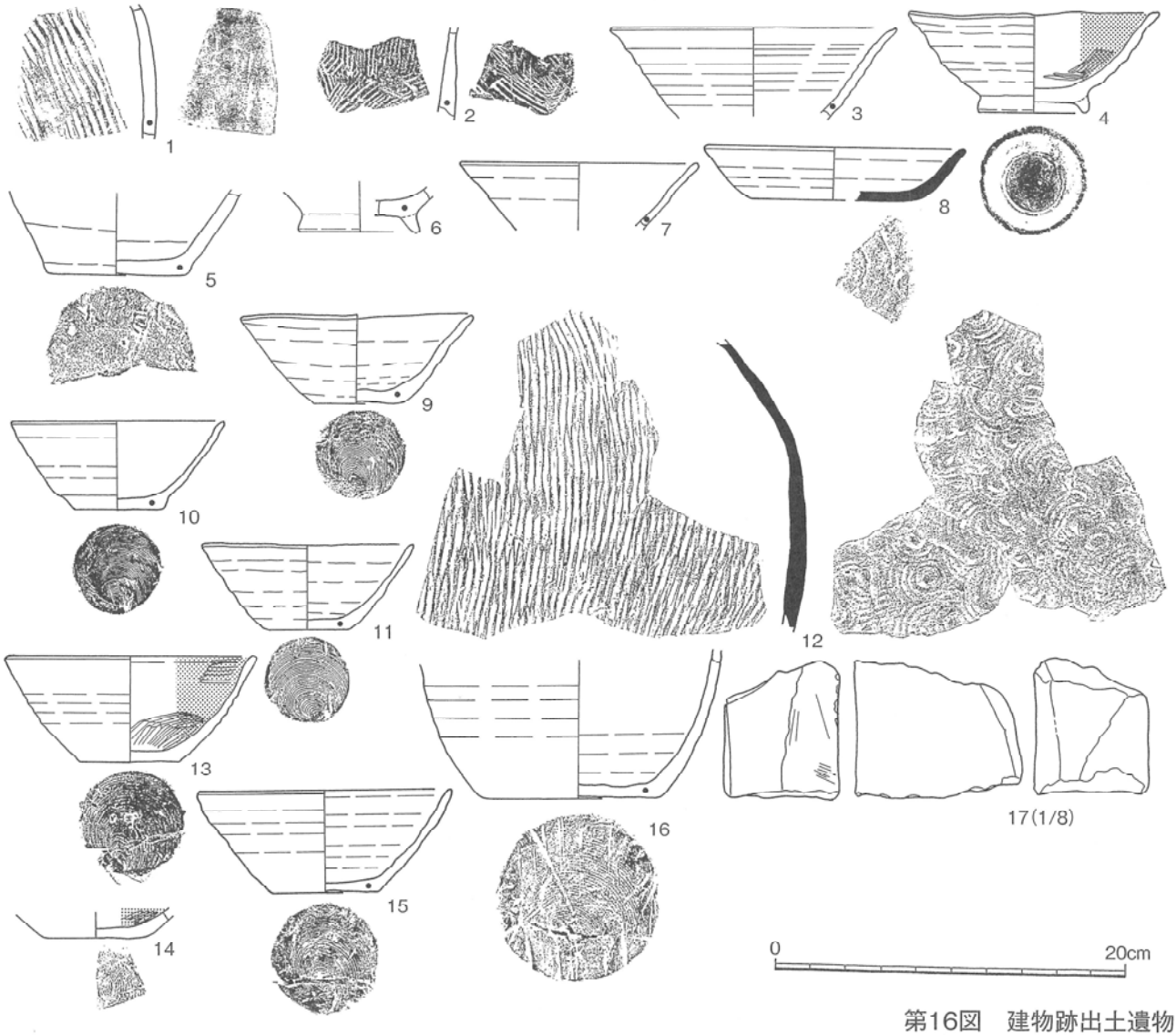
本調査で出土した遺物は整理箱にして60箱を数える。その内訳は土器が58箱、土製品･石製品･木製品２箱で、圧倒的に土器が多い。土器の種別では、内黒土器･須恵器・赤焼土器・青磁があり、その他、土錘・石帯・硯・古銭・箸・古槌・柱根等が出土している。分布状況では遺跡範囲内の表土や耕作地に広く散布する。遺物は基本層序の第Ⅱ層灰黄褐色層や、第Ⅲ層の黒褐色粘質土層から出土し、平成３年度に実施した遺跡詳細分布調査でも遺跡範囲として確認された東西約700ｍ、南北約780ｍの範囲に多く散布している。特に遺跡南西部や、南東部に集中した出土が認められ、調査区域の設定も２箇所に限定した。

2　掘立柱建物跡出土遺物（第16図、図版15、表２）

５棟の建物跡の柱根掘り方埋土内や建物内柱穴、建物周辺柱穴からは第16図に示した遺物が出土している。ＳＢ１建物跡のＥＢ45柱穴からは２の赤焼土器甕片が出土、内外面に刷毛目が施される。14は内黒土器坏の底部片であり、ＥＢ231柱穴より出土した。内面をヘラミガキの後、黒色化を施している。ＳＢ１建物跡内のＥＰ251柱穴からは８の須恵器坏が出土している。身が低く内外面にロクロ痕を施し、底部はヘラによる切り離しである。また、ＳＢ１建物跡付近のＥＰ63柱穴からは３の赤焼土器坏片、ＥＰ105柱穴からは４の内黒土器高台付坏が出土している。３の坏は内外面共にロクロ痕を明瞭に施し､口唇が外反する。４は内面をヘラミガキの後、黒色化となる。ＳＢ２建物跡の柱穴からは土器の出土は認められなかったものの、ＳＢ２建物跡とＳＢ３建物跡の重複範囲内のＥＰ159柱穴から赤焼土器坏が出土している。また、この範囲内からは17の砥石が検出された。大型で建物内に置かれたものと考えられる。ＳＢ４建物跡の柱穴からは土器の出土は認められなかった。ＳＢ５建物跡のＥＢ850柱穴からは15の赤焼土器坏と、16の赤焼土器甕下半部が出土し、ＥＢ854柱穴からは13の内黒土器坏が出土した。13は、外面にロクロ痕を残し、内面はヘラミガキの後、黒色化となる。13・15・16の底部は回転糸切りによる切り離しが施されている。また、ＳＢ５建物跡付近に位置するＥＰ764柱穴からは、９・10・11の赤焼土器が出土した。いずれも底部には回転糸切りが施されている。これらの出土遺物から、ＳＢ１～５建物跡が営まれた時期は10世紀と推測される。

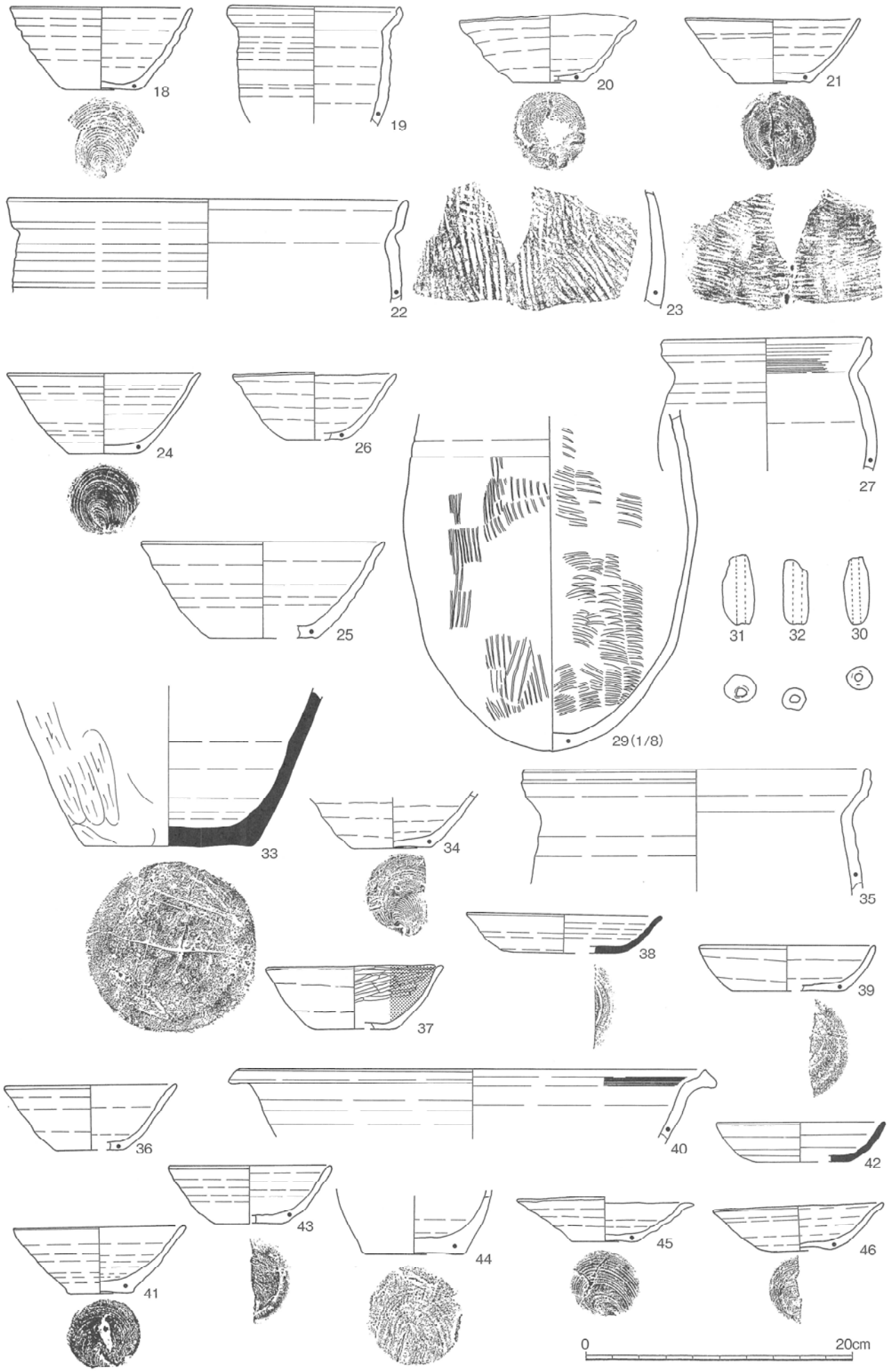
3　土坑内出土遺物（第17～19図、図版15～18、表２・３）

調査で確認された土坑はＡ区で47基、Ｂ区で32基の計79基を数える。各土坑からは土師器、須恵器、内黒土器、赤焼土器、製塩土器、石製品、土製品が出土した。器種では、共膳形態の坏・皿・高台付坏、煮沸形態の甕・堝、貯蔵形態



第16図　建物跡出土遺物

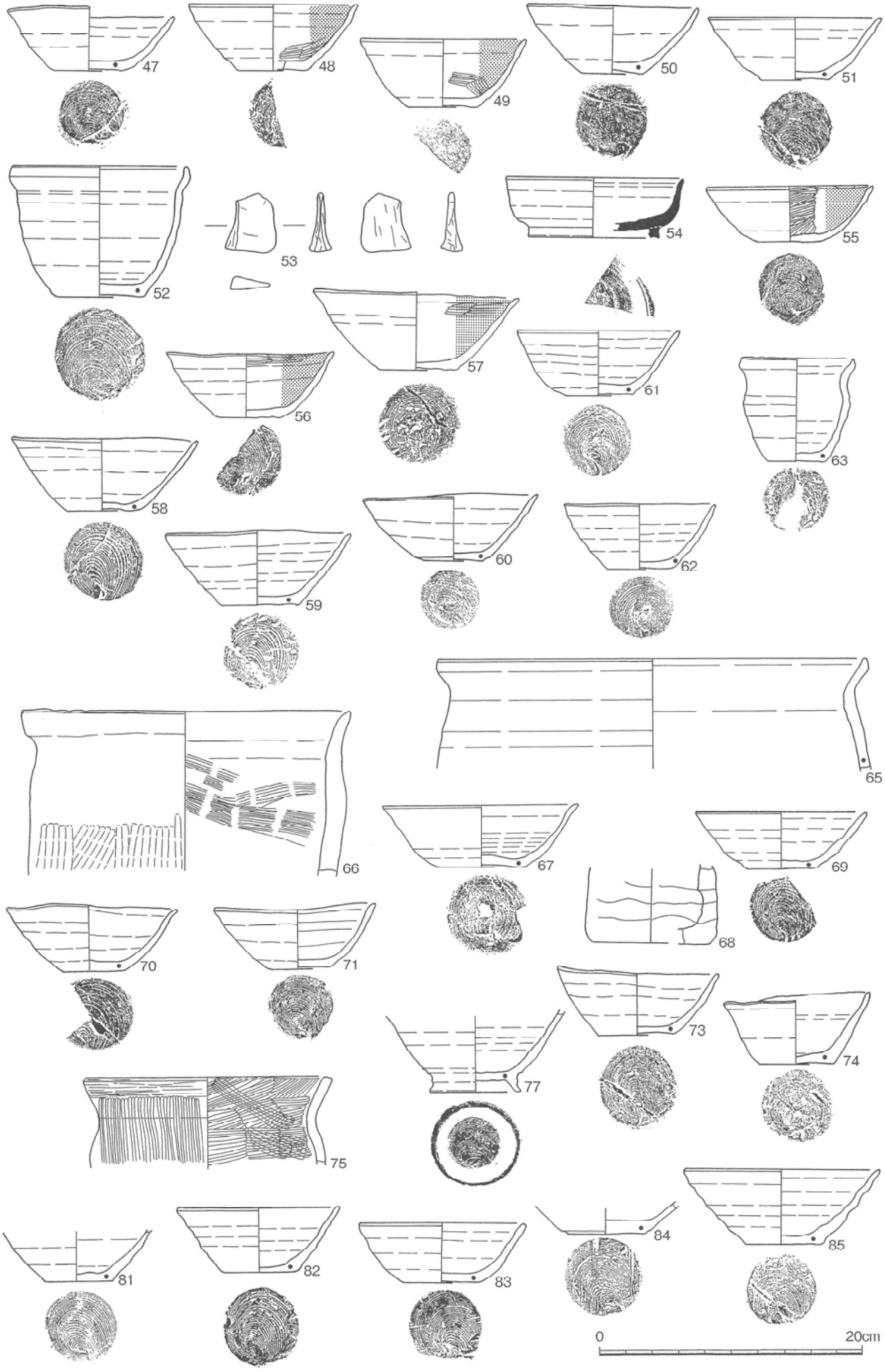
の壺等である。ここでは土坑内出土遺物のなかで、土坑が営まれた時期や性格等を示す遺物を第17・18図に示した。中でもＳＫ46土坑の覆土２層が黒褐色砂質土層で、白色火山灰がブロック状と、炭化物粒子を含む埋め土となり、出土した赤焼土器坏（第18図70）が火山灰を降灰した時期に近接すると考える。図示した遺物では、ＳＫ22土坑からは第17図18・19・22の赤焼土器が出土している。18は坏形土器で器面にロクロ痕を残し、底部は回転糸切り離しである。身が高く、体部がやや脹らみ、口唇が直立する。口径が140mmとやや大振りである。19・22は甕片である。19は小振りの土器で口唇が内傾するが、22は口唇が立ち上がる。ＳＫ23～25・28・31・32・37～41・44・46・48・50・66・70・72・75・525・527・533・549・721土坑からの出土遺物を図示したが、土器の観察では出土した遺物の形状や製作法が同様である。第18図の68は製塩土器である。SK44土坑からの出土で、底径が90mmの小形の土器である。粗砂を含む太さ10mmの粘土紐を巻き上げている。内部は掻きあげた痕跡を残す。75はＳＫ



第17図　土坑内出土遺物(1)

表2　出土遺物観察表(1)　建物跡・土坑

挿図番号		器種		計測値 (m/m) 口径	底径	器高	胎土	色調	調整技法	出土地点
第16図	1	赤焼	甕	—	—	—	粗砂混	にぶい黄橙 10YR6/3	外面　条線状叩き　アテ	SB3 EB113
	2		甕	—	—	—	緻密	にぶい橙 7.5YR6/4	内　外面　ハケ目	SB1 EB45
	3		坏	166	—	—	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/4	ロクロ痕	EP63
	4	内黒	高台坏	145	62	57	緻密	灰白 10YR8/2	ヘラミガキ→黒色化	EP105
	5	赤焼	甕	—	82	—	粗砂混	明黄褐 10YR6/6	外面　ハケ目	SB3 EB113
	6		高台坏	—	—	—	緻密	にぶい橙 7.5YR7/4	ロクロ痕	SB3 EB158
	7		坏	138	—	—	粗砂混	橙 7.5YR7/6	ロクロナデ	SB2・3 EP159
	8	須恵器	坏	127	70	31	緻密	灰白 10YR7/1	ヘラ切り	SB1 EP251
	9	赤焼	坏	135	52	51	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	EP764F$_2$
	10		坏	124	50	51	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	EP764F$_1$
	11		坏	122	50	49.5	粗砂混	明褐 7.5YR7/2	回転糸切り　ロクロナデ	EP764
	12	須恵器	甕	—	—	—	緻密	褐灰 10YR5/1	外面　格子目状叩き　内面　青海波アテ痕	SB1 EB114
	13	内黒	坏	146	59	62	緻密	にぶい黄橙 10YR7/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SB5 EB854
	14		坏	—	57	—	細砂混	にぶい黄橙 10YR7/2	ヘラミガキ→黒色化	SB1 EB231
	15	赤焼	坏	146	62	53.5	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/2	回転糸切り　ロクロナデ	SB5 EB850
	16		甕	—	104	—	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SB5 EB850
	17	石製品	砥石	—	—	—	—	褐灰 7.5YR6/1		SB2・3
第17図	18	赤焼	坏	140	60	62	粗砂混	にぶい橙 5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK22
	19		甕	130	—	87	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/4	ロクロ痕	SK22
	20		坏	135	53	51.5	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK23
	21		坏	135	57	48	細砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK23
	22		甕	304	—	—	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	ロクロ痕	SK22
	23		甕	—	—	—	粗砂混	にぶい橙 10YR7/3	外面　条線状叩き　内面　条線状アテ	SK23
	24		坏	148	55	60	細砂混	橙 5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK23
	25		坏	184	80	72	粗砂混	橙 5YR7/8	回転糸切り　ロクロナデ	SK24
	26		坏	126	44	49	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK24
	27		甕	158	—	100	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	ロクロ痕	SK24
	29		甕	—	—	—	細砂混	にぶい橙 5YR7/3	外面　条線状叩き　内面　条線状アテ	SK24
	30	土製品	土錘	長さ51　径20			粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/3		SK24F$_1$
	31		土錘	長さ53　径23			粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/2		SK521F$_1$
	32		土錘	長さ49　径18			粗砂混	灰黄褐 10YR6/2		SK521F$_1$
	33	須恵器	甕	—	—	—	緻密	褐灰 10YR6/1	外面　ヘラケズリ→布ナデ　内面　櫛ミガキ	SK25
	34	赤焼	坏	—	60	38	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK25
	35		甕	262	—	91	粗砂混	橙 7.5YR7/6	ロクロ痕	SK25
	36		坏	132	54	48	粗砂混	にぶい橙 5YR6/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK28
	37	内黒	坏	136	64	48	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ　横位のヘラミガキ	SK29F$_1$
	38	須恵器	坏	148	70	29	緻密	褐灰 10YR6/1	ロクロナデ	SK31
	39	赤焼	皿	134	82	35	粗砂混	にぶい褐 7.5YR6/3	ヘラ切り　還元燻焼成による	SK31
	40		堝	37.4	—	—	粗砂混	橙 7.5YR7/6	ロクロ痕	SK31
	41		坏	—	75	—	粗砂混	橙 7.5YR7/6	回転糸切り	SK31
	42	須恵器	坏	130	70	30	細砂混	灰白 10YR7/1	ロクロ痕	SK32
	43	赤焼	坏	124	50	45	粗砂混	灰白 10YR8/1	回転糸切り　ロクロナデ	SK37
	44		坏	130	52	51	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK37
	45		皿	136	50	35	細砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK38
	46		坏	130	46	34	粗砂混	明褐灰 7.5YR7/2	回転糸切り　ロクロナデ	SK38
第18図	47	赤焼	坏	128	50	47	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK38



第18図　土坑内出土遺物(2)

66土坑底面から出土の土師器の甕片である。全面にヘラケズリやヘラナデ根を残し、時期は8世紀第4四半期と推測する。遺跡から確認した土坑のなかではＳＫ66土坑が古い形態を示すが、そのほかの土坑は、火山灰の降灰期である10世紀第1四半期と確認できる。

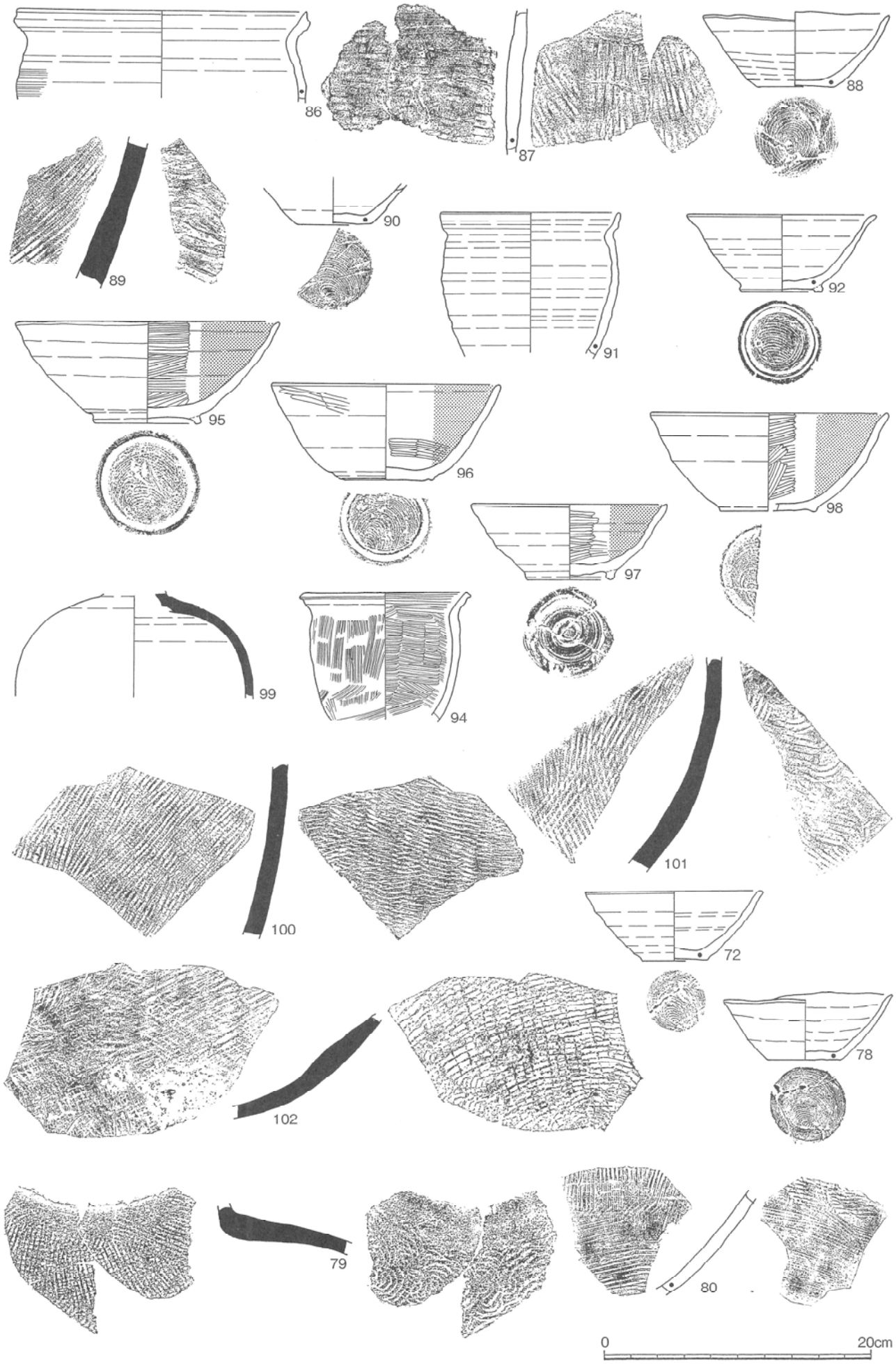
4　溝状遺構出土遺物（第19～21図、図版18～22、表3～5）

調査では21条の溝跡を図示した。溝跡はやや南北に走る溝状遺構が多いが、Ｂ区では東西に走る溝状遺構が多く検出されている。これはある程度の遺構の性格や、時期等に反映しているものと考え、南北方向を持つ溝跡を中心に示し説明する。Ａ区では数条の溝跡が確認されている。ここでは調査区南部で確認されたＳＤ67溝跡を代表にし、他は調査で出土した遺物のみを図示し、説明を割愛した。

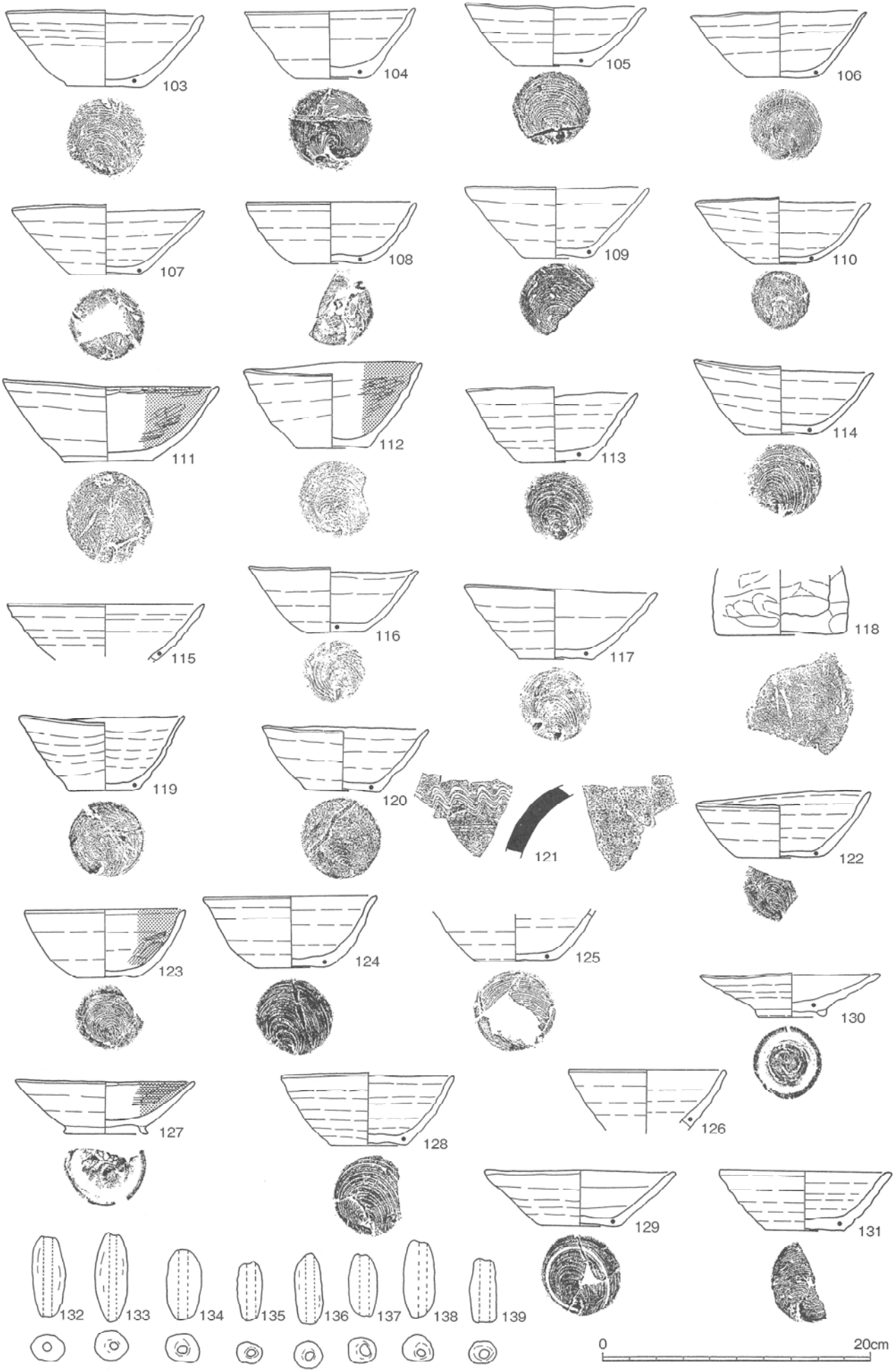
ＳＤ67溝跡はやや南北に走り、Ａ区で検出された建物跡の主軸方向とその向きを同じとしている。断面形はＵ字状となり、覆土2層には灰色の火山灰が厚さ6～10㎝に堆積し、第19図94から第20図118までの土器が出土している。火山灰は降灰したのち降雨によって溝内に流入したと考える。出土した土器は、土師器、須恵器、内黒土器、赤焼土器、製塩土器で、器種は甕、坏、高台付坏、壺である。94は土師器の甕片である。口径13㎝、底部は欠損しているが器高10㎝の小形の土器である。器全面に刷毛目による器面調整を施している。赤焼土器では第20図の坏形土器（103～110・113～117）がある。器形では歪なものが多く、底径が小さく、体部が丸くなるもの（108・110・114）が観察される。また、器高は43～64mmで、直線的に立ち上がるもの（109・113）や、大きく外反する器形がある。内黒土器は第19図95～98、第20図111・112を図示した。器形では、口径が広く、器も厚く、しっかりとした成形である。ロクロ痕を示し、器内部をヘラケズリ後、黒色化を施している。底部の切り離しは95・96・98・111・112が回転糸切りであり、97は回転ヘラ切りである。器は高台が付くもの（95・97）と高台が付かないもの（111・112）が観察される。須恵器では99の壺体部と、100～102の甕片である。99は体部が丸くなり、ロクロ面を残す。甕片の内面は条線状のアテ痕（100）、同心状のアテ痕（101）、格子目状のアテ痕（102）が施される。外面は条線条のタタキが施される。溝状遺構内からの出土土器はSD67溝跡からの出土土器の成形法と変わらず、時期は10世紀第1四半期と推測する。

5　旧河川跡出土遺物（第22図、図版22、表5）

Ａ区北半部に確認された幅約20～28ｍの河川が埋没した跡である。圃場整備事業という開発行為が原因の発掘調査であり、河川跡を大きく掘り下げることは事業完成後に耕作作業に支障をきたすことから、面での範囲の確認のみとし、南部となる左岸に幅1ｍ、長さ5～10ｍのトレンチを設置し、岸辺を掘り下げた。



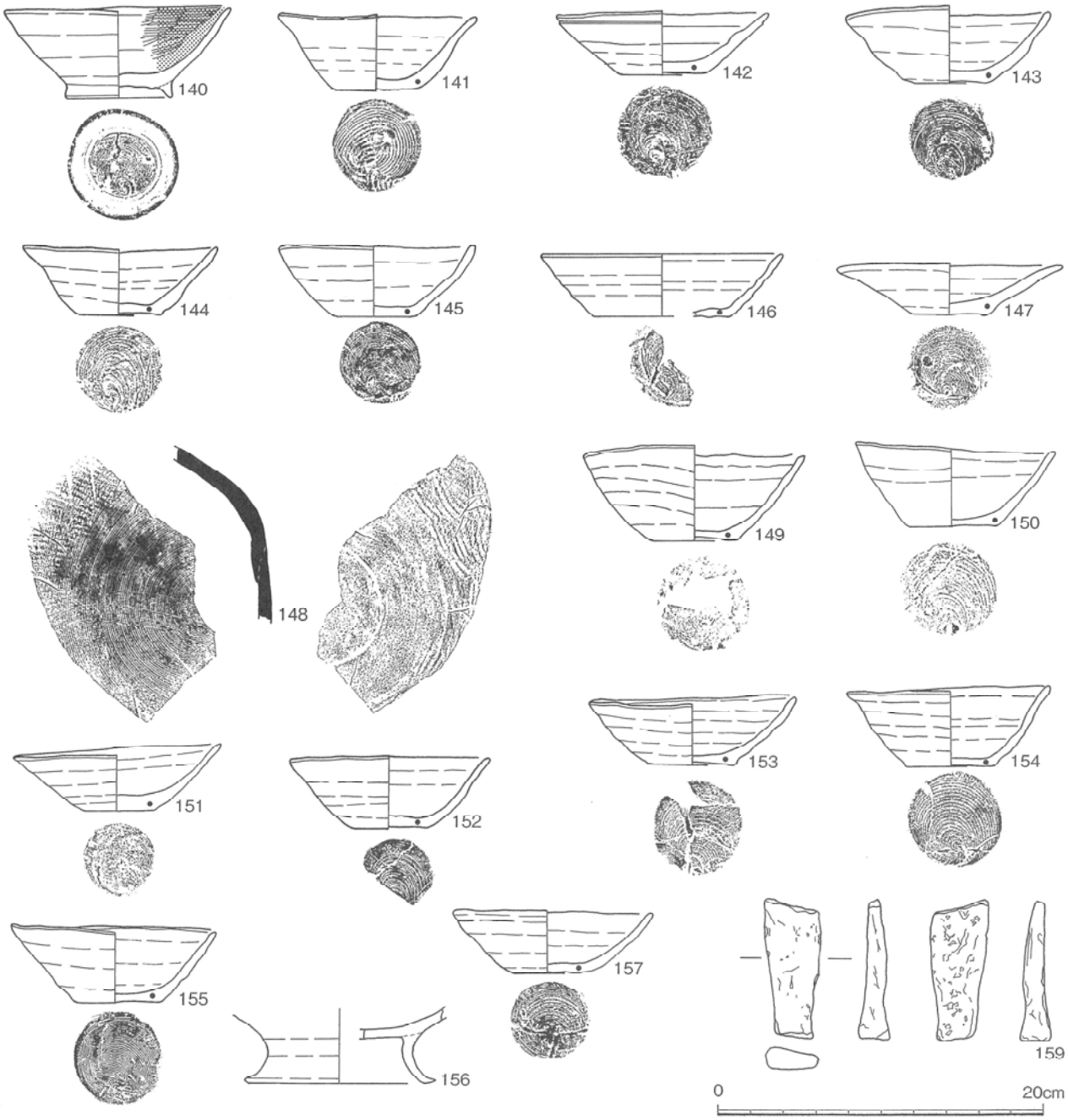
第19図　土坑内出土遺物（3）、溝状遺構出土遺物（1）



第20図　溝状遺構出土遺物(2)

表3　出土遺物観察表(2)　土坑・溝状遺構

挿図番号		器種		計測値(m/m) 口径	底径	器高	胎土	色調		調整技法	出土地点
第18図	48	内黒	坏	130	54	48	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK39
	49		坏	124	50	60	粗砂混	にぶい橙	5YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK39
	50	赤焼	坏	133	48	50	粗砂混	にぶい橙	5YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK39
	51		坏	133	54	47	粗砂混	黒	10YR1.7/1	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK39
	52		甕	135	70	98	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK41
	53	石製品	砥石	—	—	—	—	にぶい黄橙	10YR7/2		SK39
	54	須恵器	高台杯	134	100	45	細砂混	褐灰	10YR6/1	ロクロナデ	SK40
	55	内黒	坏	127	50	42	緻密	にぶい黄橙	10YR7/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK41
	56		坏	128	47	51	細砂混	灰白	10YR8/1	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK41
	57		坏	157	60	58	粗砂混	灰白	10YR8/1	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK41
	58	赤焼	坏	142	52	57	粗砂混	橙	5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK41
	59		坏	141	54	58	粗砂混	橙	5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK41
	60		坏	130	46	49	粗砂混	にぶい橙	5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK41
	61		坏	124	52	49	粗砂混	淡橙	5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK41
	62		坏	116	50	49.5	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK41
	63		壷	87	46	80	粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3	ロクロ痕	SK41
	65	赤焼	甕	328	—	—	粗砂混	橙	5YR6/6	ロクロ痕	SK44
	66	土師器	甕	250	—	—	粗砂混	橙	5YR6/6	外面　条線状叩き　内面　ハケ目	SK42
	67	赤焼	坏	150	64	47	粗砂混	灰白	5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SK42
	68	製塩土器	—	90	—	—	粗砂混	にぶい赤橙	5YR5/4		SK44
	69	赤焼	坏	132	54	43.5	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り	SK44
	70		坏	131	49	51	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK46
	71		坏	123	46	49	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK48
第19図	72		坏	134	48	52	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK48
第18図	73		坏	123	57	52	粗砂混	橙	5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK48
	74		坏	114	56	55	粗砂混	にぶい橙	5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK50
	75	土師器	甕	190	—	—	細砂混	黒	7.5YR1.7/1	回転糸切り　ロクロナデ	SK66Y
	77	赤焼	高台坏	—	69	—	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK70
第19図	78		坏	128	56	50	細砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK75
	79	須恵器	甕	—	—	—	粗砂混	灰	10YR5/1	外面　条線状叩き　内面　青海波アテ痕	SK72
	80	赤焼	壷	—	—	—	細砂混	褐灰	10YR6/1	外面　格子目叩き　内面　タタキ　ヘラナデ	SK72
第18図	81		坏	100	52	37	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK525F$_5$
	82		坏	124	60	49	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK527
	83		坏	128	60	45	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK533F$_2$
	84		坏	—	60	—	粗砂混	にぶい黄橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK549F$_2$
	85		坏	150	54	59	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK721
第19図	86	赤焼	甕	220	—	—	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	ロクロ痕	SK41F$_1$
	87		甕	—	—	—	粗砂混	にぶい黄橙	10YR4/3	外面　条線状叩き　内面　条線状アテ	SK41F$_1$
	88		坏	142	59	55	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD59F$_1$
	89	須恵器	甕	—	—	—	粗砂混	灰	10Y5/1	外面　格子目叩き　内面　条線状アテ	SD47F$_1$
	90	赤焼	坏	—	56	—	細砂混	橙	5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD59F$_1$
	91		甕	136	—	—	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	ロクロナデ	SD64
	92		高台坏	144	64	58	細砂混	緑灰	N5/1	回転糸切り	SD64F$_2$
	94	土師器	甕	130	—	—	細砂混	橙	7.5YR6/6	内外面　ヘラナデ	SD67F$_1$

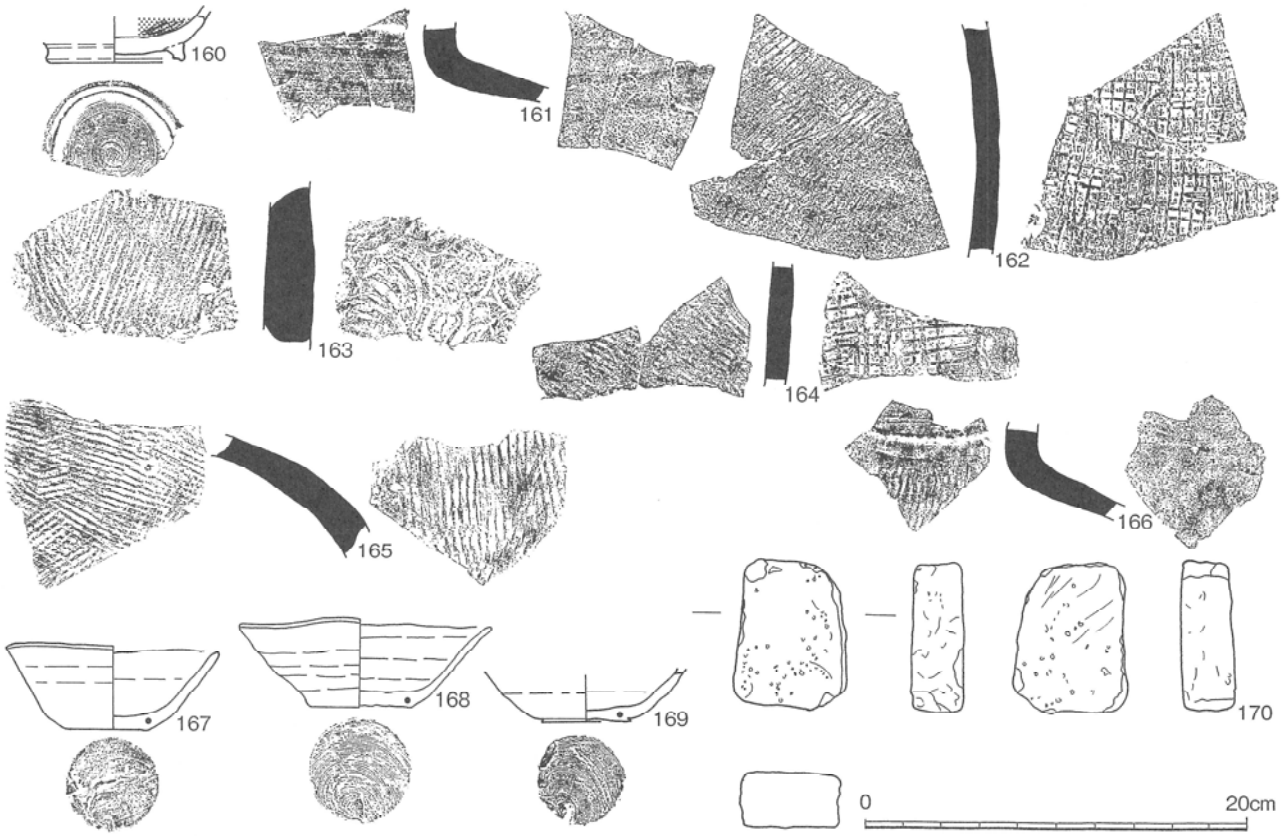


第21図　溝状遺構出土遺物(3)

調査では第22図に示した遺物が出土した。器種は内黒土器（160）、須恵器（161～166）、赤焼土器（167～169）、石製品（170）である。160は内黒土器の高台付坏で、底部部分の土器である。見込みを放射状にヘラミガキ後、黒色化を施している。底部の切り離しは回転ヘラケズリと観察されるが判然としない。高台は直立するが、高台底面は内側に曲がり、ヘラによるナデの線状の掘り込みが観察される。161～166は須恵器の甕片である。ロクロ痕を示す161以外は、外面に条線状のタタキ痕、内面に格子目状アテ痕（162・164）、青海波アテ痕（163）、条線状アテ痕（165）が施される。166は外面条線状タタキで、内面には灰かぶりが観察された。167～169は赤焼土器の坏形土器である。167・168は器形が歪となり、全面にロクロ痕が観察される。169は底部のみの土器である。底部の切

表4　出土遺物観察表(3)　溝状遺構

挿図番号		器種		計測値（m/m）			胎土	色調	調整技法	出土地点
				口径	底径	器高				
第19図	95	内黒	高台坏	200	80	78	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD67
	96		坏	172	72	53	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD67F
	97		高台坏	148	66	57.5	粗砂混	灰白 7.5YR8/2	回転ヘラ切り　ヘラミガキ→黒色化	SD67
	98		坏	179	72	75	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD67
	99	須恵器	壺	—	—	—	緻密	灰 N6/	ロクロ痕	SD67F$_1$
	100		甕	—	—	—	緻密	灰 10Y5/1	外面　格子目叩き　内面　条線状アテ	SD67F$_1$
	101		甕	—	—	—	細砂混	暗灰 N3/	外面　格子目叩き　内面　同心状アテ	SD67F$_1$
	102		甕	—	—	—	粗砂混	灰 N4/	外面　条線状叩き　内面　格子目アテ	SD67F$_1$
第20図	103	赤焼	坏	149	58	59	粗砂混	橙 7.5YR6/8	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	104		坏	130	55	52	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD67F$_1$
	105		坏	137	58	48	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	106		坏	134	54	50	細砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	107		坏	145.5	54	52	粗砂混	橙 5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD67F$_1$
	108		坏	130	59	46	粗砂混	淡橙 5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD67F
	109		坏	139.5	64	52.5	細砂混	灰白 5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	110		坏	132.5	44	49	粗砂混	橙 5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	111	内黒	坏	163	69	63	粗砂混	灰白 7.5YR8/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD67
	112		坏	135	55	63	粗砂混	灰白 7.5YR8/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD67F
	113	赤焼	坏	132	52	56	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	114		坏	136	55	57	細砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	115		坏	150	—	—	細砂混	淡橙 5YR8/4	ロクロナデ	SD67F
	116		坏	130	43	50	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD67F$_1$
	117		坏	146	57	56	細砂混	淡橙 5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD67
	118	製塩土器	—	—	100	—	粗砂混	橙 5YR6/6	ヘラ切り	SD67F$_1$
	119	赤焼	坏	125	55	50	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD73
	120		坏	136	58	47	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD73
	121	須恵器	甕	—	—	—	粗砂混	灰 7.5YR6/1	外面　ロクロ痕　内面　櫛書波状紋	SD125F$_1$
	122	赤焼	坏	138	60	50.5	細砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD514F$_1$
	123	内黒	坏	122	48	50	細砂混	灰白 7.5YR8/1	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD514F$_1$
	124	赤焼	坏	124	58	48	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD514F$_1$
	125		坏	—	60	—	細砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD515F$_1$
	126		坏	120	—	—	細砂混	淡橙 5YR8/3	ロクロナデ	SD515F$_1$
	127	内黒	高台坏	138	62	41	細砂混	灰白 10YR8/1	ヘラミガキ→黒色化	SD516
	128	赤焼	坏	132	57.5	55	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD519F$_1$
	129		坏	140	60	39	細砂混	灰白 7.5YR8/2	ロクロナデ	SD520F$_1$
	130		高台皿	131	52	32	粗砂混	灰白 10YR8/2	ロクロ痕	SD520F$_1$
	131		坏	128	60	43.5	粗砂混	灰白 10YR8/2	ロクロナデ	SD520F$_1$
	132	土製品	土錘	長さ61　径26			粗砂混	灰白 10YR7/1		SD520F$_2$
	133		土錘	長さ67　径26			粗砂混	オリーブ黒 10YR4/1		SD520F$_2$
	134		土錘	長さ53　径25			粗砂混	にぶい黄橙 10YR6/3		SD520F$_1$
	135		土錘	長さ45　径18			粗砂混	褐灰 10YR4/1		SD520F$_2$
	136		土錘	長さ54　径22			粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/3		SD521F$_1$
	137		土錘	長さ46　径21			粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/3		SD521F$_1$
	138		土錘	長さ59　径23			粗砂混	灰 7.5YR6/1		SD536F$_1$
	139		土錘	長さ49　径21			粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/3		SD560F$_1$
第21図	140	内黒	高台坏	142	67	56	細砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD530
	141	赤焼	坏	124	56	47	粗砂混	橙 7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD530F$_1$



第22図　旧河川跡出土遺物

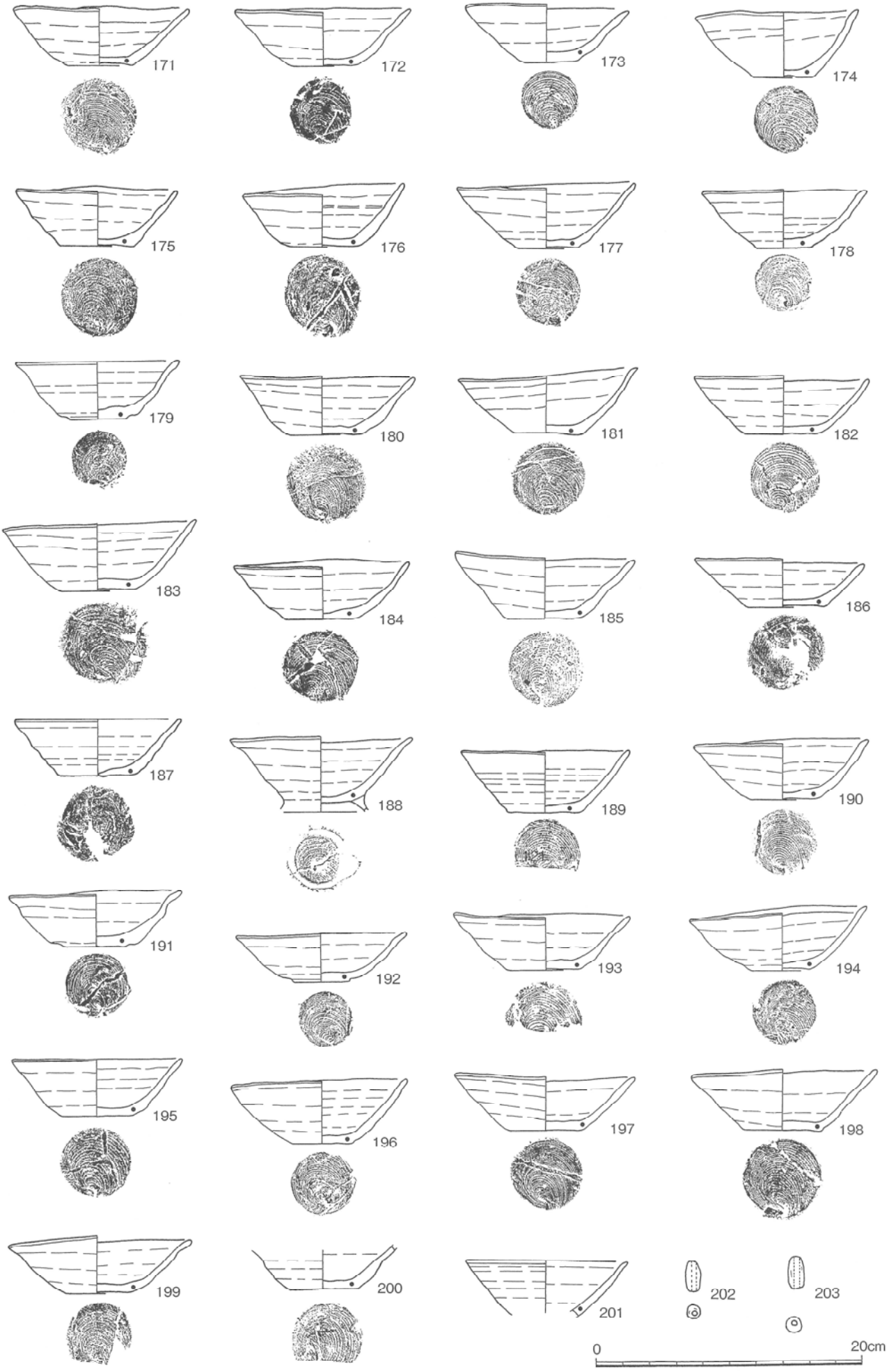
り離しは回転糸切り離しである。器形は体部がやや丸みをもつもの(167・169)と、大きく外に広がるもの(168) がある。170は砥石である。高さ8cm、幅6cm、厚さ3cmの完形品である。時期は10世紀第3四半世紀に推測される。

6　性格不明遺構出土遺物（第23図、図版22～24、表5・6）

B区南部調査区で確認された長辺約8m、短辺約7mのほぼ方形に検出した竪穴遺構である。SX751遺構と命名し、覆土からは第23図に図示した赤焼土器と、土錘が出土した。赤焼土器はほとんどが歪な成形を示し、体部にロクロ痕を明瞭に残し、丸みをもつものと、口縁が広がる器形が認められる。器高は4～6cmと低く、口唇が大きく外反するもの（179・191)、丸みをもつもの（174・178・181・184・190)が観察される。底部の切り離しはすべて回転糸切りを明瞭に示し、183は糸切りの跳ねた跡を残している。202・203は長さ約2cm、径約1cmの土錘である。中心に径3mmの孔を施している。網に使用する錘と推測する。これらは時期は10世紀第3四半期に推測する。

7　包含層出土遺物（第24図、図版24・25、表6）

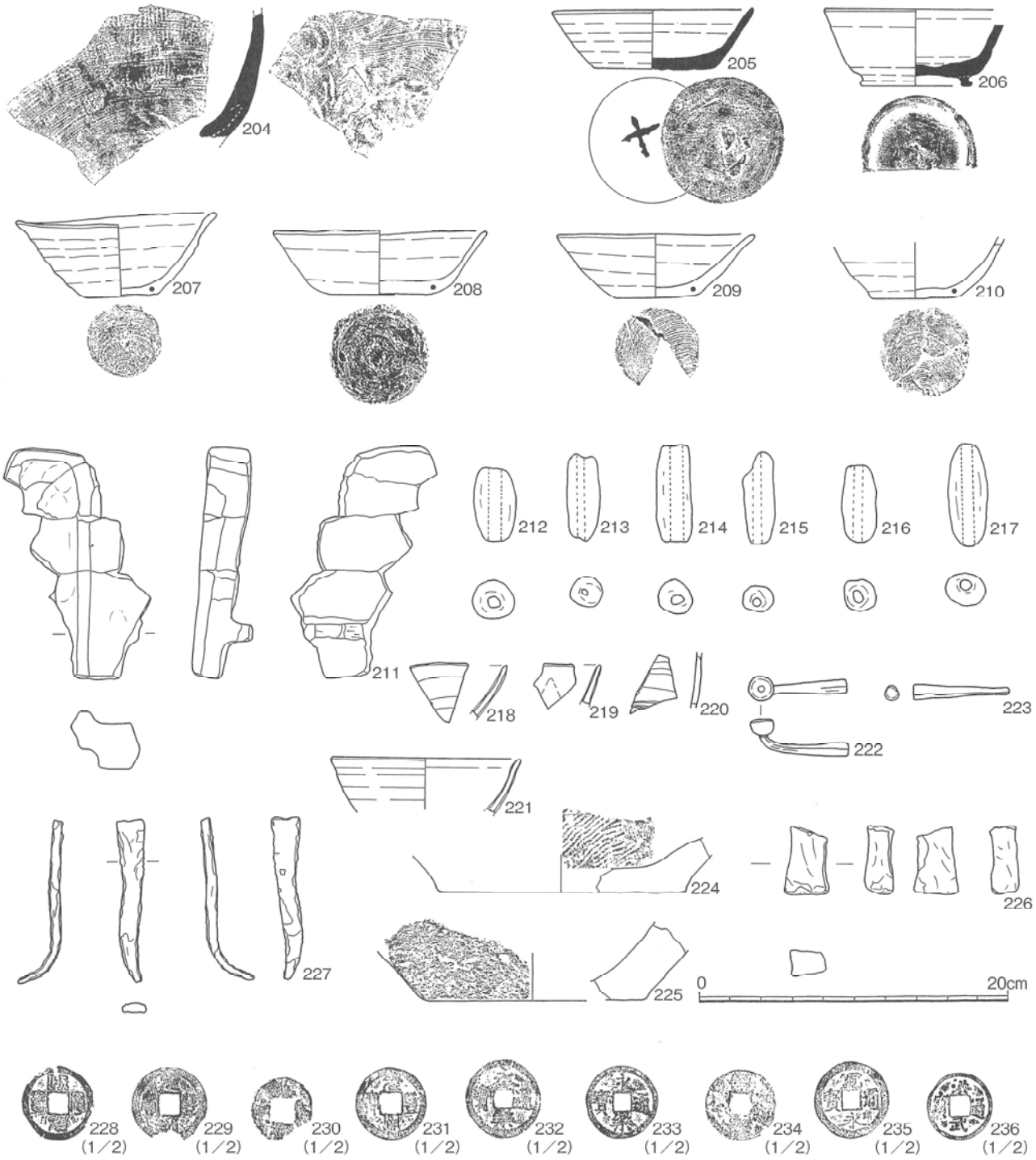
調査での遺跡から出土した遺物を第24図に図示した。器種は須恵器、赤焼土器、青磁、緑釉陶器、中世陶器、土製品、キセルの雁首、鉄製品である。204は、須恵器の横瓶片である。外面を格子目状のタタキ痕、内面を青海波アテ痕とヘラによる横ナデ痕が観察される。205は須恵器の坏である。底径が8cmと広く、



第23図　性格不明遺構出土遺物

表5　出土遺物観察表(4)　溝状遺構・性格不明遺構

挿図番号		器種		計測値（m/m）			胎土	色調		調整技法	出土地点
				口径	底径	器高					
第21図	142	赤焼	坏	133	58	38	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD530F$_1$
	143		坏	127	45	47.5	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD530F$_1$
	144		坏	128	54	44	粗砂混	にぶい橙	5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD530F$_1$
	145		坏	124	50	43	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD530F$_1$
	146		坏	148	88	48	細砂混	淡橙	5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD537
	147		皿	140	50	32	細砂混	浅黄橙	7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD555F$_1$
	148	須恵器	横瓶	—	—	—	緻密	灰	10Y5/1	外面　叩き　ハケ目　内面　青海波アテ　閉栓部	SD558F$_1$
	149	赤焼	坏	138	54	53	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD560F$_1$
	150		坏	124	56	53	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD630F$_1$
	151		坏	130	44	42	粗砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD755F
	152		坏	125	48	44	細砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD755
	153		坏	130	55	41	粗砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD755F$_1$
	154		坏	126	57	59	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD761F$_2$
	155		坏	127	55	49	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD765F$_1$
	156	土師器	高坏	—	116	—	細砂混	灰白	7.5YR8/2	ヘラ整形→布ナデ	SD771
	157	赤焼	坏	125	47	40	細砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD771F$_1$
	159	石製品	砥石	—	—	—	—	明黄褐	10YR6/6		SD772
第22図	160	内黒	高台坏	—	72	—	細砂混	にぶい黄橙	10YR7/3	ヘラミガキ→黒色化	SG21F$_1$
	161	須恵器	甕	—	—	—	細砂混	灰	7.5Y5/1	ロクロ痕	SG21F
	162		甕	—	—	—	細砂混	灰	7.5Y5/1	外面　条線状叩き　内面　格子目状アテ	SG21F
	163		甕	—	—	—	粗砂混	灰	10Y5/1	外面　条線状叩き　内面　青海波アテ	SG21F
	164		甕	—	—	—	細砂混	灰白	7.5Y7/1	外面　条線状叩き　内面　格子目状アテ	SG21F
	165		甕	—	—	—	細砂混	灰		外面　条線状叩き　内面　条線状アテ	SG21F
	166		甕	—	—	—	細砂混	灰白	7.5Y7/1	外面　条線状叩き　内面　一部灰かぶり	SG21F
	167	赤焼	坏	113	49	46	細砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SG21F
	168		坏	135	55	47	粗砂混	灰白	10YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SG21
	169		坏	—	46	24	細砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SG21F
	170	石製品	砥石	長80	幅60	厚30	—	橙	7.5YR6/8		SG21
第23図	171	赤焼	坏	134	46	42	細砂混	浅黄橙	7.5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	172		坏	135	54	44	細砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_1$
	173		坏	125	44	44.5	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	174		坏	124	48	50	粗砂混	淡橙	5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	175		坏	124	58	41	粗砂混	浅黄橙	10YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	176		坏	131	60	47	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	177		坏	133	47	46.5	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	178		坏	125	43	43	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	179		坏	124	44	43	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_1$
	180		坏	133	57	48	粗砂混	にぶい橙	5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	181		坏	134	52	50	粗砂混	灰白	5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	182		坏	131	50	40	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	183		坏	128	60	48.5	粗砂混	灰白	7.5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	184		坏	134	53	42	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	185		坏	137	55	46	粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	186		坏	129	60	36.5	粗砂混	浅黄橙	7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	187		坏	126	60	42.5	細砂混	淡橙	5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	188		高台坏	138	65	55	粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$



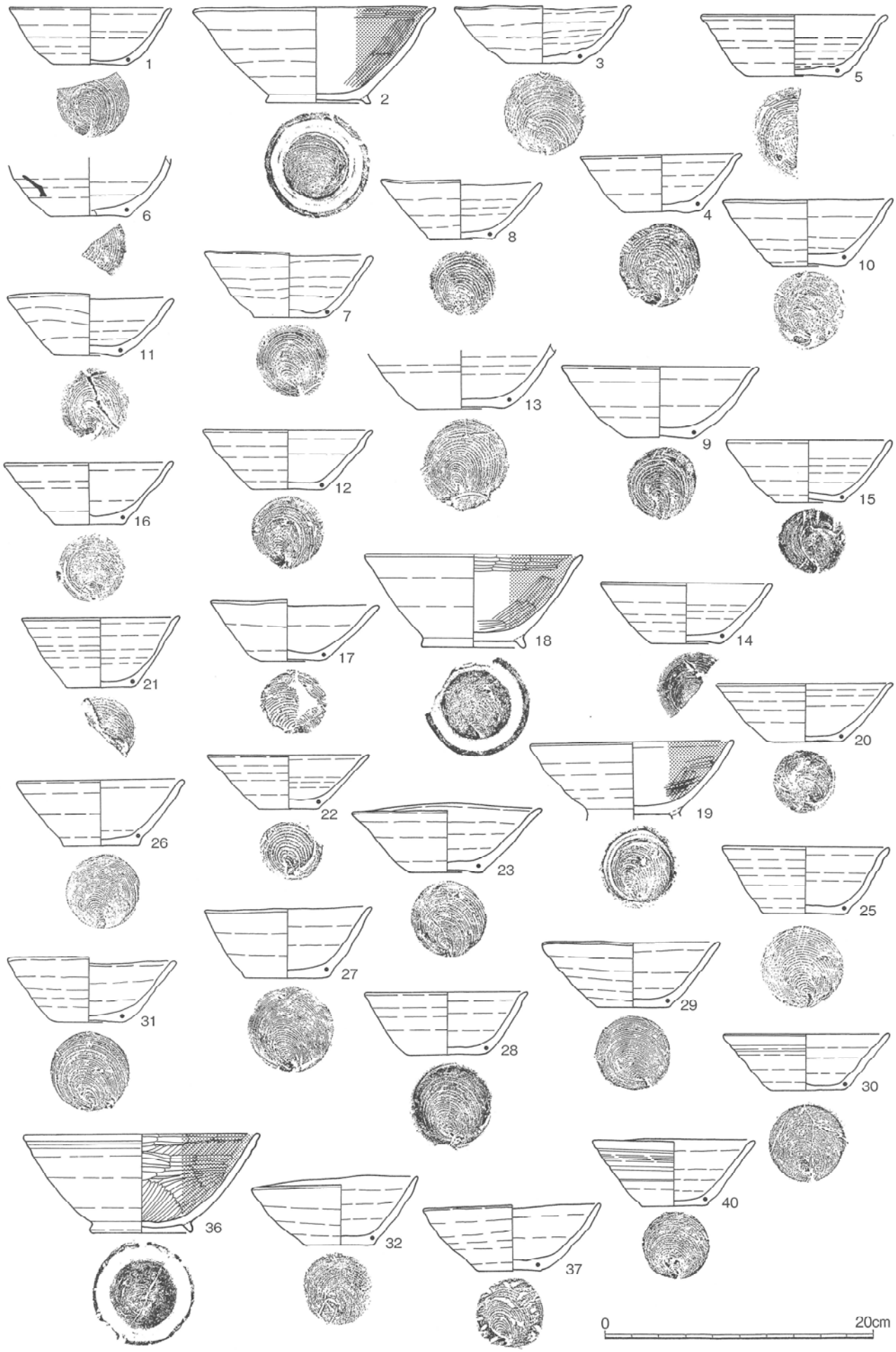
第24図　包含層出土遺物

口径が13cmとなり、対比率が3対2となる。底部の切り離しは回転ヘラ切りである。底部に「十」字の墨書が描かれている。207～210は赤焼土器である。208はヘラ切りで、他は糸切り離しである。211は須恵器の二面硯である。218・219・221は青磁である。碗形の破片である。224・225は中世陶器の擂鉢で、珠洲焼である。他に、砥石、釘、古銭が出土している。

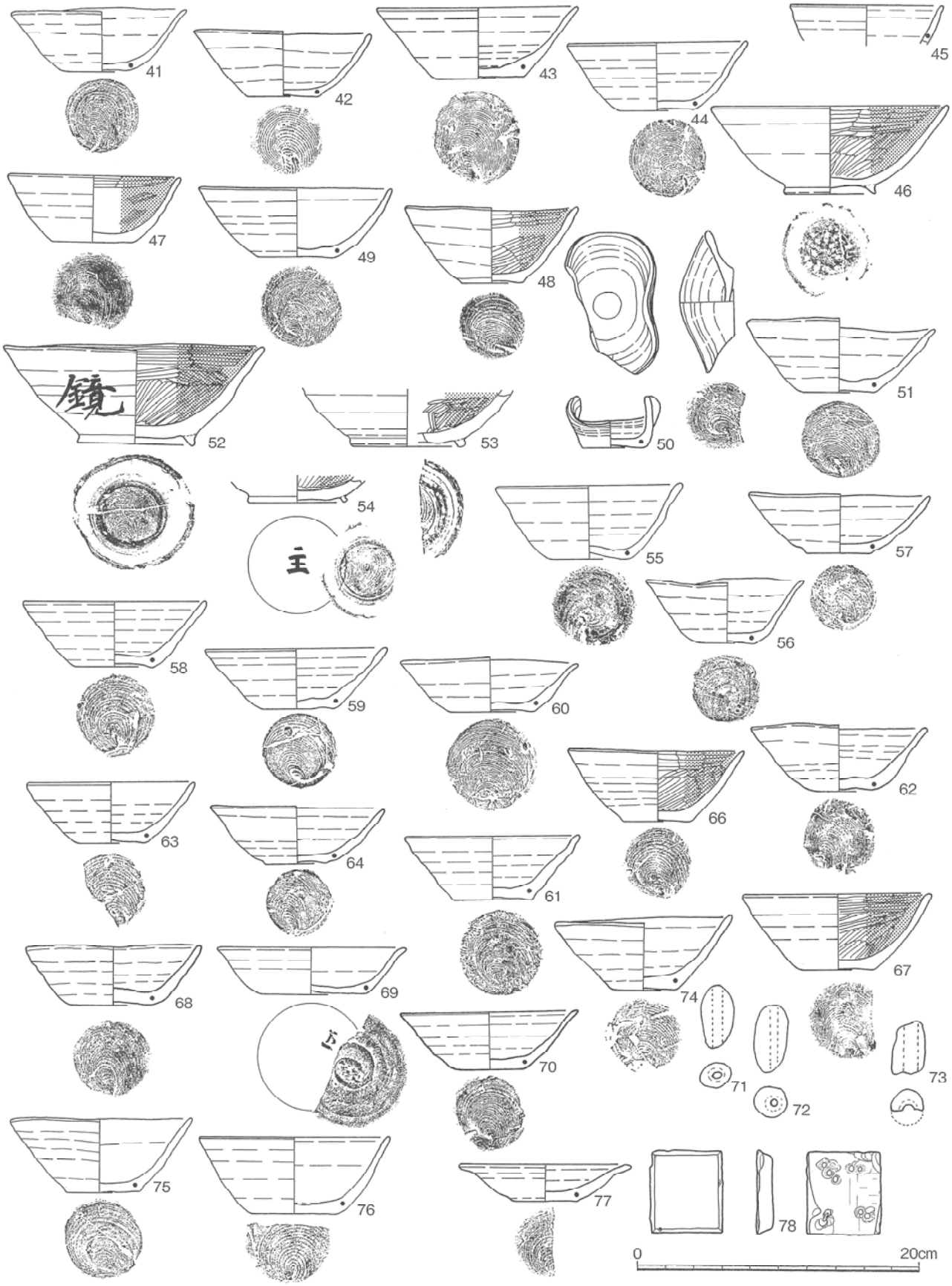
第25･26図では、調査開始以前の遺跡詳細分布調査出土の遺物を図示したが、ここでは説明を割愛する。

表6　出土遺物観察表(5)　性格不明遺構・包含層

挿図番号		器種		計測値(m/m) 口径	底径	器高	胎土	色調		調整技法	出土地点
第23図	189	赤焼	坏	128	52	46.5	細砂混	淡橙	5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	190		坏	132	50	38.5	粗砂混	灰白	7.5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	191		坏	131	48	40	粗砂混	淡橙	5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	192		坏	129	42	37	粗砂混	灰白	5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	193		坏	133	58	45	粗砂混	にぶい橙	5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	194		坏	135	47	46	粗砂混	にぶい橙	7.5YR6/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	195		坏	130	54	42	粗砂混	にぶい橙	5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	196		坏	133	49	46.5	粗砂混	にぶい橙	5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	197		坏	137	54	45	粗砂混	橙	5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_3$
	198		坏	140	58	45	粗砂混	にぶい黄橙	10YR6/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	199		坏	139	48	44	細砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	200		坏	—	54	—	粗砂混	橙	5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SX751F$_2$
	201		坏	112	—	—	粗砂混	淡橙	5YR8/3	ロクロナデ	SX751F$_2$
	202	土製品	土錘	長さ23　径11			細砂混	黒褐	5YR7/1		SX751F$_1$
	203		土錘	長さ25　径12			粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3		SX751F$_2$
第24図	204	須恵器	横瓶	—	—	—	緻密	黒	10YR1.7/1	外面　格子目状叩き　内面　青海波アテ痕　ヘラ横ナデ痕	19-17Ⅱ
	205		坏	131	81	41	緻密	褐灰	10YR6/1	回転ヘラ切り　ロクロ痕　底部墨書「十」	56-35
	206		高台坏	120	72	50	粗砂混	灰	10Y5/1	ロクロ痕	57-31Ⅱ
	207	赤焼	坏	133	48	50.5	粗砂混	にぶい橙	7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	51-39Ⅱ
	208		坏	140.5	60	41	粗砂混	淡橙	5YR8/3	ヘラ切り　ロクロナデ	56-35
	209		坏	128.5	51.5	41	粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	23-14Ⅲ
	210		坏	—	60	36	粗砂混	橙	7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	55-33Ⅲ
	211	須恵器	二面硯	長151	幅—	厚40	細砂混	灰	10YR5/1		52-30Ⅱ
	212	土製品	土錘	長さ48　径27			粗砂混	明黄褐	10YR7/6		RP65 19-14
	213		土錘	長さ56　径21			粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3		19-15Ⅱ
	214		土錘	長さ63　径23			粗砂混	浅黄橙	10YR8/4		20-13Ⅱ
	215		土錘	長さ59　径20.5			粗砂混	浅黄橙	10YR8/4		24-8Ⅲ
	216		土錘	長さ50　径22			粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3		53-31Ⅱ
	217		土錘	長さ67　径26			粗砂混	にぶい黄橙	10YR7/3		57-32Ⅱ
	218	青磁	碗	—	—	—	緻密	明緑灰	5G7/1	内外面　無文	X-0
	219		碗	—	—	—	緻密	明緑灰	7.5YR7/1	外面　蓮弁文　内面　無文	56-33Ⅲ
	220	緑釉陶器	碗	—	—	—	緻密	オリーブ灰	10Y6/2	内外面　ロクロ痕	56-37Ⅲ
	221	青磁	碗	124	—	—	緻密	明緑灰	5G7/1	外面　釉切れ　内面　無文	X-0
	222	金属製品	キセル	長さ65　幅16			—	緑灰色	5G6/1		52-30Ⅱ
	223		キセル	長さ64　幅10			—	緑灰色	5G6/1		20-16Ⅱ
	224	陶器	擂鉢	—	—	—	緻密	明黄褐	10YR6/6	八条の擂目	19-17Ⅱ
	225		擂鉢	—	—	—	緻密	にぶい黄橙	10YR6/3		53-32Ⅱ
	226	石製品	砥石	—	—	—	—	にぶい黄橙	10YR5/4		18-15Ⅱ
	227	鉄製品	釘	—	—	—	—	明黄褐	10YR6/8		51-39Ⅱ



第25図　遺跡詳細分布調査出土遺物(1)



第26図　遺跡詳細分布調査出土遺物(2)

表7　遺跡詳細分布調査出土遺物観察表（1）

挿図番号		器種		計測値（m/m）			胎土	色調	調整技法	出土地点
				口径	底径	器高				
第25図	1	赤焼	坏	122	54	43	細砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SP55
	2	内黒	高台坏	182	78	71.5	緻密	にぶい黄橙 10YR6/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SE1Y
	3	赤焼	坏	133	54	43	細砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SE1 掘り方
	4		坏	120	58	42	粗砂混	にぶい橙 5YR6/4	回転糸切り　ロクロナデ	SE1
	5		坏	142	70	46.5	細砂混	にぶい黄橙 10YR6/4	回転糸切り　ロクロナデ	SE1 掘り方
	6		坏	—	60	—	粗砂混	にぶい黄橙 10YR6/4	回転糸切り　ロクロナデ　外面墨書	SE1
	7		坏	128	54	50	細砂混	にぶい黄橙 5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK2F
	8		坏	122	49	46	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK2
	9		坏	148	50	53	細砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK3
	10		坏	128	54	50	粗砂混	にぶい橙 5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK3
	11		坏	126	53	47	粗砂混	橙 7.5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK3
	12		坏	128	54	45	粗砂混	にぶい橙 5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK3
	13		坏	—	66	—	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK3
	14		坏	129	54	45	粗砂混	橙 5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK3
	15		坏	125	51	49	粗砂混	にぶい橙 5YR6/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK4F
	16		坏	127	52	47	粗砂混	橙 7.5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK4F
	17		坏	128	47	45	細砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK4
	18	内黒	高台坏	164	78	69.5	緻密	淡橙 5YR8/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK9F
	19		高台坏	154	—	—	緻密	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SK9F
	20	赤焼	坏	134	56	45	細砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK9
	21		坏	118	52	52	細砂混	明赤褐 5YR5/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK9
	22		坏	122	45	41	粗砂混	淡橙 5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK11F
	23		坏	144	54	52	粗砂混	にぶい赤褐 5YR5/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK22
	24		坏	134	51	53	粗砂混	にぶい褐 7.5YR6/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK22F
	25		坏	126	64	50	粗砂混	橙 5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK22F
	26		坏	127	58	49.5	細砂混	にぶい褐 7.5YR6/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK22
	27		坏	125	65	53	粗砂混	にぶい橙 5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	28		坏	123	60	48	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	29		坏	133	53	49	粗砂混	橙 7.5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	30		坏	126	56	43	細砂混	にぶい褐 7.5YR6/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	31		坏	127	56	49	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK26Y
	32		坏	126	52	51	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	33		坏	120	51	50	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	34		坏	126	50	48	粗砂混	にぶい橙 5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK26F
	35		坏	156	75	53.5	細砂混	淡橙 5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SK26
	36	内黒	高台坏	178	78	73	細砂混	にぶい橙 5YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD5F
	37	赤焼	坏	133	48	51	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD5
	38		坏	136	50	50	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD5
	39		坏	128	48	47.5	粗砂混	淡橙 5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD5F
	40		坏	122	49	50	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD5F
第26図	41	赤焼	坏	127	52	45.5	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD5
	42		坏	128	53	48	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD5
	43		坏	145	66	50	粗砂混	淡橙 5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD6F
	44		坏	130	55	48	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD6F
	45		坏	110	—	—	粗砂混	橙 7.5YR7/6	墨壷転用か？	SD6
	46	内黒	高台坏	170	66	63	細砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	ヘラミガキ→黒色化	SD7
	47		坏	125	60	48.5	細砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化　二次焼化あり	SD7

表8　遺跡詳細分布調査出土遺物観察表（2）

挿図番号		器種		計測値（㎜/㎜）			胎土	色調	調整技法	出土地点
				口径	底径	器高				
第25図	48	内黒	坏	125	45	57	緻密	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD7
	49	赤焼	坏	139	55	51	粗砂混	淡橙 5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD7
	50		耳皿	105 57	51	38.5	粗砂混	淡橙 5YR8/4	回転糸切り	SD7F
	51		坏	136	54	52.5	粗砂混	橙 7.5YR7/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD7
	52	内黒	高台坏	189	85	72	粗砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化　外面墨書「鏡」	SD8
	53		高台坏	—	80	38	細砂混	にぶい黄橙 10YR7/3	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD8
	54		高台坏	—	70	20	粗砂混	灰白 10YR8/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化　底部墨書「主」	SD8F
	55	赤焼	坏	134	56	53	粗砂混	にぶい黄橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ　墨付着	SD8
	56		坏	114	45	46	粗砂混	にぶい黄橙 7.5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	57		坏	131	42	44	粗砂混	橙 5YR6/8	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	58		坏	132	58	47	粗砂混	橙 5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	59		坏	132	52	43.5	細砂混	灰白 5YR8/2	回転糸切り　ロクロナデ	SD8F
	60		坏	128	60	39	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	61		坏	126	57	45	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	62		坏	128	45	48	粗砂混	にぶい橙 7.5YR6/4	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	63		坏	121	51	43.5	粗砂混	橙 5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	64		坏	126	46	41	粗砂混	橙 5YR6/6	回転糸切り　ロクロナデ	SD8
	66	内黒	坏	127	50	50	細砂混	灰褐 5YR6/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD21F
	67		坏	136	54.5	54	粗砂混	明褐灰 5YR7/2	回転糸切り　ヘラミガキ→黒色化	SD21F
	68	赤焼	坏	127	60	42	粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD46F
	69		坏	136	76	33	粗砂混	灰白 10YR8/2	ヘラ切り　ロクロナデ　墨書	SD50
	70		坏	128	54	41.5	粗砂混	浅黄橙 7.5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SD60F
	71	土製品	土錘	長さ50　径24			細砂混	明褐灰 7.5YR7/2		SD103F
	72		土錘	長さ45　径22.5			細砂混	明褐灰 7.5YR7/2		SD103F
	73		土錘	長さ38　径23.5			粗砂混	にぶい橙 7.5YR7/3		SD103F
	74	赤焼	坏	129	46	58	粗砂混	淡橙 5YR8/3	回転糸切り　ロクロナデ	SX30F
	75		坏	131	55	53	粗砂混	淡橙 5YR8/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX30F
	76		坏	138	63	54.5	粗砂混	にぶい橙 5YR7/4	回転糸切り　ロクロナデ	SX100F
	77		皿	124	48	26	粗砂混	淡橙 5YR8/3	回転糸切り	SX100
	78	石製品	石帯	長さ29.5　厚さ5			—	黒 7.5YR1.7/1		X-0

V　まとめ

本書は、平成４年度県営圃場整備事業（月光川上流地区）に係る石田遺跡の調査成果をまとめたものである。調査は、調査時期（5月～８月）の関係から麦転作地を早く完了させるため、前年度の遺跡詳細分布調査で確認された遺構、遺物が集中する地域の中で、整備事業計画により遺構、遺物が存在する地域が削平される遺跡北部（A区）を早めの５月11日から開始し、転作作物を早刈りし７月10日に調査を終了した。南東部(B区)は、引き続き調査区域として進めた。グリッドは、A区からB区にかけて５ｍ単位に升目の調査区とし、A区（9～22－6～20グリッド5000㎡)、B区(50～60－29～43グリッド3,000㎡)の計8,000㎡を調査した。

1　遺構について

A区で検出された遺構は、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、組合わすことが出来なかった柱穴のほか、旧河川跡、現水田以前に設置された旧排水路等が確認された。検出され遺構として登録された数はA区では311遺構、B区では387遺構を数え、総数698遺構である。遺構は掘立柱建物跡、土坑、組合わすことが出来なかった柱穴、溝状遺構、性格不明遺構、柱穴列、旧排水路等が確認された。A区での遺構からの様相では、ＳＧ21とした旧河川跡の南岸に集落を構えている。調査からは遺構の広がりが東部に広がる様子が窺える。建物跡は三棟確認している。東西四間、南北三間の建物、東西三間、南北二間が二棟の計三棟である。各々近接し重複するが、東西棟である。旧河川の流路に沿った存在で、第16図に柱穴内出土の遺物を図示した。ＳＢ１建物跡の柱穴の埋土からは、１・２の赤焼土器甕片と、14の内黒土器坏が出土している。時期は、14の坏の底部には糸切り離しが施されていることや、柱穴の上部に火山灰が混入していることから、10世紀第１四半期と推測される。

土坑は、A・B区で79基が確認されている。第８～12図には断面から観察した掘り込みの形状から三つに分け図示した。ひとつは形状がやや広くなるU字状で、30～50㎝と深い土坑（ＳＫ31・32・66・525・527）である。覆土は、暗黒褐色粘質土や黒褐色粘質土で、炭化物粒子や炭化物ブロックを含む。土坑中位に土器片や礫が混在し、不燃物を遺棄した土坑と推測する。もうひとつは皿状となる浅い形状で、断面の深さが７～18㎝の土坑（ＳＫ22・24・25・28～30・33・34・36・37 ～ 39・42・44・48・49・52・60・69・71・72・75・78・98・115・116・510・528～530・573・601）である。土坑の確認面には土器等の遺物が多く検出されている。蓄えを行う穴として掘り込まれたものと推測する。また、前述の二つの遺構に組みされない中間の20～28㎝の深さで、断面形が台状となる土坑（ＳＫ41・46・47・50・70・502・527・756・758・760）がある。中でも、

中位の深さの部類にしたＳＫ 46 土坑（第９図）は、ＳＫ 47 土坑と重複し、確認面ではＳＫ 46 土坑がＳＫ 47 土坑を切り込んで掘り込まれ、ＳＫ 47 土坑が廃棄された後にＳＫ 46 土坑が営まれたものと考える。ＳＫ 46 土坑の確認面上面一帯には白色の火山灰が丸く帯状に径約 120 ㎝に広がり、一瞬に流入した感が窺がえる。埋没時期が限定される証左である。

溝状遺構は第 12 ～ 15 図に記録した溝跡を載せた。ほとんどが南北に掘り込まれ、数条がまとまるものが認められた。また、第４図で示したＢ区のＳＤ 771 溝跡とＳＤ 766 溝跡のように東西方向に平行する溝も確認された。両溝間の幅は 220 ～ 250 ㎝、両溝の長さは 15 ｍ程で調査区壁に切られるものの、道路状に存在している。Ｂ区で確認された数条にまとまった溝跡は、同方向に３～ 10 ｍほどに存在し、あたかも畑の排水に掘り込まれた感を示す。土壌の分析を実施していないため用途は不明だが、幅７ｍ、長さ 12 ｍの範囲に集中していることから推測した。これら溝状遺構の中には、覆土に白色の火山灰が流入しているものもあり、土坑と同様の様相を示し、営まれた時期が推定される。

２　出土遺物について

本遺跡からの出土遺物には、土師器、内黒土器、須恵器、赤焼土器、陶磁器、土製品、石製品、鉄製品等がある。土器は赤焼土器が出土遺物中最も多い。第Ⅳ章では器形や法量について簡単に記載したが、10 世紀を中心とした形状を窺がわせる。しかし土師器は８世紀台末の様相がみえる。甕形土器が主体で、それに伴う須恵器の短頸壺や甕等の古い様相を呈する土器が出土している。土坑や溝状遺構からの出土が多く、廃棄や、豪雨による流入によってもたらされた感を受ける。特に、土坑や溝状遺構には白色の火山灰が充満する遺構が確認されており、平安時代延喜 15 年（915）扶桑略記に「出羽国言上雨灰降高二寸」の記載があることから、時期的な移行としては 10 世紀代第１四半期から第３四半期の遺物と推測する。

３　遺跡の性格について

遺跡は圃場整備という限定された範囲での調査であったが、前年度の遺跡詳細分布調査を含め、東西約 700 ｍ、南北 600 ｍの 42 万㎡という広範囲な遺跡の内、調査面積 8,000 ㎡という約 2％の調査面積であったが、遺構では建物跡や、土坑、溝状遺構等が、分布調査では土坑、溝状遺構、井戸跡等が確認されたほか、遺物では、共膳形態の坏・皿・碗形土器、煮沸形態の甕形土器、貯蔵形態の壺・甕等が出土している。また、硯、石帯、土錘、砥石等も出土している。時期は降灰の記録から平安時代の 10 世紀第１四半期を中心に営まれた遺跡と推測する。しかし、遺物で石帯が出土することから、周辺に存在する公的機関に勤務する者の集落と考える。これらについては再度、遺構や遺物を検討し、飽海地区での平安時代の社会や様相を考えることが必要である。

報告書抄録

ふりがな	いしだいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	石田遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第184集
編集者名	野尻 侃・阿部 明彦・渡辺 俊一
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
所在地	〒999－3161　山形県上山市弁天二丁目15番地1号　TEL 023－672－5301
発行年月日	西暦1993年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査期間 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしだいせき 石田遺跡	やまがたけん 山形県 あくみぐん 飽海郡 ゆざまち 遊佐町 おおあざのざわ 大字野沢 あざいしだ 字石田	6461	2108	39° 1′ 59″	139° 54′ 41″	19920511 ～ 19920821	8,000	県営ほ場 整備事業 (月光川上流)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石田	集落跡	平安時代	堀立柱建物跡 井戸跡 土坑 溝状遺構 旧河川跡	土師器 須恵器 赤焼土器 硯 土錘 砥石 青磁	延喜15年(AD915年)に降灰した記録がある火山灰が本遺跡の遺構に推積している。

図　　版

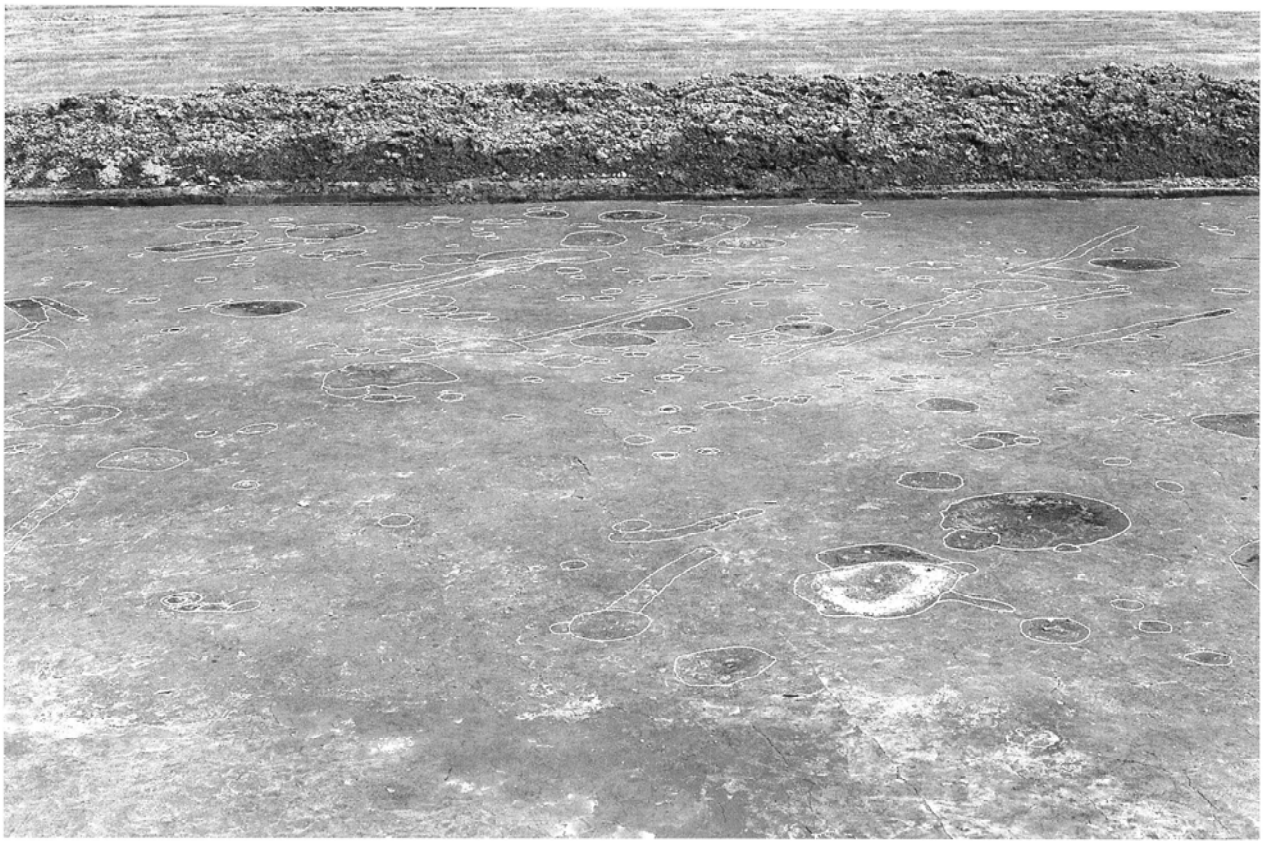
遺跡全体航空写真（A区）

遺跡全体航空写真（A区）

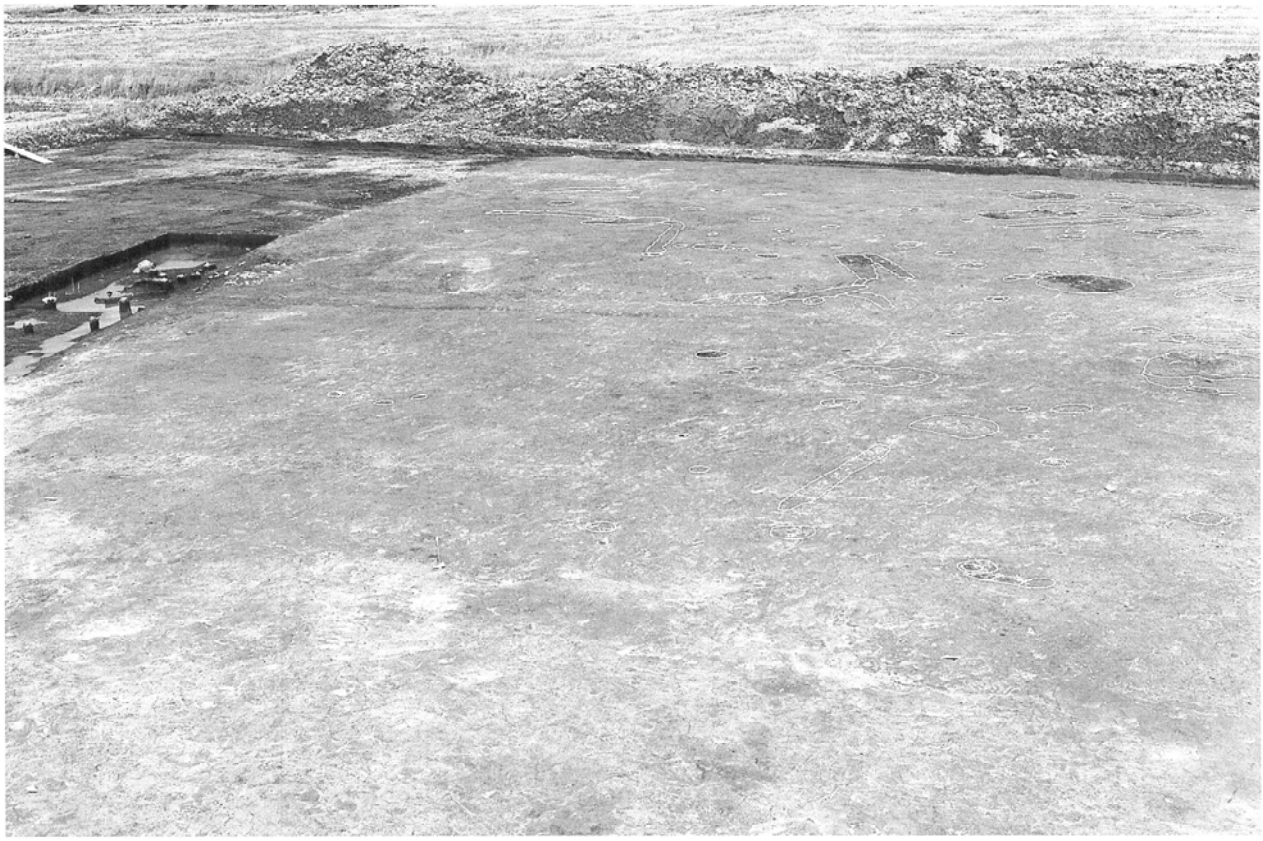
図版２

遺跡遠景（北東から）

A区遺構検出状況（南部）



A区遺構検出状況（中央部）



A区遺構検出状況（北部）

図版 4

B区遺構検出状況（北半部）

調査風景

A区遺構検出状況全景

図版 6

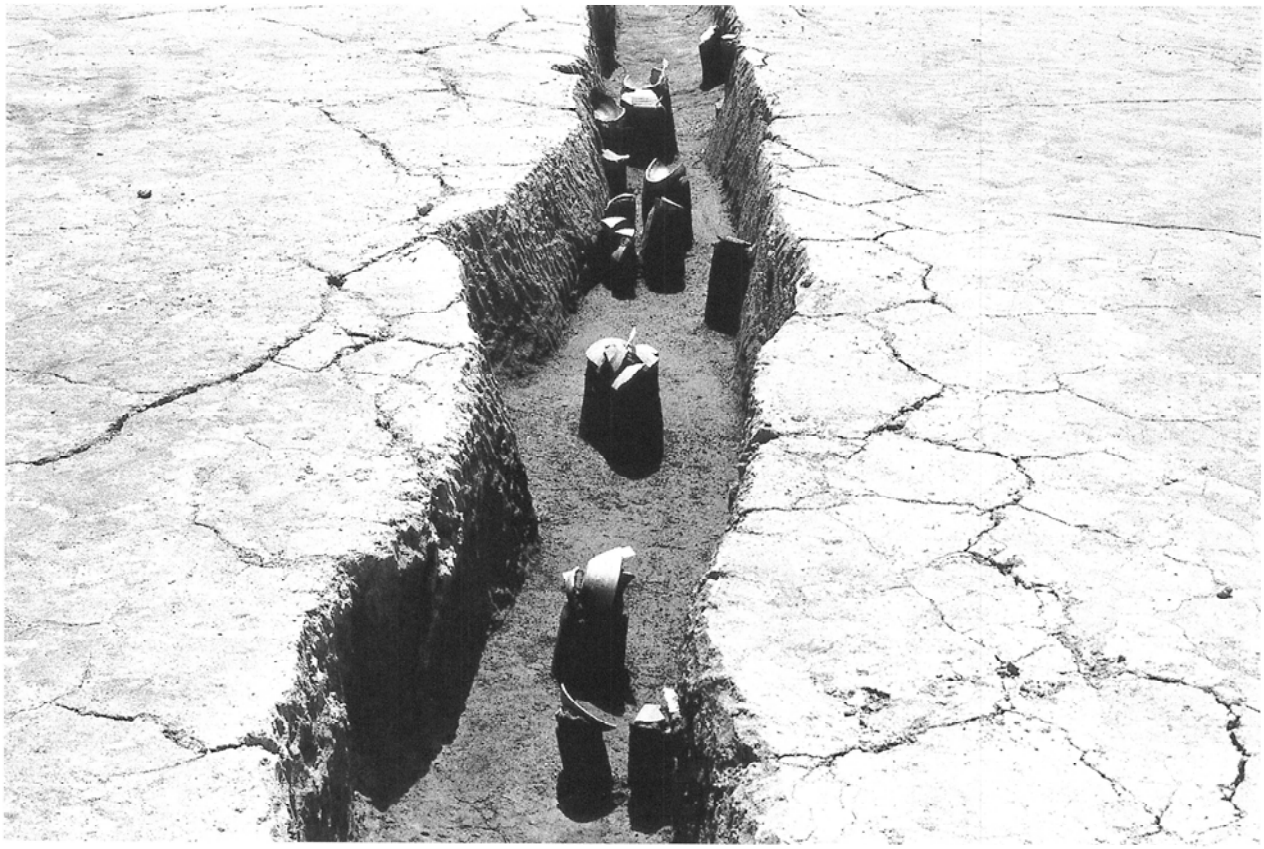
SB1・2・3建物跡検出状況

SB4建物跡検出状況

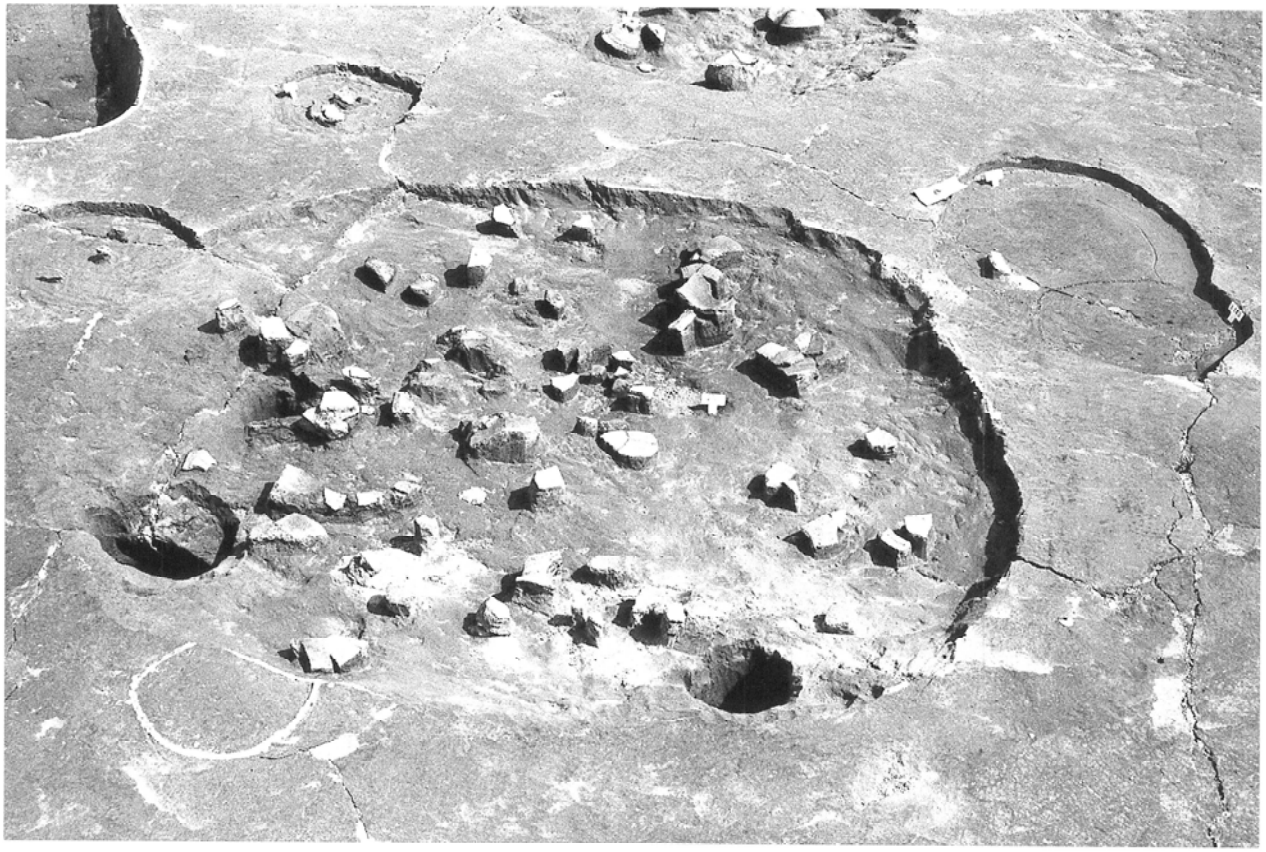
SB5建物跡検出状況

SK75土坑土層断面

図版 8



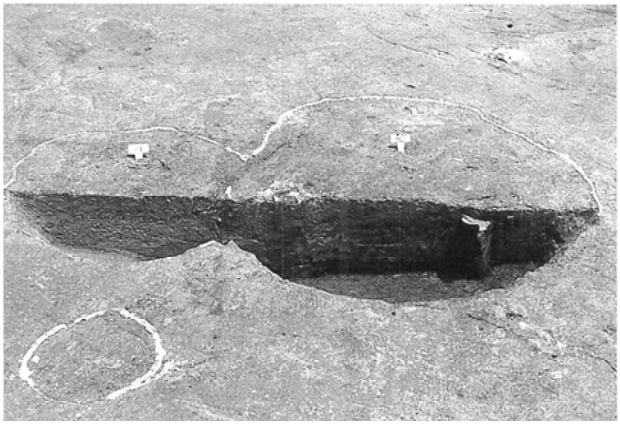
SD67溝状遺構



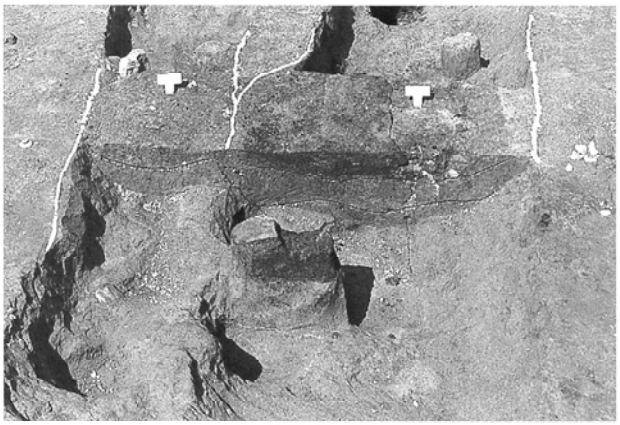
SK24土器出土状況

SK31 土坑土層断面

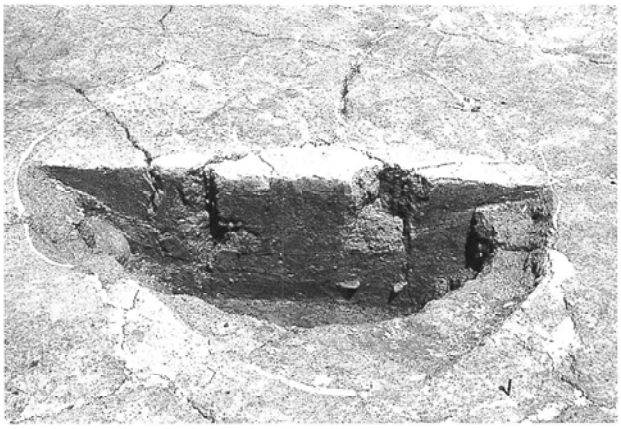
SK32 土坑土層断面



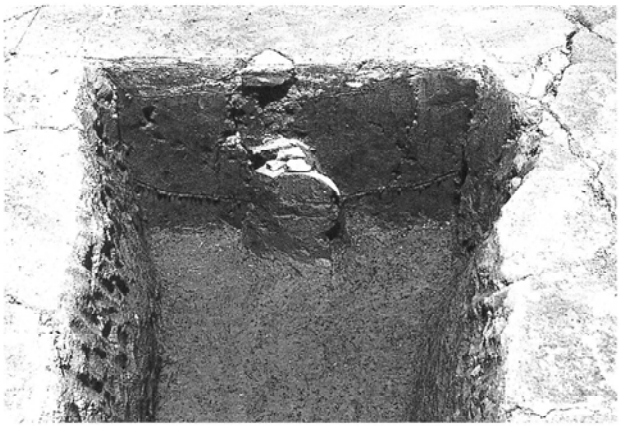
SK50 土坑・EP84 ピット土層断面



SD55・56 溝状遺構土層断面



SK66 土坑土層断面



SD67 溝状遺構土層断面

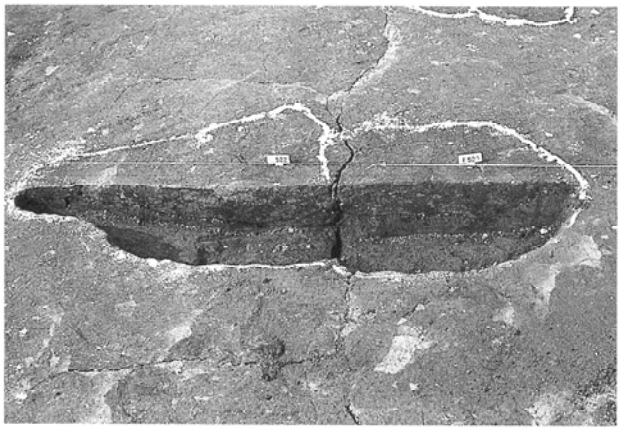
SK70 土坑土層断面

SD73・74 溝状遺構土層断面

図版 10

SD520 溝状遺構土層断面

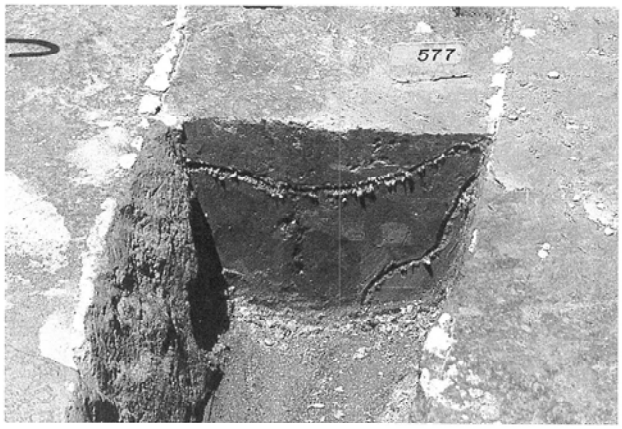
SD520 溝状遺構土層断面



SK522・523 土坑土層断面

SD534・535 溝状遺構土層断面

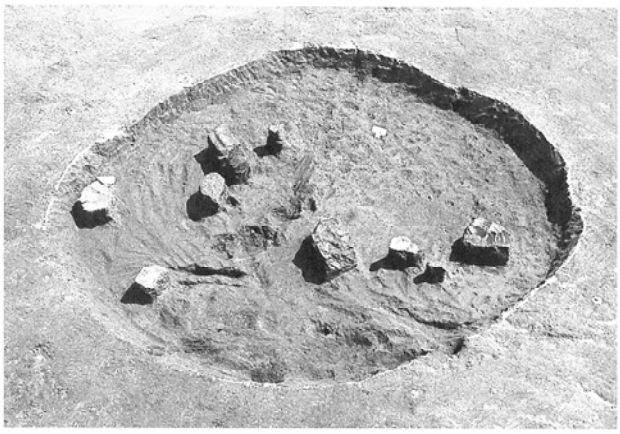
EP549 ピット土層断面



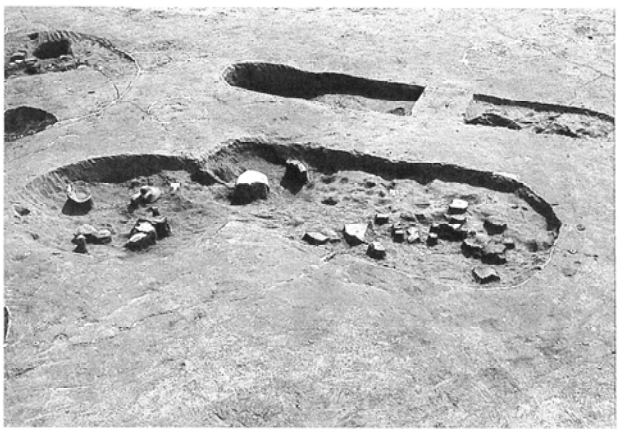
SD577 溝状遺構土層断面

SD560 溝状遺構土層断面

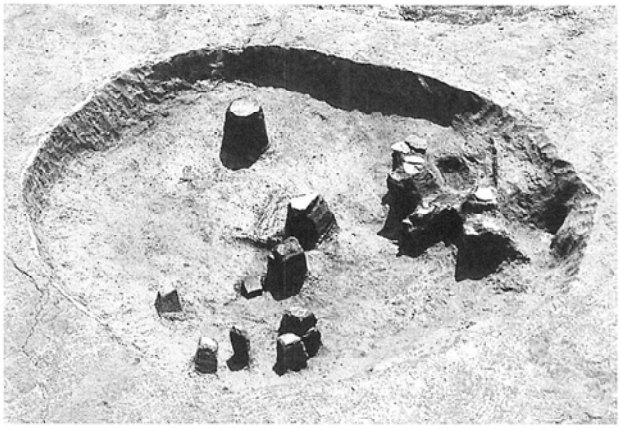
SD557 溝状遺構土層断面



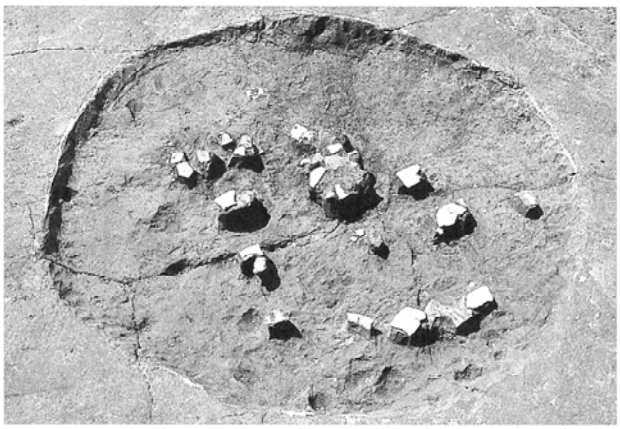
SK22 遺物出土状況



SK23・25 遺物出土状況



SK28 遺物出土状況



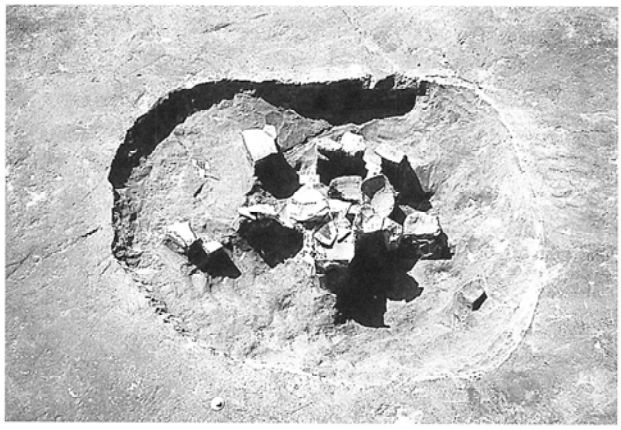
SK33 遺物出土状況

SK38 遺物出土状況

SK42 遺物出土状況

SK50・84 遺物出土状況

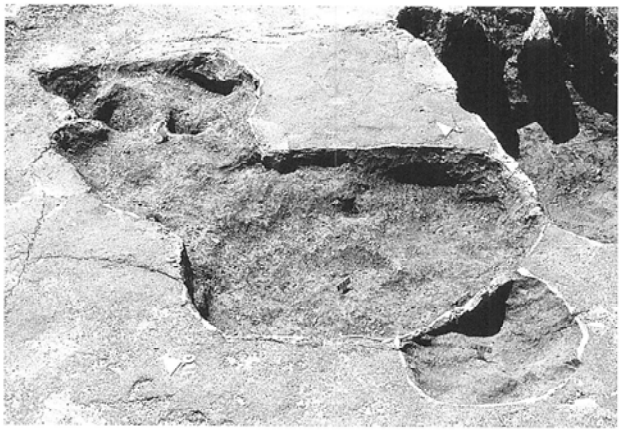
SK52 遺物出土状況



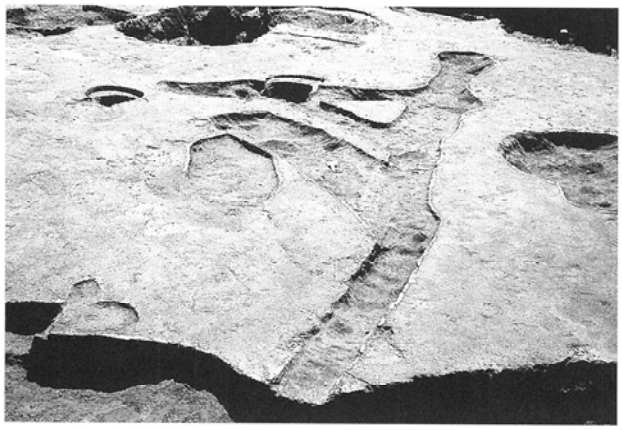
SK48 遺物出土状況

SK75 遺物出土状況

EP504・507 完掘状況



EP572・573・508 完掘状況

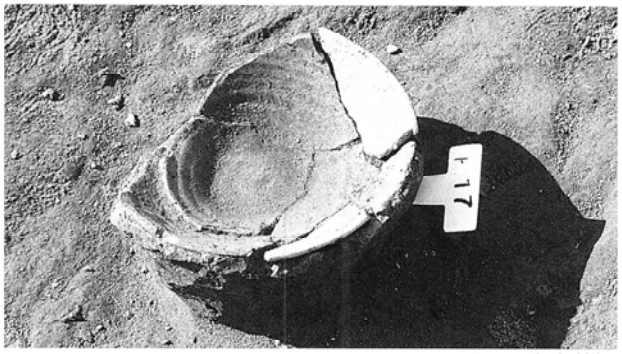


SD532・575・576・571 完掘状況

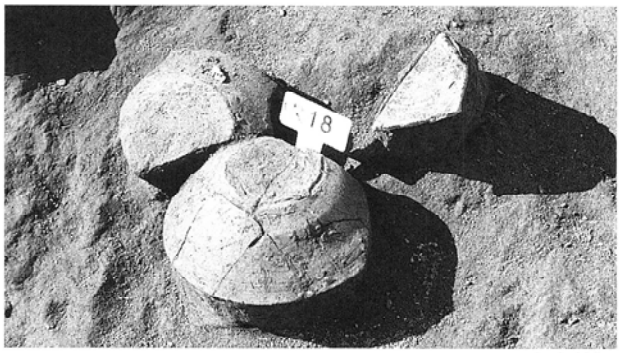
SK756 完掘状況

SK760 完掘状況

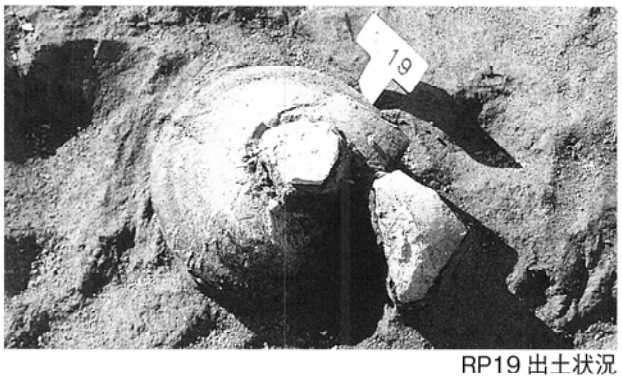
EP764 完掘状況



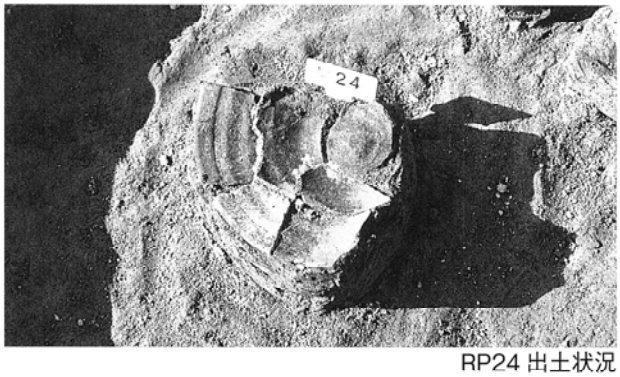
RP17 出土状況



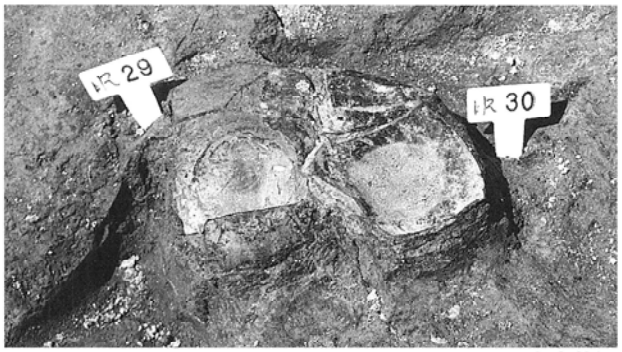
RP18 出土状況



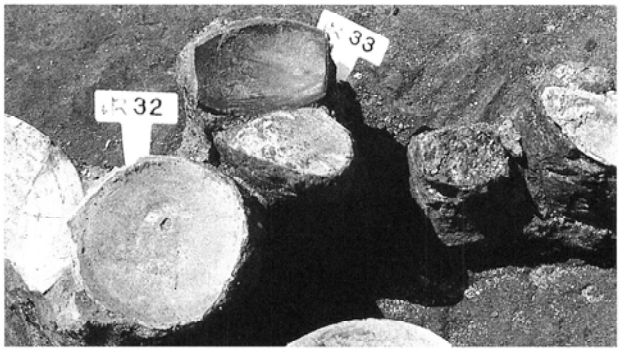
RP19 出土状況



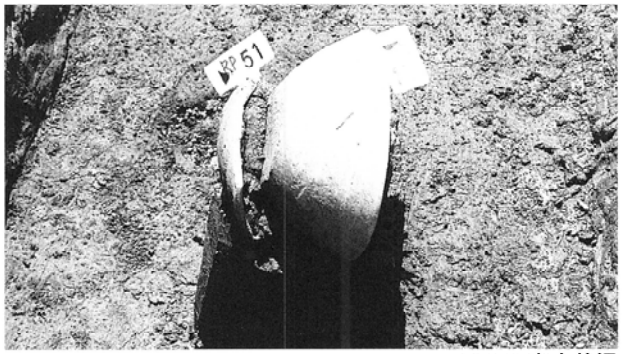
RP24 出土状況



RP29・30 出土状況

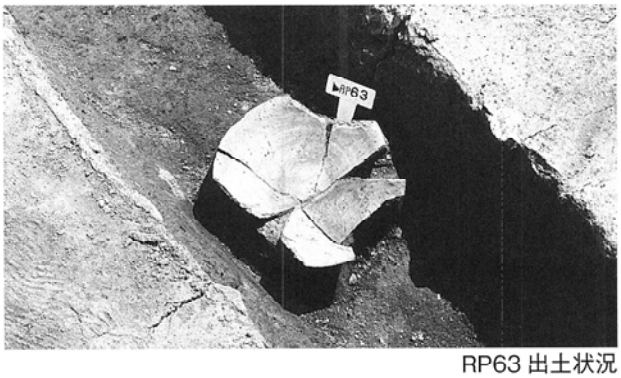


RP32・33 出土状況

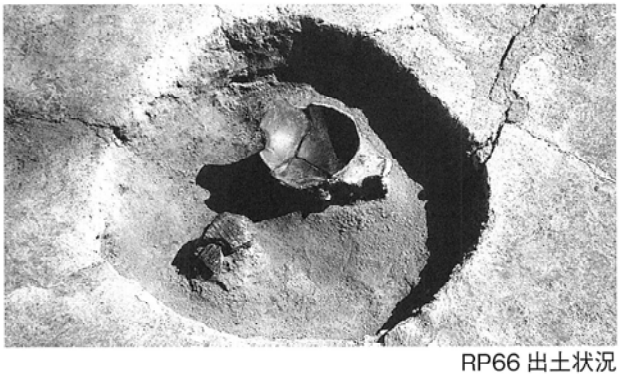


RP51 出土状況

RP54 ～ 56 出土状況



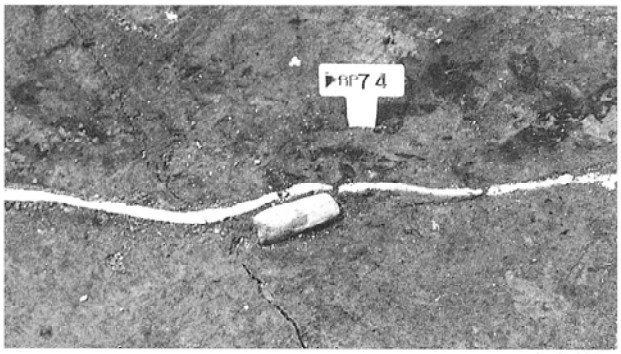
RP63 出土状況



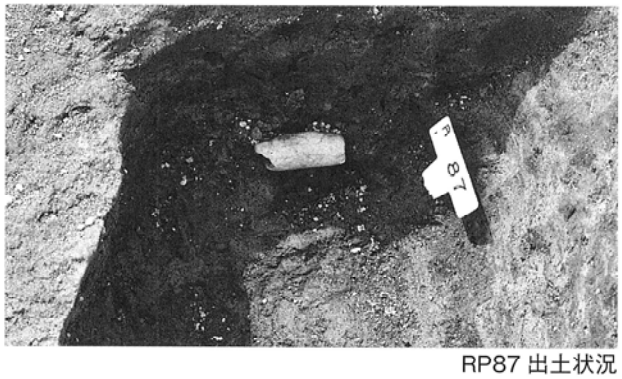
RP66 出土状況

図版 14

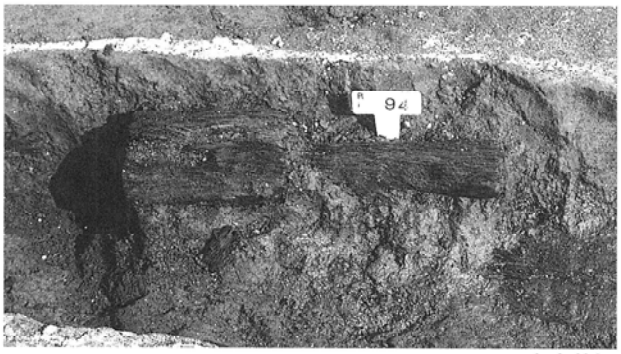
RP72 出土状況



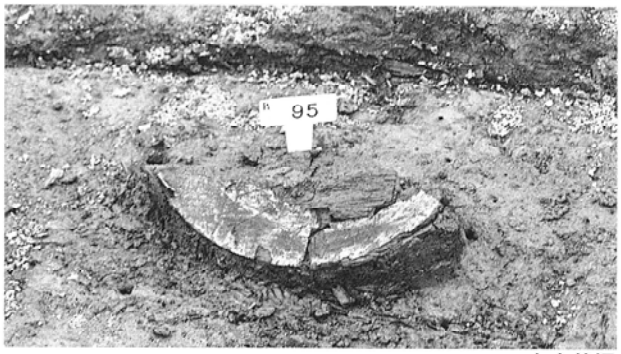
RP74 出土状況



RP87 出土状況



RW94 出土状況

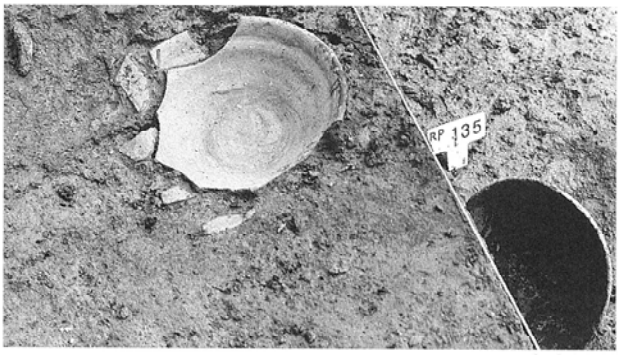


RW95 出土状況

RW117 出土状況

RW122 出土状況

RW127 出土状況



RP134・135 出土状況

RP137 出土状況

4

5

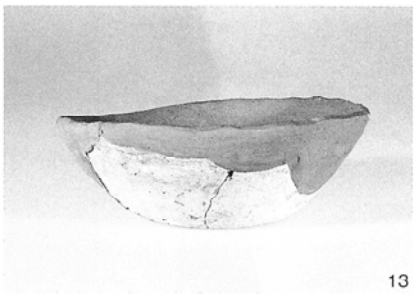
6

8

9

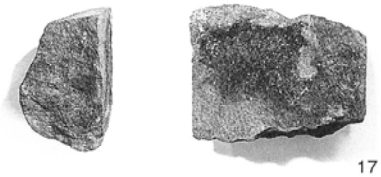
10

11


13

15

16


17

18

19

20

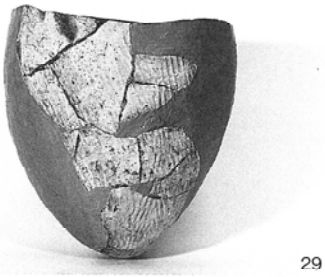
21

24

26

27

図版 16


29

32 31 30

33

34

35

36

37

39

40

41

44

45

46

47

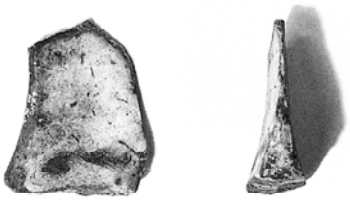
48

49

50

51

52


53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

67

68

69

70

71

72

73

74

75

77

78

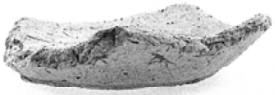
79

80

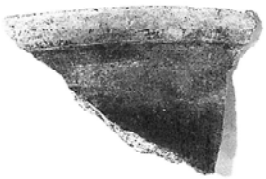
81

82

83


84

85


86

88

89

90

91

92

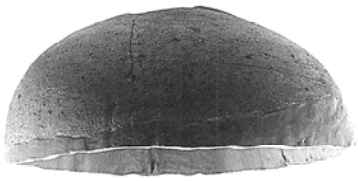
94

95

96

97

98


99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

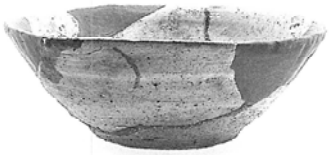
115

116

117

118

119


120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

140

141

142

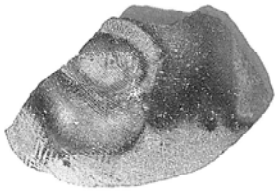
143

144

145

146

147


148

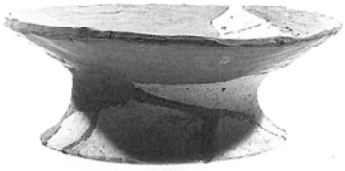
149

150

153

154

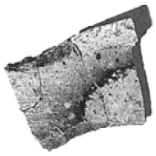
155

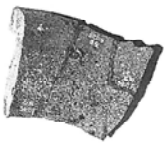

156

157

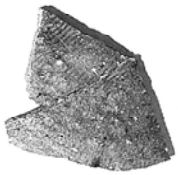
159

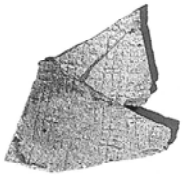
160



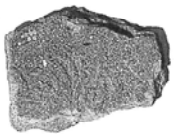


161



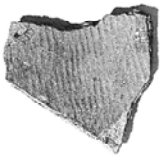


162

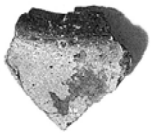


163

164



165



166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

図版 24

194

195

196

197

198

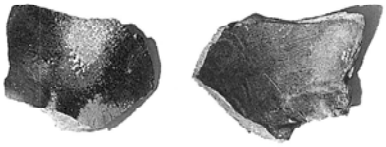
199

200

201

202

203


204

205

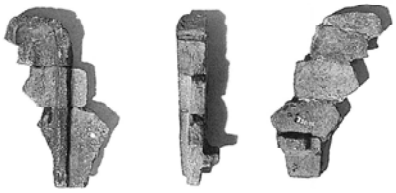
206

207

208

209

210


211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

224

225

228

229

230

231

232

233

234

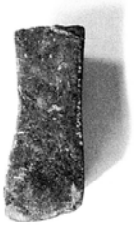
235

236

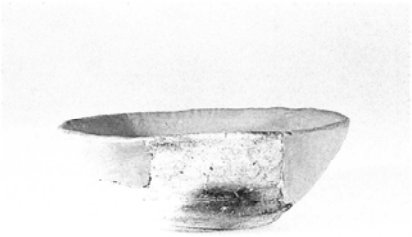
227

222

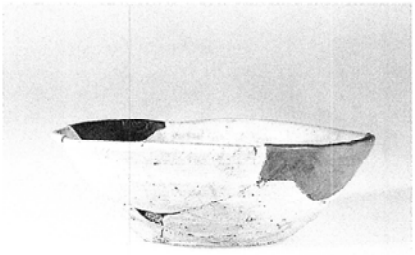
223

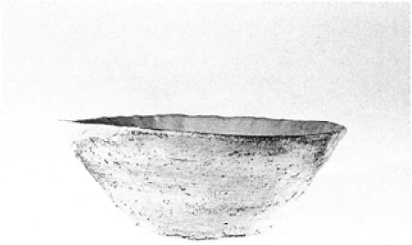


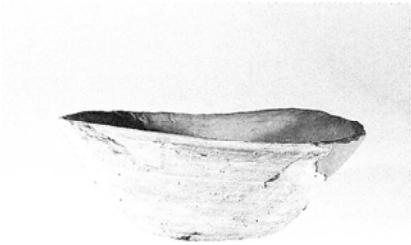
226


分—1

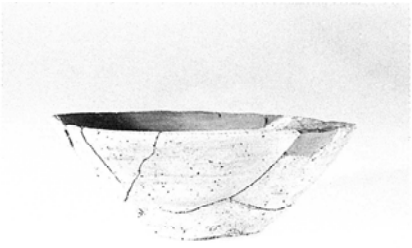
分—2

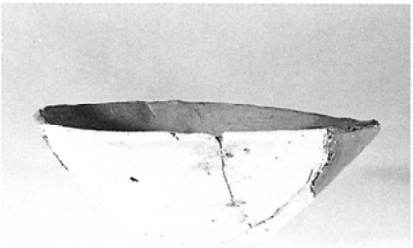

分—3

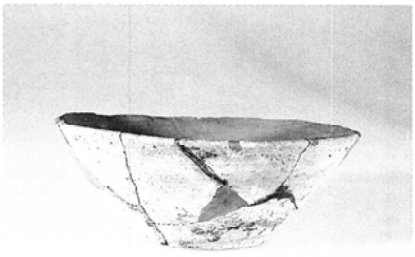

分—4


分—5

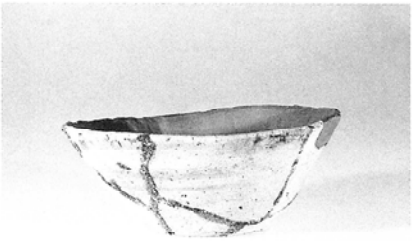
分—7

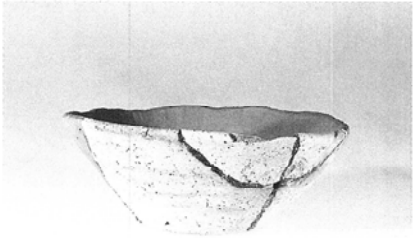

分—8

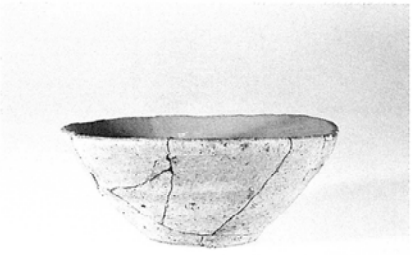

分—9

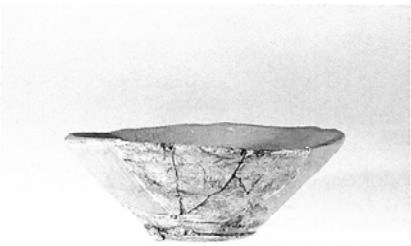

分—10

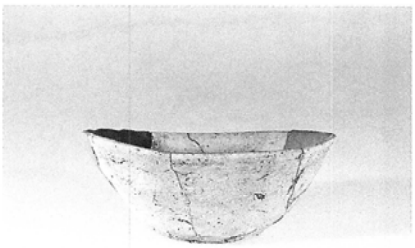
分—11

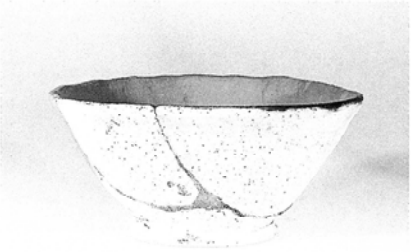

分—12

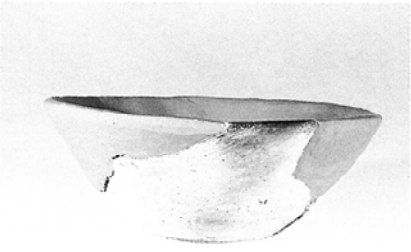

分—14

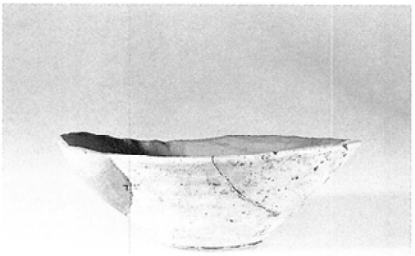

分—15

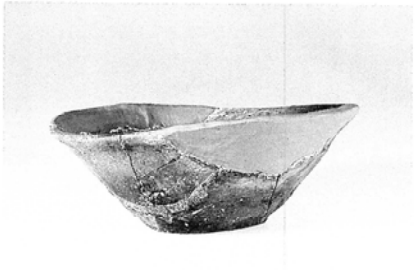

分—16


分—17


分—18

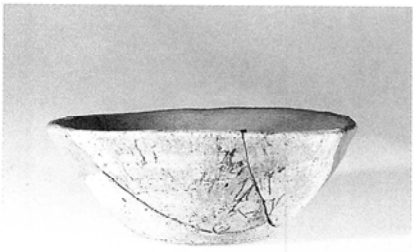

分—19


分—22


分—23

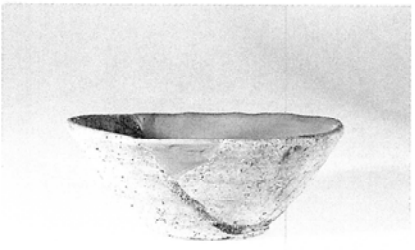
分—25

分—27


分—28

分—29

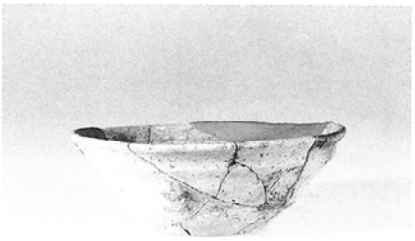
分—31


分—32

分—36

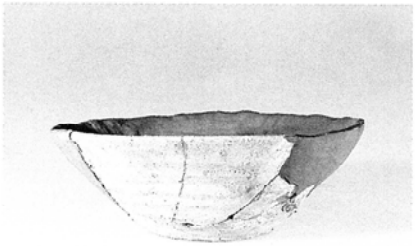
分—37

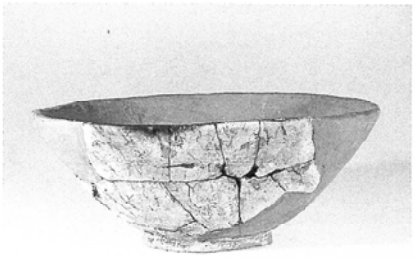
分—40

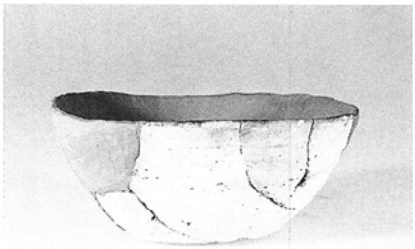

分—41

分—42

分—43


分—44


分—46


分—47

分—48

分—68

山形県埋蔵文化財調査報告書第184集

石田遺跡

発掘調査報告書

平成5年3月31日発行

発　行　山形県教育委員会

印　刷　株式会社 田宮印刷所